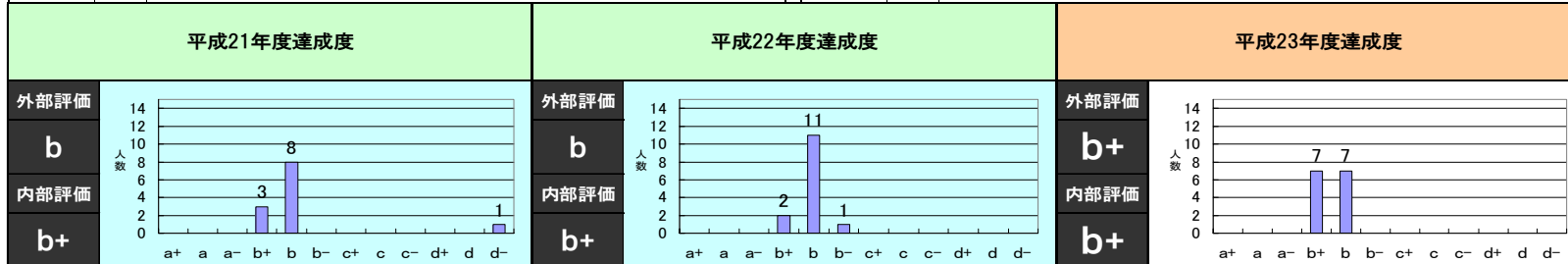


平成23年度
しあわせ倍増プラン2009
【委員評価一覧】

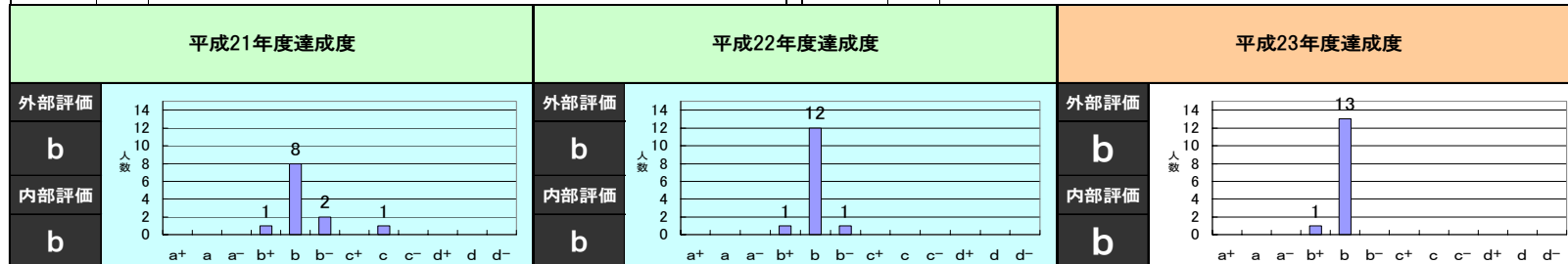
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c , d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合		H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由		
行動宣言	I-1	マニフェスト検証大会を毎年開催。	4年以内	・平成21年度から平成24年度までの「しあわせ倍増プラン2009」の達成状況を、毎年度1回開催する市民参加による検証大会において検証します。	①市民評価委員会の開催により、全項目について外部評価を実施 ②市民評価報告会開催（10月頃）	①市民評価委員会を10回開催し、全項目の外部評価を実施した。 △市民評価委員会を前倒しし、予算等に反映 ②市民評価報告会1回開催（10月15日開催） 参加者約130名	b+	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。市民評価委員会開催に当たって、時期を前倒しし、予算等に反映できたことを加点評価した。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの作業実績である。
河西委員	b	多数の事業が取り組まれていて、それぞれの事業が立てにも横にも斜めにも繋がっているのだなと思いました。	橋本委員	b+	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。予算編成に“声”が届くのは大変良いことだと思います。
木島委員	b	目標通りの進捗。但し、市民評価報告会への参加者数、参加者の範囲(職業など)を拓げるための取り組みが必要と考える。	廣瀬委員	b+	予算への反映について加点
栗原委員	b+	—	福崎委員	b+	—
須藤委員	b+	1. 標準どおりの進捗と判断。 2. 報告会の参加者もますますであり、市民評価委員会の前倒し開催→次年度予算への反映を加点。	星野委員	b+	目標通りの進捗と評価します。予算等に反映した件を加点評価。
高木委員	b+	市民評価委員会を前倒しし、予算等に反映したことを加点評価した。	町田委員	b	継続しての評価委員会の開催は予定どおりと評価する。評価した内容が今後の市民の参加を促せるか、また行政が市民に身近に感じられようようになるかを見守っていききたい。検証大会などの様子を、インターネットネット回線による中継や意見集約など広く市民に意見を問う方法もできると思う。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り進捗した。予算反映は目標のうちと判断して、特に加点評価はしない。



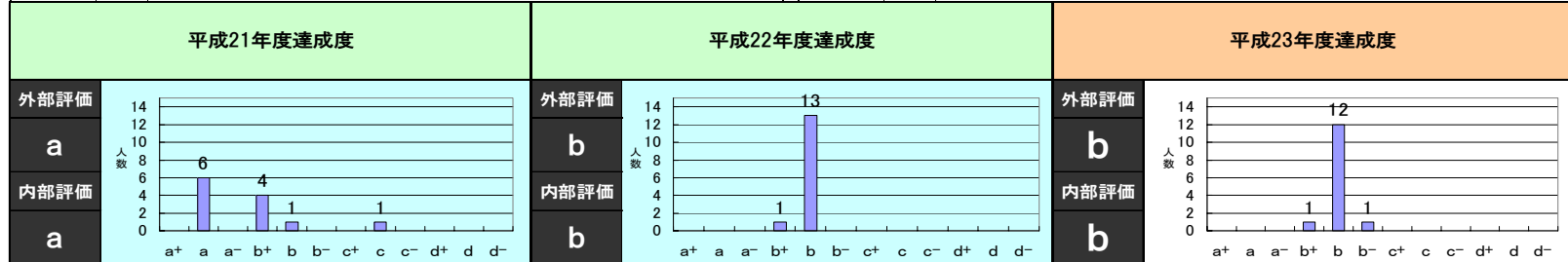
宣言分野	事業番号	倍增プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
行動宣言	1-2	タウンミーティングを全10区で計40回開催。	4年以内	・平成24年度末までに、市民の声を迅速に市政に反映するため、市民と市長が直接対話するタウンミーティングを計80回（各区分2回）開催します。	・タウンミーティング20回開催（累計60回） 前期（5～7月）10回開催 後期（9～11月）10回開催	・タウンミーティング20回開催（累計61回） 前期（5～7月）10回開催 後期（9～11月）10回開催	b	平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	回数が予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b+	参加人数を絞ったことは直接に意見の交換にはとてもよいことだと思います。ただ今後、タウンミーティングに参加する市民が限定され一部の市民に限られてきたり、市政に関心が薄い市民が増えたりしないように市民の関心をひく工夫も必要と思います。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。課題にあったように市民の声を反映させる仕組みは急務であると思います。
木島委員	b	目標通りの進捗。 今後はこのプランの本質的な目標である市民の声がどのように市政に反映されたか、ということが分かる目標設定、評価にできるとなが良い。	廣瀬委員	b	工程表通りに実施していることは評価できる。それによって何が得られたかについての説明がなされるべき時期になっているのではないかと。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	—
須藤委員	b	標準どおりの進捗と判断。	星野委員	b	目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	予定どおりの開催数として評価します。 ここで得た意見をどのように反映したのか、その内容を公開して市民との協働で施策を展開することが重要だと考えます。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り進捗した。



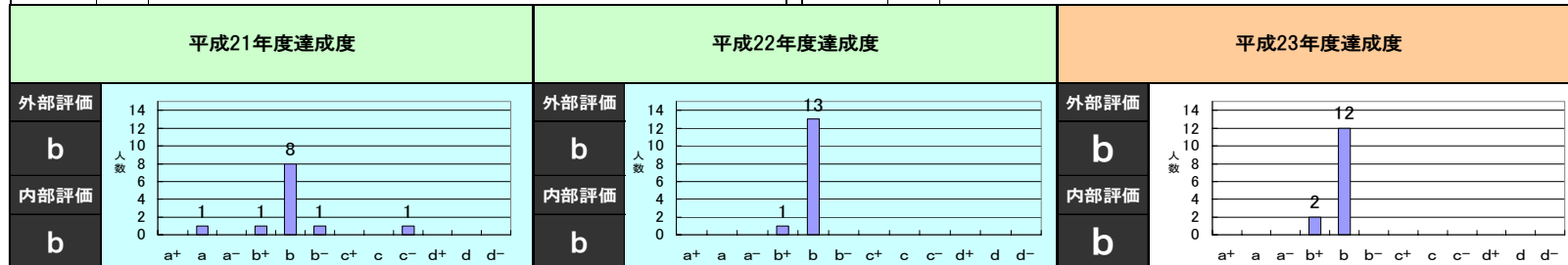
宣言分野	事業番号	倍增プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
行動宣言	I-3	現場訪問を400回実施。	4年以内	・平成24年度末までに、現場訪問を400回実施し、現場の意見を市政に反映します。	①現場訪問を110回実施	①現場訪問を113回実施(累計327回)	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	回数が予定通りと判断。	長野委員	b	当初目標を満たす内容である。
河西委員	b+	ご多忙の中、清水市長の取り組み姿勢、目標達成の姿勢は感謝いたします。	橋本委員	b-	事業計画(工程表)のとおり、概ね進捗したと思いますが、NPOや企業訪問等の割合が少ない点をマイナスしました。
木島委員	b	目標通りの進捗。容易に達成できるプランとは思えず、達成のための努力が評価できる。それが故に、I-2タウンミーティング同様、今後は市民の声の市政への反映度を目標設定、評価にできるとなお良い。	廣瀬委員	b	工程表通りに実施していることは評価できる。それによって何が得られたかについての説明がなされるべき時期になっているのではないかと。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	—
須藤委員	b	1. 標準どおりの進捗と判断。 2. 訪問先が特定分野に偏ることなく、多様な分野に及んでおり好感。	星野委員	b	目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	目標回数とほぼ同数の回数のため予定どおりの進捗と評価します。市長の積極的な活動とともに、それをどのように市政に反映したのかを説明することが大切なのだと思う。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り進捗した。



宣言分野	事業番号	倍增プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
行動宣言	I-4	学校訪問を全校実施。	4年以内	・平成24年度末までに、すべての市立幼稚園・小・中・高・特別支援学校で“絆”学校訪問を実施します。	訪問目標校数45校	訪問実施校46校 (訪問実施校累計125校)	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したため、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	回数が予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b+	児童の興味関心を引くことは今後の市政に大きく影響することなので、清水市長の目標を上回る達成の取り組み姿勢に感謝いたします。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。より充実した時間になるよう形式的ではない取り組みに期待します。
木島委員	b+	目標通りの進捗。ただ件数を達成しただけでなく、生徒によるインタビューや学校ごとに異なる取り組みを聞くなど生徒に直接触れて声を聞く機会を広げていること、および重要な課題を抽出したことも評価し加点。課題に上げている「教職員やボランティアからの声を聞く必要がある」について、是非できるだけ早く実施して欲しい。生徒同様に声を聞いてあげる必要がある方々と考えます。	廣瀬委員	b	工程表通りに実施していることは評価できる。それによって何が得られたかについての説明がなされるべき時期になっているのではないかと。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	—
須藤委員	b	標準どおりの進捗と判断。	星野委員	b	目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	目標予定回数のとおり実施したことで予定どおりと評価します。学校訪問をして何をどう幸せ倍増につなげるのかがよく理解されていないような気がする。市長との絆でなく、市民同士の絆にどうつなげていくのか。目的としての明確化が必要とも思う。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り進捗した。



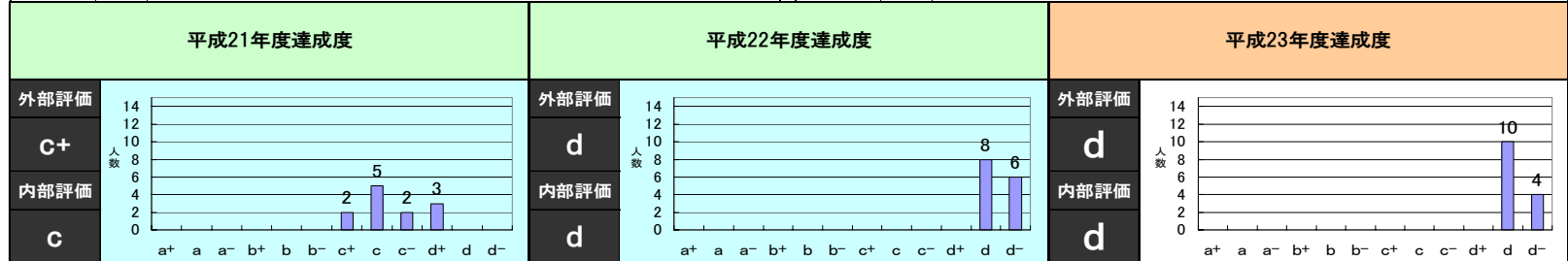
宣言分野	事業番号	倍增プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
行動宣言	I-5	職員との車座集会を100回開催。	4年以内	・市民のための職員であるという意識改革を進めるとともに、職員個々の能力を最大限に発揮させるため、平成24年度末までに車座集会を100回開催します。	車座集会を30回実施する	車座集会を31回実施	b	平成23年度の数値目標、取組内容及び工程表等のとおり進捗したため、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	回数が予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの取り組みである。
河西委員	b	6%の変化なしは、車座集会は形式的ということなのか、ちょっと気になります。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。 大変充実した活動であると判断できますが、その成果等が分かりにくいのが残念です。PR強化を！
木島委員	b	目標通りの進捗。	廣瀬委員	b	研修への応用などの展開につながり始めたことは評価できる。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	—
須藤委員	b	1. 標準どおりの進捗と判断。 2. 市トップとの対話による経営方針の徹底、現場活性化に効果を認む。	星野委員	b	目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	目標数値を予定とおりに実施したことで予定どおりと評価します。 わざわざ市長が中心となって車座集会を実施しなければ行政職員の能力を発揮できない現状に残念な気がする。しかし、役所の古い体質を壊し柔軟な発想や独創的な発想が職員から出ることは、体質改善にはかならずプラスとなると考える。継続していってほしい。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り進捗した。

平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度	
外部評価		外部評価		外部評価	
内部評価		内部評価		内部評価	
	b		b		b

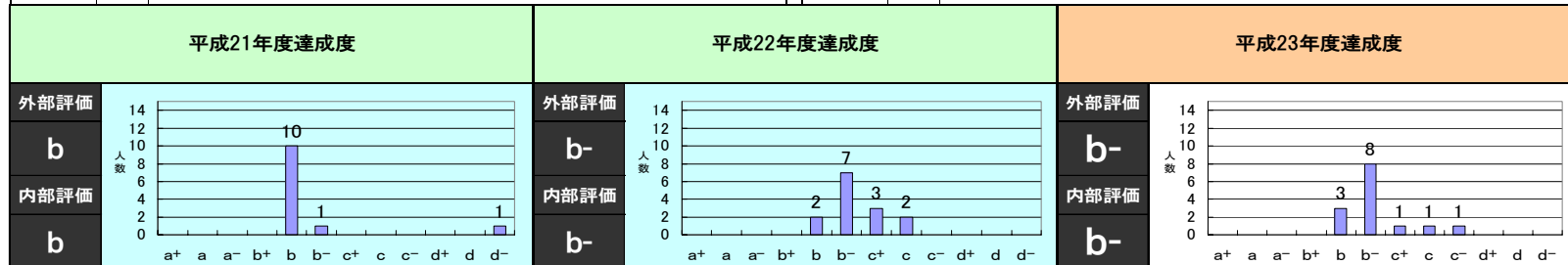
宣言分野	事業番号	倍增プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
条例宣言	II-1	市長任期を3期までとする、多選自粛条例を制定します。	すく	・平成21年度中に、「さいたま市長の在任期間に関する条例」を制定します。	・条例案の再提出に向けて、内容や提出時期について検討する。	・★条例案の再提出時期を模索するも、具体的な動きや検討には至らなかった。	d	・平成21年度中の制定を目指して条例案を提出したが、否決され、内容と提出時期の検討が続いており、期日目標に遅れが生じているため、進捗度を「d」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	d	出来ないことと判断。	長野委員	d	前年度に引き続き、具体的な動きには至っていない。
河西委員	d	首長が6期も在任する自治体もあるようなので、何期までが適当かはわかりかねる部分があります。長になる人物の個性や人間性による部分が大きいので3期が妥当か否かわかりません。	橋本委員	d-	未達のため。事業進捗が出来ない理由等、理解しにくい点の説明が必要ではないか。具体的な動きや検討に至らなかった点をマイナス。
木島委員	d-	大幅遅延、かつ進捗させるための取り組みも不明のため「d」評価。さらに、昨年度に引き続き遅延だが、評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。	廣瀬委員	d	—
栗原委員	d	—	福崎委員	d	プラン実現のためにどう取り組んでいるのか、説明がないように思う。プラン自体の見直し・廃止の選択はなかったのか。
須藤委員	d	1. 条例案再提出に進展が見られず「d」評価。 2. 議会の拒否反応が強いのであれば、議会で協議機関を作り検討してもらうのも良いのではないか。	星野委員	d	目標に大幅の遅れが生じていると評価します。
高木委員	d	目標が未達成であり、取組状況に具体性がないため。	町田委員	d	達成できていない事実、また今後の見通しもたっていないため評価は「d」とします。外的要因による問題ですが、この方針に賛同している市民の方々も多い。市長のみで達成できる問題ではないので、マニフェストに記載すべき内容かどうかは疑問がある。
高島委員	d-	「具体的な動きや検討には至らなかった」ため。	三浦委員	d-	何も動いていないように見えるので、最低評価とせざるを得ないと判断する。



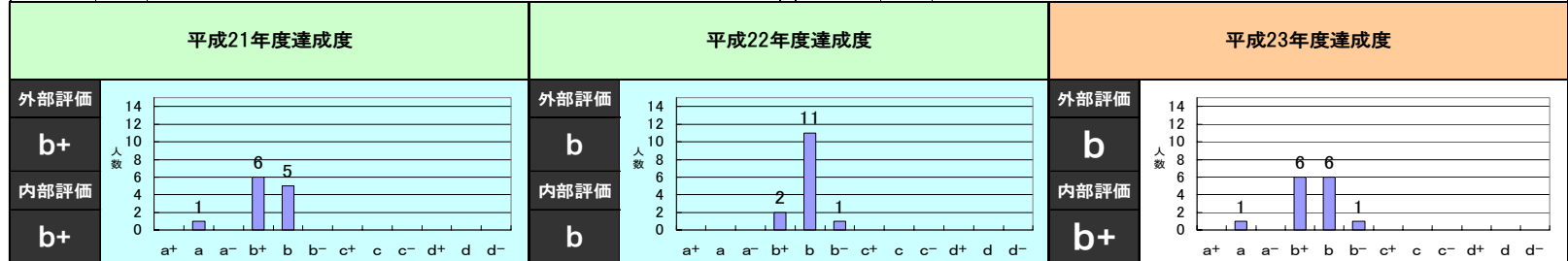
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
条例宣言	II-2	生涯スポーツを推進し、スポーツを活用した総合的なまちづくりを推進する「さいたま市スポーツ振興まちづくり条例」を制定します。	すぐ	・平成21年度未までに、「さいたま市スポーツ振興まちづくり条例」を制定します。	①具体的な施策を盛り込んだ「スポーツ振興まちづくり計画」の策定 ②(仮称)スポーツ振興まちづくり推進会議の設置 ③計画に基づく諸施策の展開	①さいたま市スポーツ振興まちづくり計画の策定 ②▼推進会議設置に向けた関係団体との協議 ③諸施策の展開に向けた関係所管課や関係機関との協議・調整	b-	・計画策定等の目標を達成することができたため「b」と判断しました。 ・推進会議の設置に至らなかったことから、減点しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	計画を策定と判断。	長野委員	b	目標通り、計画は策定されるが、推進組織の設置は未達成。
河西委員	b-	サッカー人気を活用するべきと思いつつ、サッカーに馴染れしすぎはいかげなものかと思ったりもします。	橋本委員	c	2年続けて推進会議の設置ができなかったことは、大きなマイナスである。
木島委員	c-	スポーツ振興まちづくり推進会議が設置未達。かつ、H24年度に入っても設置を検討しており、そもその目標設定（推進会議の設置）自体が曖昧であることをマイナス評価。目標を設定したのであれば達成に向けて全力を尽くすべきで、もし設置が目標でないのであれば、速やかに本来のプラン目標を再検討して欲しい。	廣瀬委員	b-	推進会議の設置に至らなかったことを減点。相手方のある調整事項だが、遅れの原因分析はできているのか。
栗原委員	b-	—	福崎委員	b	条例の制定に終わらず、その後の具体的な取組みについても進捗をみてゆくのは、大事だと思う。
須藤委員	c+	肝心の運営母体である「推進会議」の設置が未了であるため「c+」とした。	星野委員	b-	概ね目標通りの進捗と評価します。但し、推進会議の設置に至らなかったため減点評価。
高木委員	b-	スポーツ振興まちづくり推進会議の設置に至らなかったため減点評価した。	町田委員	b-	計画策定ができたことより予定どおりと評価します。推進会議の設置もできていないことからマイナス評価とします。
高島委員	b-	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	b-	内部評価と同様と判断する。



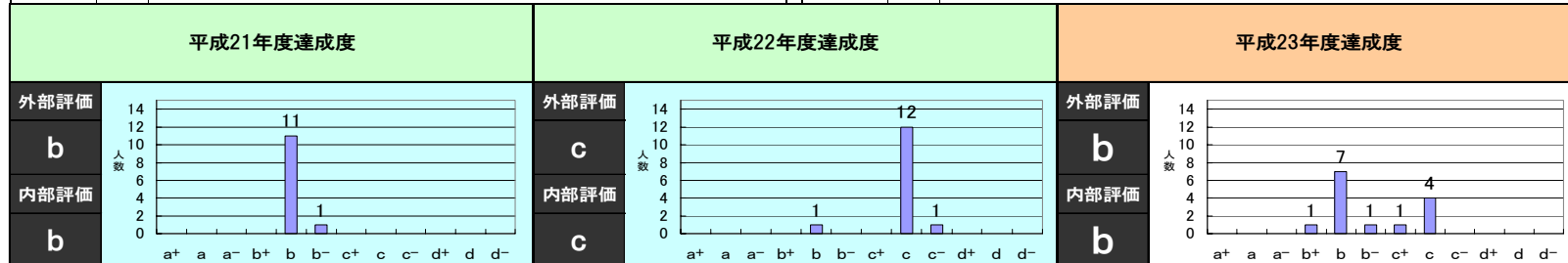
宣言分野	事業番号	倍增プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
条例宣言	II-3	障がい者も健体者も共に地域で暮らせる ノーマライゼーション条例を制定しま す。	すく	・平成22年中に、障害者も健常者も共に地域で暮らせる 「ノーマライゼーション条例」を制定します。	①関連事業を再編し、さいたま市 障害者総合支援計画を策定 ②障害者の権利の擁護に関する 委員会を設置し、全部施行に向 け差別事業にかかる指針等を作 成 ③障害者施策推進本部を設置 し、庁内アクションプランの作成 ④市民が障害者施策等について 意見交換を行う場の設置	①・④障害者総合支援計画の策 定 ②「障害者相談支援指針」の作成 ③障害者施策推進本部の設置、 アクションプランを策定 △Jリーグの試合における手話応 援の取組や区民まつりにおける ブラインドサッカーを通じた事業などの 各種の周知啓発の取組	b+	目標に掲げた項目のほか、市民会 議参加メンバーや障害者団体の協力 のもと条例の周知及び啓発に資する。 Jリーグの試合における手話応援の取 組みや区民まつりにおけるブライン ドサッカーを通じた事業など、各種の 周知啓発の取り組みを進めた。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b+	当初目標にはなかった各種啓発の取り組みを加点とする内部評価の判断は妥当と考える。
河西委員	b-	条例の制定は評価するべきだと思いますが、個人個人の感じ方や道徳心は統一しきれないものではないので、今後の浸透による影響や変化に期待したいと思います。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。 各種の周知啓発の取り組みは必要な取り組みであり、今後も継続しなければならない。
木島委員	a	条例制定というプラン達成後でありながら、プランの一つとして実施するために目標をたて進捗させている点を大きく評価。 とても重要な施策において、プラン本来の目標（障害者も健常者も共に地域で暮らせる）を推進できている。	廣瀬委員	b+	条例制定はすでに完了しているが、周知などの努力が展開されていることを評価
栗原委員	b+	—	福崎委員	b+	—
須藤委員	b	標準どおりの進捗と判断。	星野委員	b+	目標通りの進捗と評価します。各種の周知啓発の取り組みを加点評価。
高木委員	b+	Jリーグの試合における手話応援の取組や区民まつりにおけるブラインドサッカーを通じた事業などの各種の周知啓発の取組を加点評価した。	町田委員	b	平成23年度の目標のすべてを実施したことで予定どおりと評価します。 条例の中身について自分も含め正しく理解できていないような気がする。理念はすばらしい。どこまで実行できるかは市民ひとりひとりの人権意識の向上がもっともっと必要と感じる。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り進捗している。 ただし、認知度が20%程度に留まっているのは、取り組みの成果が思うように上がっていない指標となる。



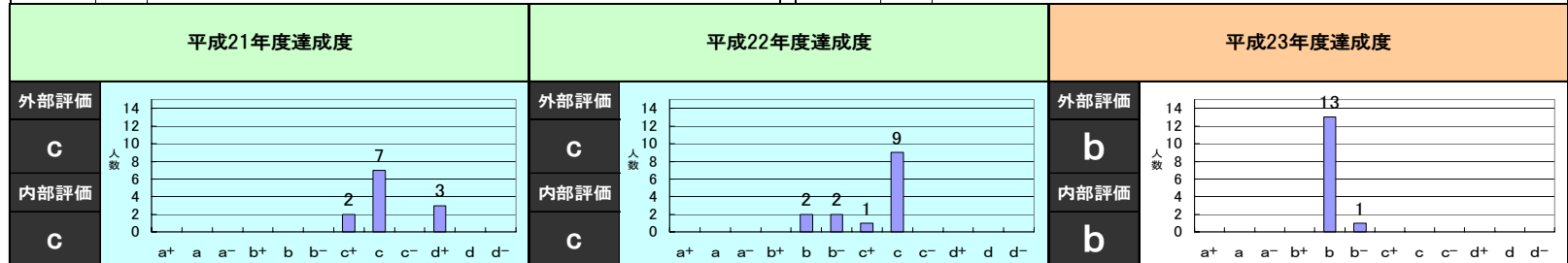
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
条例宣言	II-4	一人ひとりの子どもが輝くために「子ども総合条例」を制定します。	2年以内	・平成22年度末までに、一人ひとりの子どもが輝くために「子ども総合条例」等を制定します。	①パブリックコメントの実施 ②条例等の制定	①意見募集の実施 ②さいたまキッズなCity大会宣言の策定	b	平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり実施したことから、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	c	費用対効果による。	長野委員	c	年度当初目標にある条例の制定には至らず。宣言についてのパブリックコメントはあるが、条例については実施されず。
河西委員	b-	子供家庭を守るセーフティネットはまだまだでなかなか難しいのではないのでしょうか。行政のこの取り組みを子供や困難な家庭がどう期待し、評価するのはまだこれからのことだと思います。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断いたしました。
木島委員	b	目標通りの進捗。	廣瀬委員	c	条例等の制定とされているが、大会宣言という「等」の策定によって目標達成と考えるのか。参照されている他自治体の条例と、本市の宣言との異同についての説明が必要ではないか。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	—
須藤委員	c	当初目標の条例制定が「大会宣言」に後退しており、「c」評価とした。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b+	パブコメや条例制定に向けた具体的な施策など予定どおりと評価します。地域や社会などによる見守りによる子育てが足りない現代です。今後の施策に期待します。
高島委員	b	委員からの質問で「目標の②＝実績の②」との回答なので、工程表どおりとしました。	三浦委員	c+	「さいたまキッズなCity大会宣言の策定」は、条例等の策定に相当すると言えるのか。



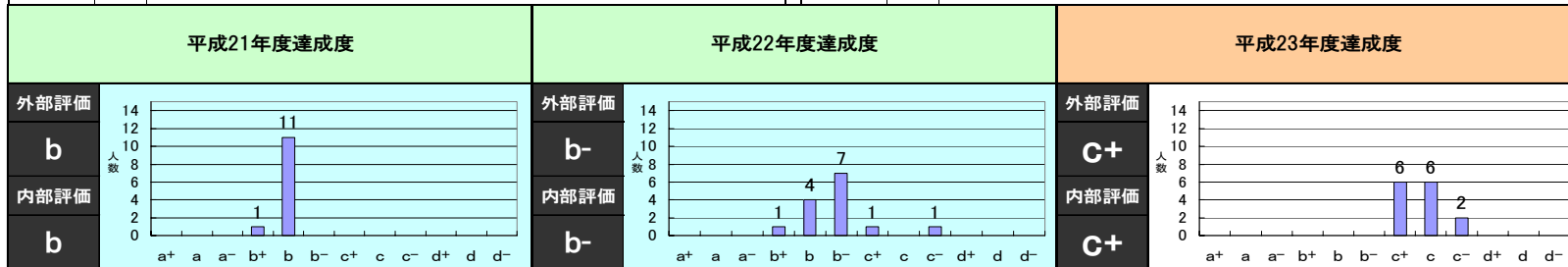
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
条例宣言	II-5	「文化都市創造条例」を制定します。	2年以内	・総合的かつ持続的な文化芸術振興を図るため、平成22年度末までに、「文化都市創造条例」を制定します。	条例の内容を検討した上で、9月定例会に提出し、条例を制定する。	平成23年12月議会で文化芸術都市創造条例が制定され、平成24年4月1日に施行されます。	b	条例が制定されたため、「b」評価としました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	条例制定した事による。	長野委員	b	工程表通り、条例が制定された。
河西委員	b-	既存や情性を打破していくのはなかなか難しいことだと思いますが、後悔先に立たずにならないように英断が必要なきもあります。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断いたしました。
木島委員	b	目標通りの進捗。	廣瀬委員	b	条例が制定されたので時期の遅れはあるが概ね目標を達成したものと見える。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	—
須藤委員	b	1. 文化面の取組立遅れが目立つ当市にとって、条例制定は一步前進。 2. アクションプランと具体的施策の実現を期待。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	条例が予定どおり23年度に制定されたことで予定どおりとします。 広く市民に周知する広報活動が必要です。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り条例案が議会に提案された。



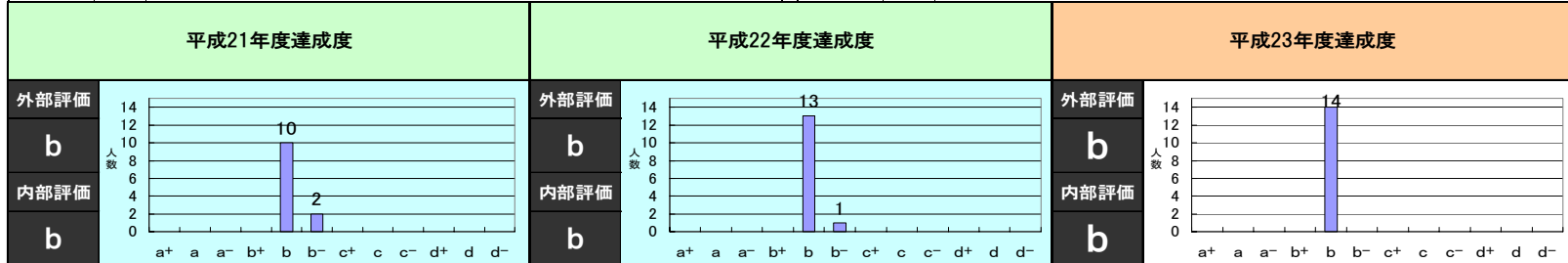
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
条例宣言	II-6	さいたま市の憲法「自治基本条例」を市民参画で制定します。	3年以内	・平成23年度末までに、「自治基本条例」を制定します。	①最終報告書とりまとめ（8月末頃） ②意見交換会等実施 ③ニュースレター2回発行 ④条例議案を議会へ提出（2月）	①最終報告書とりまとめ（2月） ②△意見交換会を10区で、出前意見交換会を11回実施 ③ニュースレター発行（2回） ④★議案提出に至らず	C+	・議案提出には至らなかったため「c」とした。 ・市民意見交換会等を数多く実施し、市民周知及び意見収集に取り組んだことを加点評価した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C-	条例の必要性に問題を感じた事による。	長野委員	C+	多様な市民やステークホルダーとの対話の場を検討過程で設けたことは加点要素である。議案提出が為されなかったことで、進捗は工程表より遅れが生じている。
河西委員	C+	どんなことにひっかかり、その原因はなんなのか。意見交換会で皆さんよくお分かりのようですが、それでもなかなか進みきれないといった様子なのではないか。	橋本委員	C-	未達のため。プラン期間の事業であり、よりスピーディーな取り組みが必要ではないか。
木島委員	C	条例議案提出が未達	廣瀬委員	C	議案提出に至っていない。意見交換会はもともと予定されていた取り組みであり加点要素とはいえない。
栗原委員	C	目標には意見交換会の回数が明記されていないため、当初目標以上の成果なのかどうか判断できません。	福崎委員	C+	—
須藤委員	C+	多大な労力をかけ「最終報告書」がまとめられており、議会への速やかな上程と条例制定を期待。	星野委員	C	目標に遅れが生じていると評価します。
高木委員	C+	条例議案提出に至らなかったため「c」とし、市民周知のための主な取組が良く行われていたので加点評価した。	町田委員	C	条例が制定されていないため遅れていると評価。条例を制定することでどのような保護法益が図れるのかを市民に周知することが必要です。
高島委員	C	目標未達だが、達成に向け様々な取り組みをしているので「c」とした。	三浦委員	C+	内部評価と同様と判断する。



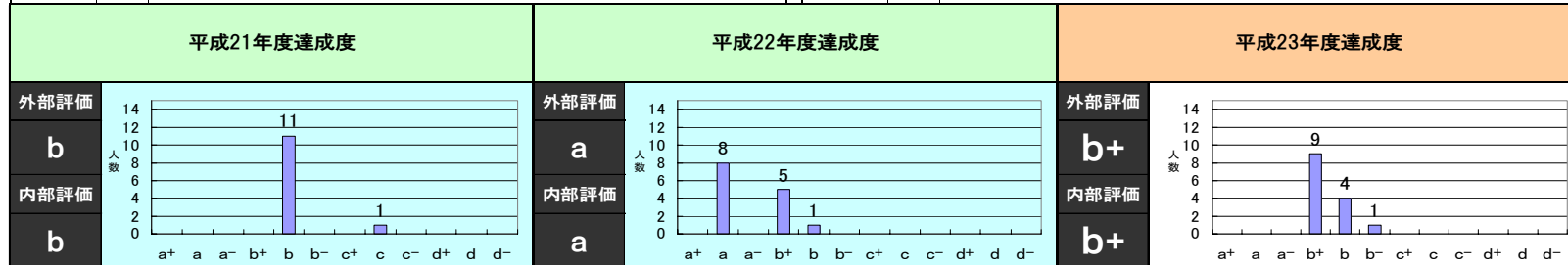
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
条例宣言	II-7	他市に類をみないスピードで進む高齢化に備えて「安心長生き条例」を制定します。	4年以内	・平成23年度末までに、高齢者の生きがい、健康、福祉の充実などを総合的にまとめた「安心長生き条例」を制定します。	・条例の制定	・「中間報告」及び「答申」の策定を予定どおり完了 ・タウンミーティング(計10回)及び市民フォーラムの開催 ・条例案の2月定例会への提案及び可決	b	・全てのプロセスについて、当初計画どおりに進捗した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りに条例制定に到った。
河西委員	b	健康な高齢者の力をどのように生かせるか、期待できる事業だと思います。	橋本委員	b	概ね事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗。	廣瀬委員	b	予定通りに条例化
栗原委員	b	目標に「制定」という言葉を使っているのに、実績に使わないのはなぜでしょうか？	福崎委員	b	—
須藤委員	b	標準どおりの進捗と判断。	星野委員	b	目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	今年度中の制定にむけて実現化していることで予定どおりとします。数々の法規制があるわりに、市民の周知度は低い。制約を付加することは制限させる権利も含むわけで、その結果について理解が浸透しているとは思えない。広報活動に期待する。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り進捗した。



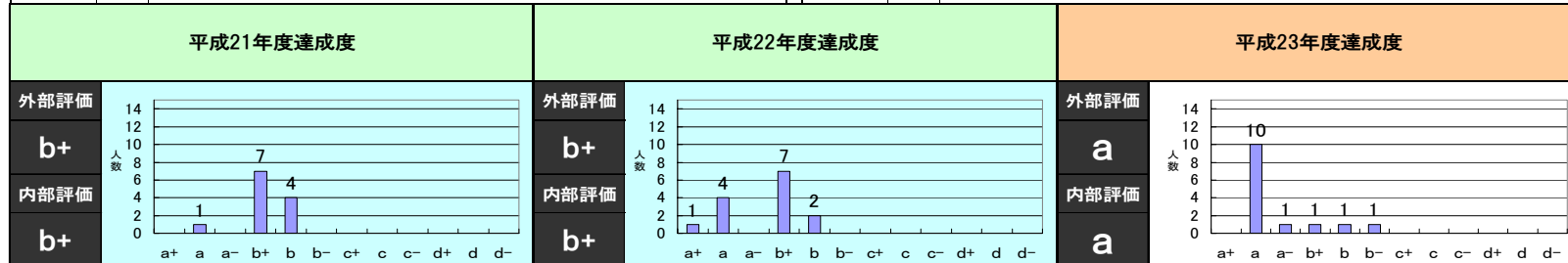
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度達成度（内部評価）		
						達成度	評価理由	
行財政改革	1-1	民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。 (行財政改革推進本部の設置)	すく	・平成21年11月に、「行財政改革推進本部」を市長直轄組織として設置し、民間人専門家を登用します。	①行財政改革推進プランの進行管理 ②行財政改革公開審議の実施 ③行財政改革有識者会議4回開催 ④外郭団体経営改革推進委員会4回開催	①行財政改革推進プランの進行管理(△白書作成、行財政改革市民モニター制度創設) ②行財政改革公開審議の実施 ③行財政改革有識者会議4回開催 ④外郭団体経営改革推進委員会2回開催	b+	・数値目標等のとおり推進することができたので「b」と判断した。 ・有識者会議及び任期付採用の民間人の知見を活用し白書を公表することができたこと。また、市民との協働により行政改革を進めるため市民モニター制度を創設したことから、加点了。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	設置した事により。	長野委員	b+	工程表どおりの成果である。市民モニター制度の導入は市民参加の拡大である。
河西委員	b	各分野、専門家有識者に入ってください、緊張感のもと取り組んでください。	橋本委員	b+	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。内部評価に準じ、加点了。
木島委員	b+	目標通りの進捗。行政改革による削減等については数値も把握でき進捗が分かりやすい。なお、市民モニター制度創設を取り組み工夫として加点とするが、この制度がどのように、かつどの程度貢献しているのか効果がわかりにくく、次年度ではその効果を明確にしたい。	廣瀬委員	b+	内部評価と同様の理由で加点
栗原委員	b+	-	福崎委員	b	計画通りの実施がなされた。進行管理について、具体的に何をこなったのか(白書作成、モニター制度導入)が報告されている。活動に対する、成果報告があればいいと思う。
須藤委員	b+	標準どおりの進捗だが、市民モニター制度等進行管理に工夫が見られる点プラス評価。	星野委員	b	目標通りの進捗と考えます。
高木委員	b+	白書作成、行財政改革市民モニター制度創設で加点評価した。	町田委員	b-	行財政改革推進改革4回開催、公開審議2回開催、外郭団体経営改革推進委員会の開催など予定どおりの進捗と評価します。外郭団体経営改革の当初予定4回開催を下回ったためマイナス評価とします。
高島委員	b+	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	b+	内部評価と同様の評価とする。



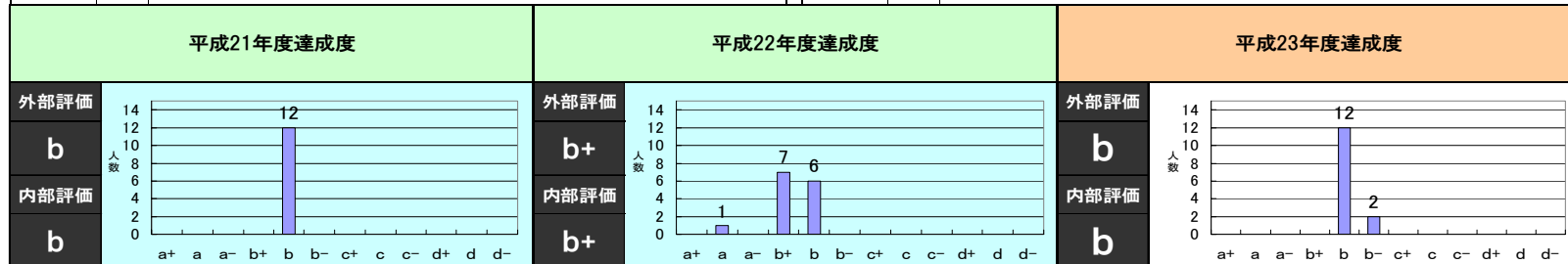
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度 c、d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
行財政改革	1-2	民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。 (事務事業評価の見直し)	すく	・「行財政改革推進本部」において、事務事業評価の新たな評価方法を構築し、すべての事務事業を見直し、平成24年度末までに100事業の縮小又は廃止を行います。	①見直し内容の公表の充実 ②新たな評価方法による事務事業の見直しによる事業の縮小・廃止(事業数:100事業、効果額:7億円)	①「見える改革」を推進する観点から、昨年度よりも見直し内容の公表を拡充 ②☆127事業を縮小・廃止し、その効果額は約21億円	a	・前年度の実績をベースに上方修正した数値目標(事業数:100事業、効果額:7億円)を大きく上回ったので、「a」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	業務の見直しであり当然と思います。	長野委員	a	目標を上回る削減額を得ている。
河西委員	b+	23年度の達成も実現したのですから24年度の目標はもっと高く設定できなかったでしょうか。	橋本委員	a	事業数・効果額ともに大幅に目標達成を評価しました。
木島委員	a	コスト削減の達成率300%(21億/7億)を評価。	廣瀬委員	a	目標を明らかに上回る成果
栗原委員	a	-	福崎委員	a-	質的評価の面で、新たに増えた事業数を記載して全事業数が分かるようにするなど、削減事業数の効果のほどが分かるような説明がほしい。
須藤委員	a	目標を超過達成しており、効果額21億円は特筆すべき。	星野委員	a	目標を上回る評価と考えます。
高木委員	a	127事業を縮小・廃止し、その効果額が約21億円で目標値を大きく上回ったため。	町田委員	b-	目標事業を上回る事業数を達成したことを評価します。 止・縮小することが行政のサービスに繋がるかを的確に判断をお願いしていただきたい。 目標達成の評価をどのように反映できたのかを検証することの方が重要だと考える。
高島委員	a	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a	内部評価と同様の評価とする。



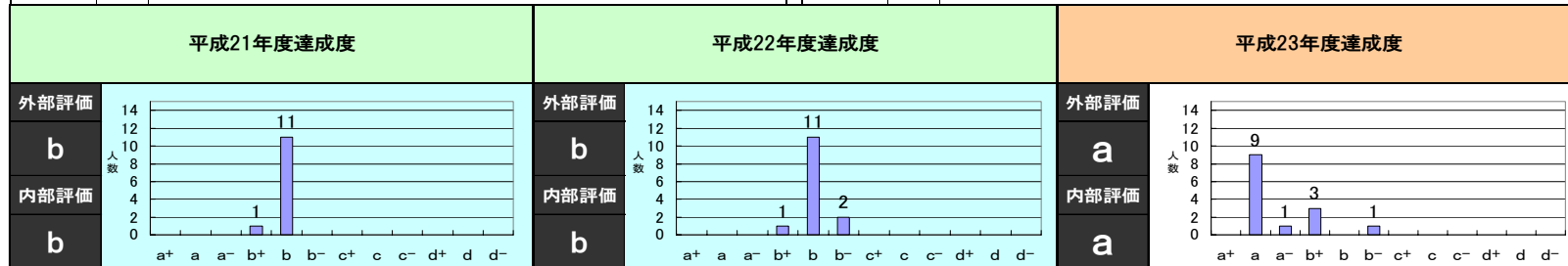
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度 c、d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
行財政改革	1-3	民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。 (補助事業の見直し)	すく	・すべての補助金等について、市民ニーズの高度化・多様化など社会経済情勢の変化に対応し、公正かつ効率的な制度とするため、「聖域なき見直し」を平成22年度予算から実施します。	①「補助金等見直しメルクマール(判断基準)」に基づく再構築の継続実施 ②見直し結果の平成24年度予算への反映	①「補助金等見直しメルクマール(判断基準)」及び各局マネジメントによる補助事業の再構築の継続実施 ②見直し結果の平成24年度予算への反映	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	内容の見直しをしたことによる。	長野委員	b	工程表どおりの内容である。
河西委員	b	ちょっとわかりにくいのですが、引き続き指標に基づき努力してください。わずかの効果のすばらしいと思います。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。様々な状況を踏まえた判断基準の策定に努めていただきたい。
木島委員	b	目標通りの進捗。	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗
栗原委員	b	—	福崎委員	b-	メルクマールの使い方を簡単に記載していただくと良いと思う(誰が、どれを評価するのかなど)。
須藤委員	b	標準どおりの進捗と判断する。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表のとおり進捗したため。	町田委員	b-	補助事業の見直しを継続して実施したことで、予定どおりの実施と評価します。補助事業については、予算額が縮減できたからといって効果があったとは評価が難しい。補助事業を見直すことでどのような効果があるのかが明確に示されていないため評価が難しい。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り進捗した。



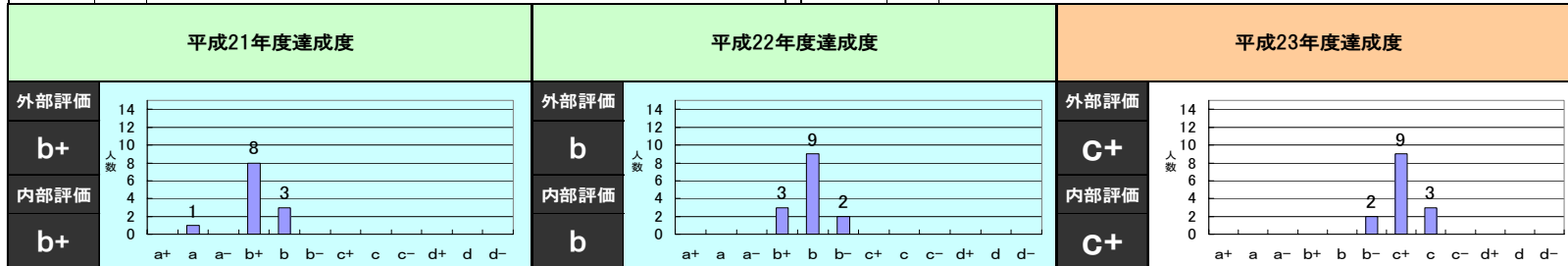
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合		H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由		
行財政改革	1-4	民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。 (外郭団体改革)	すぐ	・平成21年7月に、「外郭団体経営改革推進委員会」を設置します。 ・平成21年度中に、「(仮称)さいたま市外郭団体改革プラン」を策定します。	①(社福)さいたま市社会福祉協議会と(財)さいたま市在宅ケアサービス公社の統合 ②(財)さいたま市都市整備公社と(財)浦和パーキングセンターの合併 ③浦和総業(株)の市保有株式の売却により外郭団体を1団体削減	①②左記の目標を達成しました。☆左記に加え、合併により、外郭団体を更に1団体削減しました。 ③☆市保有株式の売却により、外郭団体を1団体削減しました。	a	・合併と市保有株式の売却により、当初の目標である2団体を上回る4団体の外郭団体を削減したことから、進捗度を「a」と判断しました。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	業務内容の見直しの成果が今後の必要事項となると思う。	長野委員	a	内部評価での判断内容は妥当と考える。
河西委員	b+	「a」と評価するにはやっぱりわかりにくいので、妥当であり必要であり仕方のないことだとしてもあまりにも似たような名前が多いので、今はまだ頭が壊れそうになり高い評価にできません。	橋本委員	a	目標達成を評価しました。
木島委員	a	目標を上回る外郭団体の削減を評価(実績4団体/目標2団体)。	廣瀬委員	b+	前倒しで進められている
栗原委員	a	—	福崎委員	a-	会議の中で、合併・削減の対象となった理由、なぜこれらの団体だったのかに関して、説明が少ないことが気になりました。
須藤委員	b+	合併による外郭団体削減の数合わせをするのではなく、事業・組織の見直し等により、真の効果を生み出す事が必要。	星野委員	a	目標を上回る評価と考えます。
高木委員	a	4団体の外郭団体を削減し、目標を大きく上回ったため。	町田委員	b-	H23目標であった3つの外郭団体の見直しを実施したことは予定どおりと評価します。計画時に示されている「外郭団体改革の基本方針」に示されている削減効果の30億円と推進したものがどの程度なのかを示されていないため、マイナス評価とします。
高島委員	a	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a	内部評価と同様の評価とする。



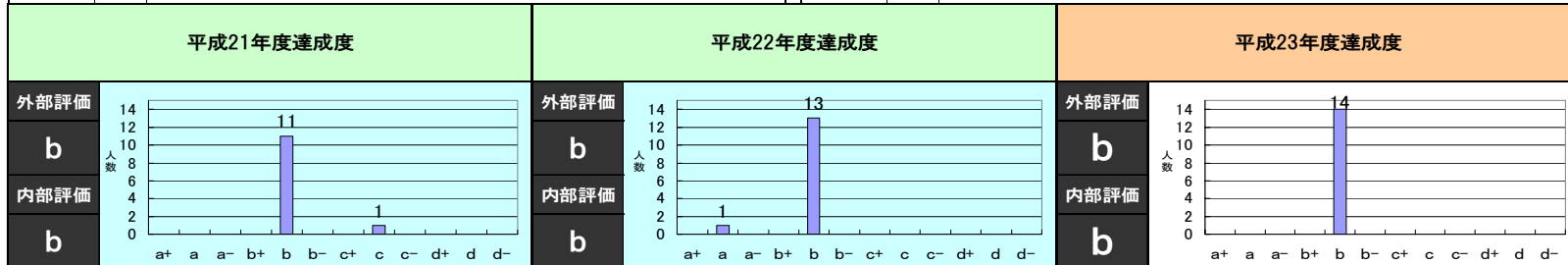
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度 c、d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
行財政改革	1-5	民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。 (公共施設マネジメント会議設置)	すく	・平成21年度中に、基礎調査、基本方針の策定を行います。 ・平成22年度中に、「公共施設マネジメント会議」を設置します。 ・平成23年度末までに、公共施設等の効率的な管理運営を推進するため、土地を含む公有財産について、ストックマネジメントに重点を置いた「公共施設マネジメント計画」を策定します。	①平成22年度の成果について報告書を策定 ②都市関連施設と企業会計施設についての現況調査及び分析 ③公共施設マネジメント会議の意見を聴きながら公共施設マネジメント計画を策定	①公共施設マネジメント計画(平成22年度中間報告)を策定 ②△インフラを含めて調査分析し、白書を作成 ③★計画について素案を作成し、パブリック・コメントを開始	C+	・平成23年度における目標である「公共施設マネジメント計画」を策定することができなかったため「c」とした。 ・ハコモノに加え、インフラを含めた白書を作成し、毎年度更新することとしたため、加点了。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	進行計画が遅れる事により予定通りとはなっていない。	長野委員	C+	当初目標の計画策定には至らず、ハコモノ白書は一定の成果と言える。
河西委員	C	どんなことでもやり直しはできますが、時間だけは取り戻せないなのでこの事業はスピードとか先手とかが必要ではないでしょうか。	橋本委員	b-	調整等が必要な事業であり、時間を要することは予想できる。策定の遅れにマイナスであるが、その他は事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	C+	計画策定が遅延だが、計画後の実施を考えた時に必要となるもの(インフラ)を必要と考えて計画にいったことを評価し加點。 プランの本質的な目標は計画後のアクションにあると思われるので、遅れている計画を策定し、H24年度取組内容記載の「アクションプラン検討」に早めに入って欲しい。	廣瀬委員	b-	時期の遅れはあるが、概ね目標に向けて進展している
栗原委員	C+	—	福崎委員	C+	内部評価の理由の通り。協議の経過を報告する白書の作成は、重要だと思う。
須藤委員	C+	「公共施設マネジメント計画」が未完成であるが、インフラに関する白書作成等、取組内容の深化が認められ、プラス評価。	星野委員	C	目標を下回る評価と考えます。
高木委員	C+	公共施設マネジメント計画を策定できなかったことから「c」評価とし、インフラを含めて調査分析し、白書を作成した点で加點評価した。	町田委員	C+	公共施設マネジメント計画を策定することが大きな目標となる。その準備はしていることが伺えるため遅れながらも実施に向けて取り組んでいると評価する。
高島委員	C+	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	C+	内部評価と同様の評価とする。



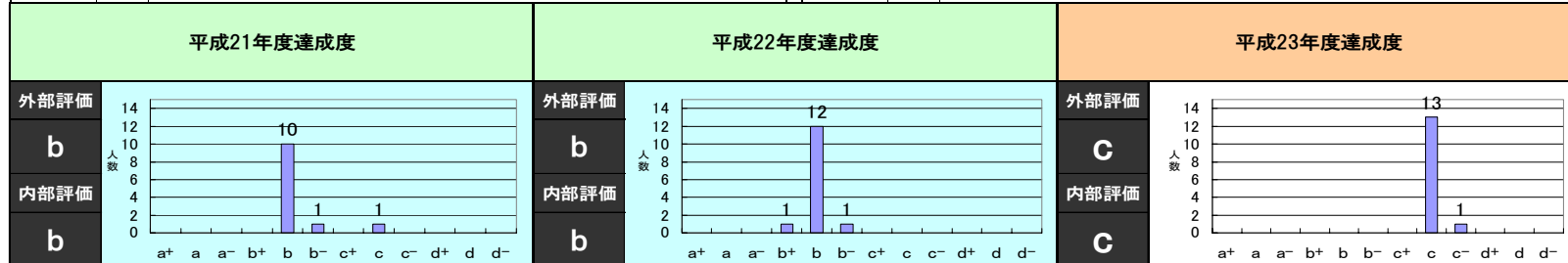
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度達成度（内部評価）		
						達成度	評価理由	
行財政改革	2-1	すべての窓口業務を区役所で行えるようにします。 (窓口改革・権限移譲<統括>)	すく	・平成21年度中に、市民が参画する「区役所のあり方検討委員会」を設置します。 ・平成22年度中に、本庁・区役所・事業所等の役割分担を整理し、区役所における窓口業務の改善と区長への権限移譲の範囲を定め、平成23年度から区役所で取り扱える窓口業務を拡大します。	①区役所窓口休日開設の試行を行い、平成24年度以降、本施行を行う ②郵送請求処理センターの設置、証明書のコンビニ発行の実施に向けた検討・準備 ③区役所窓口における民間力活用の検討	①区役所窓口の休日開設の試行を踏まえ、平成24年度から原則、毎月最終日曜日に区役所窓口を開設 ②平成24年4月に郵送請求処理センターを設置、24年11月から証明書のコンビニ発行を導入することとした ③平成24年度から区民課窓口の委託化を導入	b	・概ね数値目標のとおり進捗したため「b」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	コンビニでの証明導入に伴う、今後の支所のあり方について検証が必要。	長野委員	b	工程表どおりの成果である。
河西委員	b	窓口が広がって便利になってありがたいです。その手数料などを新しい社会福祉や復興に当てていただけるような取り組みはできないでしょうか。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗。	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗
栗原委員	b	—	福崎委員	b	計画通りの実施がなされた。参考資料に利用者の声や反響を載せてくれると、加点評価できると思う。
須藤委員	b	1. 工程表どおりの進捗と判断する。 2. 市民の利便性向上に貢献度大だが、コスト抑制に努めることが肝要である。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表のとおり進捗したため。	町田委員	b	窓口の休日開設の実現や民間委託による事務処理化の実現など予定どおりの実施と評価します。 市民に必要なサービスを見据え、効果的な窓口や郵送などによるサービス向上に期待したいところ。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り進捗した。



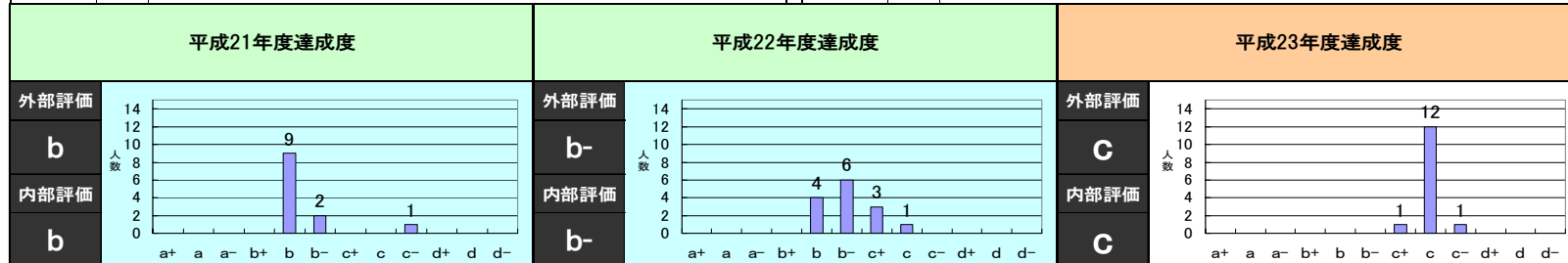
宣言分野	事業番号	倍增プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度 c、d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
行財政改革	2-2	すべての窓口業務を区役所で行えるようにします。 (予算)	すく	・区の独自性・裁量性が発揮できるよう、予算制度を改革します。	・区長に予算要求権を付与	・★各区の住民ニーズに応じた区独自事業を展開する「区まちづくり推進事業」を継続	C	・平成24年度の数値目標、取組内容、工程表等に遅れが生じたため、「C」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	予算対応や工程内容、数値目標等なじまない。	長野委員	C	当初目標の制度構築までには至らなかった。
河西委員	C	推進事業が各区さまざまでおもしろいです。ただ、？と思うような事業もあるので、各区長の個性なのか住民とのコミュニケーションによるものなのか、なんともいえません。	橋本委員	C	目標が未達のため。 法律の関係でどのような範囲までが可能なか、分かりにくい。
木島委員	C	区長への予算要求権の付与が未達。	廣瀬委員	C	区長に予算要求権を付与できないで来た基本的な理由は何か？ それによっては、調整が完了して一定枠の予算要求額が付与されたとしても、計画当初の想定していた内容とはかなりかけ離れたものしか成らないのではないかと。
栗原委員	C	目標と実績の内容が噛み合っていない気がします。当初の目標はどうなってしまったのでしょうか？	福崎委員	C-	目標へ向けた推進体制について、やはり疑問が残るので、減点する。 「区まちづくり推進費は、区役所が自ら作り上げる予算」とあるが「予算請求権の付与」の実現に寄与するものなのか。 「ニーズや実状の把握に時間がかかっている」との説明だが、仕事の多い財政課と区政推進課だけで話あっているのは、今後も進まないのではないかと。
須藤委員	C	目標未達成であり、「c」評価。	星野委員	C	目標に遅れが生じています。
高木委員	C	数値目標、取組内容、工程表等の達成度が低いため。	町田委員	C	区長に予算要求権が付与されていないため予定を遅れていると評価する。 区に独自性をもたせることは、それぞれの区民が望むことであるならばいいことだと思う。 事務の迅速化やサービス向上を目的として有効な施策をどんどん進めていただきたい。
高島委員	C	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	C	工程に遅れが見られる。 「1-2事務事業評価の見直し」平成24年度廃止事業一覧には、数多くの区まちづくり推進事業が記載されているが、本事業の平成23年度の主な実績に、★各区の住民ニーズに応じた区独自事業を展開する「区まちづくり推進事業」を継続とある。 政策的な整合性はとれているのか。



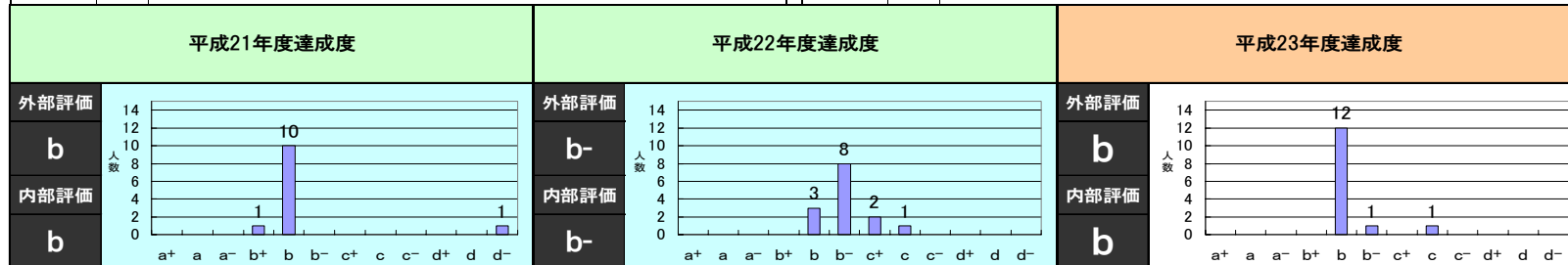
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
行財政改革	2-3	すべての窓口業務を区役所で行えるようにします。 (組織・人事)	すぐ	・平成22年度末までに、区の独自性・裁量性が発揮できるよう、区長の組織や人事配置の権限を見直します。	・係編成方針の策定に取組むとともに、人事配置権限の行使を支援するための「人事評価システム」を開発し、区長に組織編制権、及び人事配置権限を付与	・★係編成方針の素案を策定するとともに、人事評価システムを開発しましたが、区長への権限の付与はできませんでした。	C	権限付与ができなかったことから「C」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	人事の権限は常に業務内容や仕事状況を把握していないと出来ない。	長野委員	C	区長職への人事配置権、区役所組織編成権の配置・制度構築は未達成である。
河西委員	C	進行の遅れは合併による影響だと思います。今後はテンポよく進んでいくことを期待しています。	橋本委員	C	目標が未達のため。法律の関係でどのような範囲までが可能なのか、分かりにくい。
木島委員	C-	区長への権限の付与が未達。前年と同様の未達のためマイナス評価。	廣瀬委員	C	権限付与の遅れを勧察
栗原委員	C	-	福崎委員	C	「居住区以外でも手続き出来る申請等もあり、係名などの違いによって市民に混乱を与える可能性があるため、各区で異なる組織を構築するのは難しいと考える」との説明だが、「組織編制権」にどこまで含めるかを明示したと思う。市が区に対する広域自治体で、区民の利便性を考えれば重要な点である。今後も、どのような権限を付与していくのか、市民に報告してほしい。
須藤委員	C+	権限付与はできなかったが、人事評価システムの開発等、権限付与に向けての事務作業は進捗している点をプラス評価。	星野委員	C	目標を下回る評価と考えます。
高木委員	C	区長に組織編制権、及び人事配置権限を付与出来なかったため。	町田委員	C	権限付与がされていない実態より予定より遅れていると判断。
高島委員	C	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	C	工程に遅れが見られる。



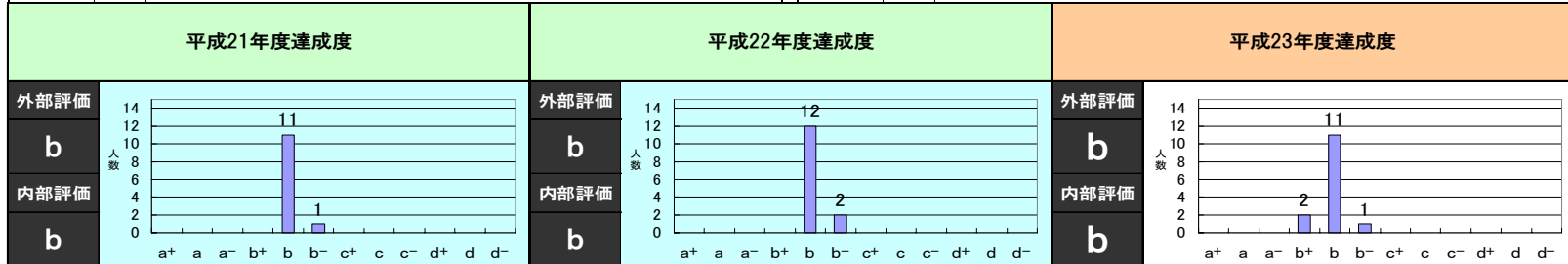
宣言分野	事業番号	倍增プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度達成度（内部評価）		
						達成度	評価理由	
行財政改革	3	区長マニフェストを全区長が策定するようにします。	すぐ	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度は、各区の個性を生かしたまちづくりを推進するため、各区の組織目標や各区共通の取組目標からなる区長マニフェストを策定し、10月に公表します。 平成22年度から、毎年4月に公表します。 	<ul style="list-style-type: none"> ①区長マニフェスト及び区長マニフェスト評価書の作成・公表 ②外部評価（アンケート）の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①区長マニフェスト及び区長マニフェスト評価書の作成・公表 ②外部評価（アンケート）の実施 	b	平成23年度の目標、取組内容、工程表のとおり進捗したので、「b」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	c	選挙で区長を決めていないので、「施政方針」を述べるべきではない。	長野委員	b	工程表どおりの内容である。
河西委員	b-	区長のマニフェスト、その評価はとても重要だと思いますが、住民へ周知や浸透はどんなものかと思えます。むしろそちらのほうが問題ではないでしょうか。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗。	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗
栗原委員	b	—	福崎委員	b	計画通りの実施。区長マニフェスト定着のために、もっと工夫がほしい。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する。	星野委員	b	目標通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	予定どおり実施していると評価
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り進捗した。ただし、公選制ではない区長の職責にマニフェストという仕組みがなじむのか疑問を感じる。



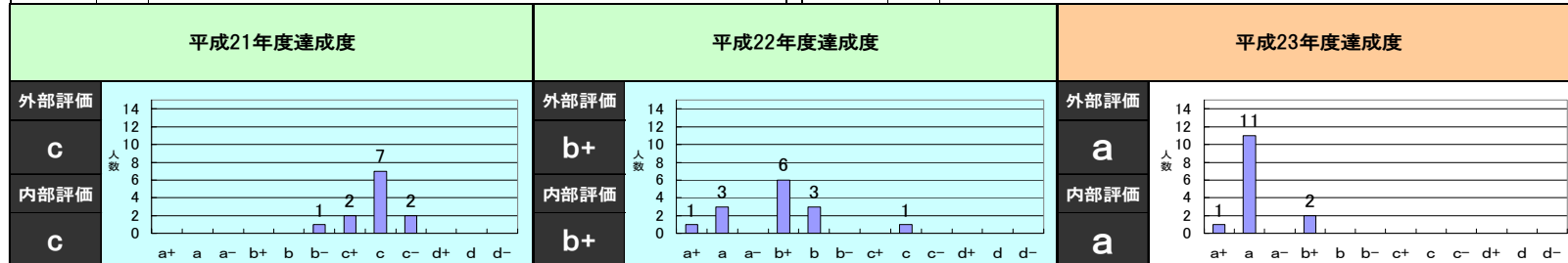
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合		H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由		
行財政改革	6	指定管理者の指定などにおける透明性を確保します。	すく	・平成22年度から、指定管理者をすべて公募によって選定します。	①指定管理者の更新時期に合わせ、指定管理者を公募により選定します。 ②審査選定委員会小委員会に外部委員を採用し、審査を実施します。	①平成23年度は9施設すべての指定管理者を公募により選定しました。 ②公募を実施した9施設すべての審査選定委員会に外部委員を採用し、審査を実施しました。	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断した。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表どおりの内容である。
河西委員	b+	指定管理者の資格がよくわかりませんが、今後ほぼ全員を公募にするという姿勢がすばらしいと思います。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。今後さらに必要になる取組であると考えます。
木島委員	b	目標通りの進捗。	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗
栗原委員	b	—	福崎委員	b+	計画通りの実施。一括管理など、より効率的な方法を考えている点。
須藤委員	b-	標準どおりの進捗だが、応募数が1社（団体）のみの施設につき、複数の応募がなされるよう努力すべきであり、マイナス評価。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	予定どおり実施していると評価
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り進捗した。



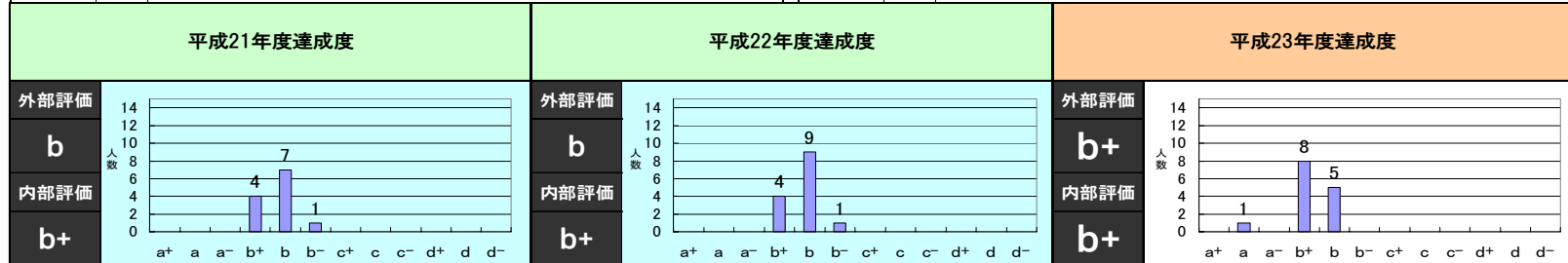
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度達成度（内部評価）		
						達成度	評価理由	
行財政改革	7	一職員一改善提案制度を創設します。	すく	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年9月に、「一職員一改善提案制度」を創設します。 平成24年度末までに、年間の提案件数を4,000件にします。 	<ul style="list-style-type: none"> ①年間の提案件数5,000件 ②庁内業務改善事例発表会「第2回カイゼンさいたまマッチ」の開催 ③全国都市改善改革実践事例発表会への参加 ④若手職員による検討グループの設置（立案5事業・実施2事業） 	<ul style="list-style-type: none"> ①☆8月の強化月間等により7,649件の改善提案報告 ②庁内業務改善発表会「第2回カイゼンさいたまマッチ」を1月に開催（県内外32団体90名参加） ③第6回全国都市改善改革実践事例発表会へ参加し自治体間の連携を強化 ④若手職員による検討グループ立案5事業全て実施 	a	強化月間等により、年間の提案件数は目標を大きく上回ることができました。「第2回カイゼンさいたまマッチ」に多くの方にご覧いただきとともに、運営面では庁内で公募した若手職員が活躍しました。さらに若手検討グループを活性化することで、制度や組織の活性化を目指しているため。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	身近な改善が良としたいが、市民からの提案も配慮すべきと感じる。	長野委員	b+	提案件数は目標を上回る成果である。「一職員一提案」の趣旨から、平成23年度の提案件数の全職員一人当たりの件数と、約7,600件中における提案の集中度（1人で多数の提案を行っている場合があれば、その状況）を確認させていただきました。
河西委員	a	人間の発想やアイデアは無限だと思うので提案件数10,000件という高い目標設定はすばらしいと思います。	橋本委員	b+	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。民間企業ではスタンダードな考え方。今後もより充実した内容になるように進めてほしい。
木島委員	a+	達成率153%（実績7,649/目標5,000）を評価。昨年度に続いて目標を大幅に上回る達成で、プランの目標も既に達成している。これらは取り組みの成果と考え加点。	廣瀬委員	a	明らかに活発に動いている
栗原委員	a	—	福崎委員	a	さいたま市職員の意識の高さに感動しました。ぜひ、一般企業の商品企画・開発チームのように、ノウハウを積んで、長く継続して欲しいと思います。
須藤委員	a	1. 職員の業務改善へのモチベーションアップが図られ、本事業は職場活性化に寄与。 2. 改善提案数の多寡を競うのではなく、提案を実務の効率化等に確実に繋げることが重要。	星野委員	a	目標を上回る評価と考えます。
高木委員	a	年間の提案件数が目標値を大幅に上回ったため。	町田委員	a	職員提案数が予定数の2倍を超えていることより予定を上回る進捗状況と判断します。職員の提案としてどのようなものがあるのかをHPなどで紹介している試みも含め市の取り組みがよくわかります。
高島委員	a	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a	盛んに行われて結構なことである。



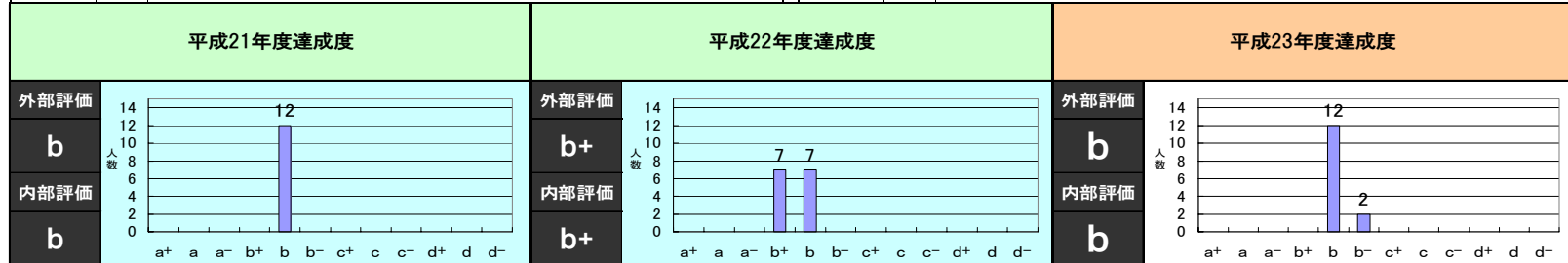
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度達成度（内部評価）		
						達成度	評価理由	
行財政改革	8-1	政令指定都市初の予算編成過程の透明化も含め、徹底的な情報公開を行います。 (予算編成過程の公開)	すく	・平成22年度当初予算編成から、予算編成過程の公表を行います。	①平成24年度当初予算編成の公表 ②公表対象を拡大	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	b+	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。さらに、対象事業を全事務事業に拡大したことなどを加点評価した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b+	当初予算に加えて、補正予算編成においても公表を実施。公開資料も拡大。
河西委員	b	各局それぞれがんばってください。としか評価しようがありません。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	a	プランで想定している主要事業以外も公表したことを評価。	廣瀬委員	b+	講評対象事業の拡大が、全事務事業になったことを加点
栗原委員	b+	—	福崎委員	b+	全事務事業を公表したことを評価。トータルコストでの計算へ、更に進めてもらいたい。
須藤委員	b	工程表とおりの進捗と判断する。	星野委員	b+	目標通りの進捗と考えます。対象事業を全事務事業に拡大したことなどを加点評価。
高木委員	b+	公表対象を全事務事業に拡大し、市長査定資料の一部を公表したため。	町田委員	b+	予定どおり実施していると評価
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b+	内部評価と同様の評価とする。



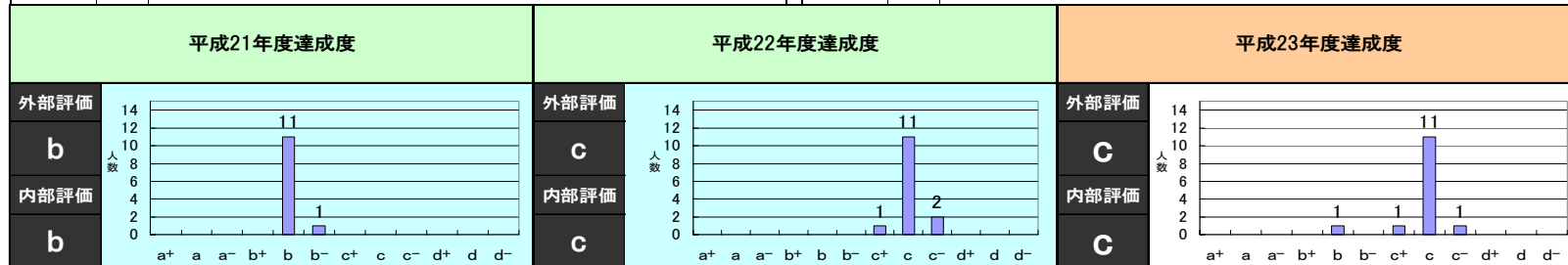
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合		H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由		
行財政改革	9-1	情報公開日本一を実現します。 (情報提供体制の整備)	2年以内	・行政情報の積極的な「見える化」を推進するため、情報提供に関する要綱を整備し、平成22年度末までに、「広報（情報提供）マスタープラン」を策定します。	①「PRマスタープラン」に基づく情報発信事業の構築等。 ②「見える化」推進の手引き」策定。 ③「行政サービスコストの提示」（試行）の実施。 ④開示情報を電子メールにて交付を実施。	①ホームページトップページのリニューアル。出前講座の実施。 ②「見える化」推進の手引き」を策定。 ③「行政サービスコストの提示」（試行）の実施。 ④開示情報の電子交付を開始。	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	情報公開日本一とは何の項目についてか判断出来ない。	長野委員	b	工程表どおりの成果である。
河西委員	b-	私自身がパソコンが苦手なのでさまざまな改善の努力でよくなっていった実感や感謝の念がほんやりしているのですが、20年後、30年後にはそんなことはなくなって面白い歴史の流れのひとつになっているのかなとおもいます。画面で目が疲れることもなくなっていたりして。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗。	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗
栗原委員	b	-	福崎委員	b-	計画通りの実施。「見える化」=市民にとっての見やすさ、という点で、もっと工夫が欲しい。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	平成23年度の工程表どおりにおおむね進捗しているため予定どおりと評価する。マスタープランまでの策定に引き続き継続実施を予定しているため
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り進捗した。



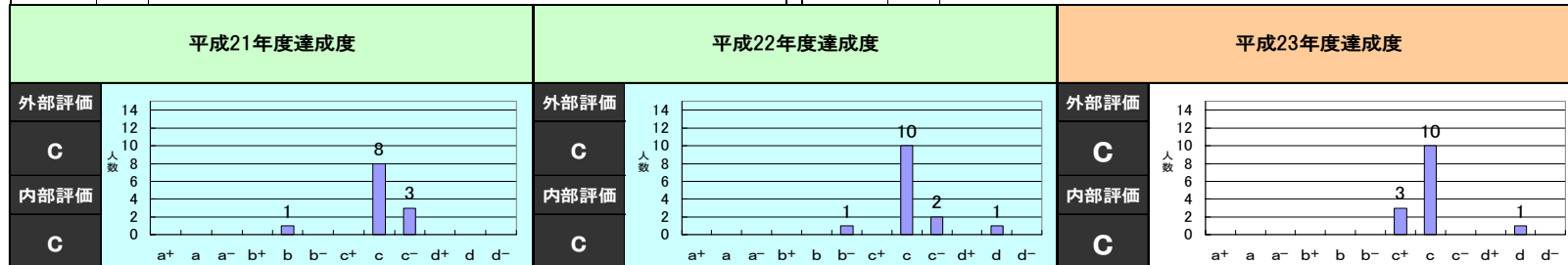
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由
行財政改革	9-2	情報公開日本一を実現します。 (都市経営戦略会議の審議内容等の公表)	2年以内	・平成21年9月から、都市経営戦略会議の審議内容と会議資料を公表します。	・会議終了後おおむね1か月以内に審議内容と会議資料を公表する。	★平均公表月数 2.3か月	C 公表までの進捗管理を行うなどの工夫をしたものの、目標達成に至らなかったため、「c」評価とした。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	審議内容の問題でなく、公表の時間だけでの評価は良しとしない。	長野委員	C	目標は未達成。平成22年度も「C」評価であり、人員削減の下で、どのようにして達成するか、再構築・検討を要すると思われる。
河西委員	c	期間の問題よりも会議や資料の公表に積極的だとは思えません。	橋本委員	C	未達の原因究明・対策を早急に講じてほしい。
木島委員	c-	公表月数が二年連続の未達。評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。	廣瀬委員	C	平均公表月数が目標の二倍以上に止まっている
栗原委員	c	-	福崎委員	C+	通常業務をしながらの、資料作成は大変なことだと思うが、経費をかけず、もっと早められる工夫があると思う。
須藤委員	c	目標と乖離があり、c評価。	星野委員	C	目標を下回る評価と考えます。
高木委員	c	平均公表月数が目標値を下回ったため。	町田委員	C	平成23年度の目標である29件は過去2年間の実績数を下回っていることでマイナス評価。職員のひとりひとりの情報公開への積極的な対応が求められる。内部意識改革が必要と思う。
高島委員	c	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	C	目標達成に向けた取り組みは見られるが、達成には至っていない。



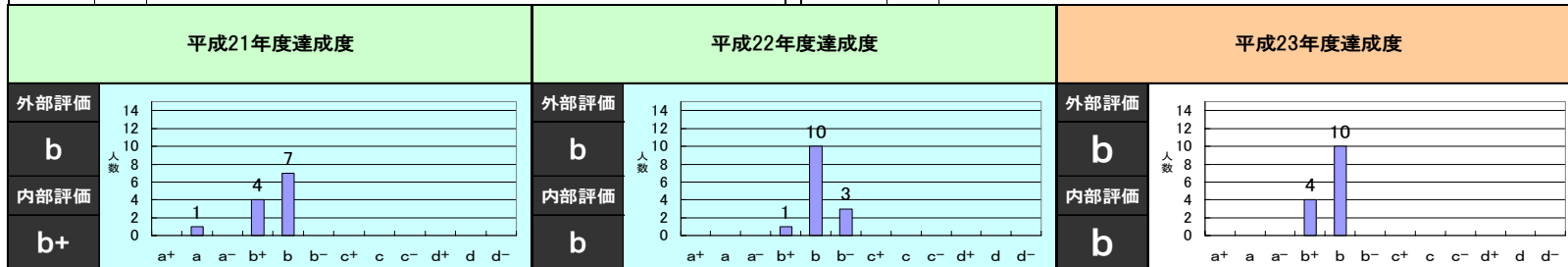
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
行政改革	9-3	情報公開日本一を実現します。 (パブリックコメントの充実)	2年以内	・平成22年度末までに、パブリックコメント制度要綱に基づき実施案件の平均意見提出件数を、平成20年度の51件から100件に倍増します。	①平均意見提出件数100件 ②制度研修会を9月までに1回開催	①★平均意見提出件数83件 ②制度研修会9/6開催	C	・平均意見提出件数は平成21年度31件、平成22年度48件から平成23年度83件に増えたものの、100件に増やすという目標が達成できなかったことから、進捗度を「C」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	意見の内容でなく、数のみの件数は意味があるのかと思う。	長野委員	C	目標は未達。平成21年度から一貫して「C」評価であり、目標の立て方への再考を要するのではないかと。
河西委員	C	目標達成のためにはもっと積極的にできると思います。	橋本委員	C	未達のため、制度の告知も必要であるが、数量的な判断だけでなく内容が充実する方が望ましいと考えます。
木島委員	d	二年連続の未達。評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていない。また、案件ごとの意見件数のバラつきが大きく、平均件数の増加は、一部の件数が多かった案件が押し上げたに過ぎない。プラン目標の本質を考えると、様々な案件で意見がでることを想定していると思われ、「大幅な遅れがある」と考えざるを得ない。	廣瀬委員	C	目標意見提出件数にかなり届かず
栗原委員	C	—	福崎委員	C	回答が誠実で具体的であると、コメント提出への意欲が促進されると思います。
須藤委員	C+	目標に未達だが、逐年意見提出件数が増加している点をプラス評価。	星野委員	C	目標を下回る評価と考えます。
高木委員	C	平均意見提出件数が目標値を下回ったため。	町田委員	C	平成23年度の目標である100件を下回ってことでマイナス評価。
高島委員	C+	目標未達であるが様々な努力が見られるので+とした。	三浦委員	C+	目標達成には至っていないものの、前年度より向上が見られることを加点要素とする。



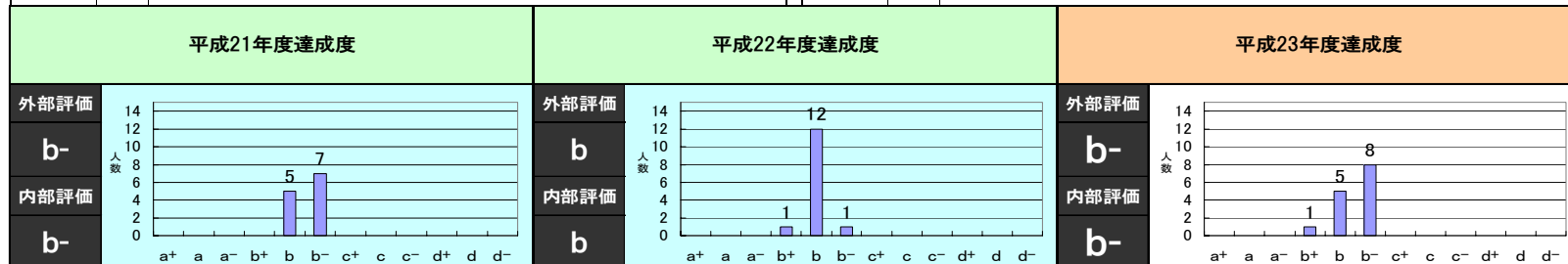
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度達成度（内部評価）		
						達成度	評価理由	
行財政改革	9-4	情報公開日本一を実現します。 (パブリシティの推進)	2年以内	・平成22年度までに、パブリシティの件数を約1,500件に増やします。 ・平成21年度中に、市長定例記者会見を月1回から2回に増やします。 ・平成21年度中に、教育長による定例記者会見を開始します。	①パブリシティの件数 1,500件 ②市長記者会見 年20回 ③教育長の記者会見 年6回	①パブリシティの件数 1,714件 ②市長記者会見 年20回 ③教育長の記者会見 年6回	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	件数を言うのでなく、何を広報すべきかが大切ではないかと思う。	長野委員	b	工程表どおりの内容である。
河西委員	b+	清水市長のご活躍ご健闘大変感謝しております。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗。 パブリシティについて、できれば件数だけでなく効果測定を行なって欲しい。件数を上回っての達成であっても効果が未知数で評価が困難。	廣瀬委員	b	アウトプット指標としては概ね達成。掲載率をもっと意識すべきではないか
栗原委員	b	-	福崎委員	b+	事業推進体制(人員、回答期間)と、寄せられた意見への回答(反映、検討、対応不可、所管外のため他へ伝達など、それぞれの回答数割合)について説明があったので、加点。
須藤委員	b+	パブリシティ件数の超過達成とメディア掲載率上昇をプラス評価。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と考えます。
高木委員	b+	パブリシティの件数が1,714件で、目標値を14%上回ったため加点評価した。	町田委員	b	予定どおりと判断。市長のみならず教育長の会見などについてもHP閲覧できるよう期待する
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	パブリシティの件数が目標値を上回っているが、震災という特殊事情もあったことが背景として考えられるので、加点要素とは見ない。



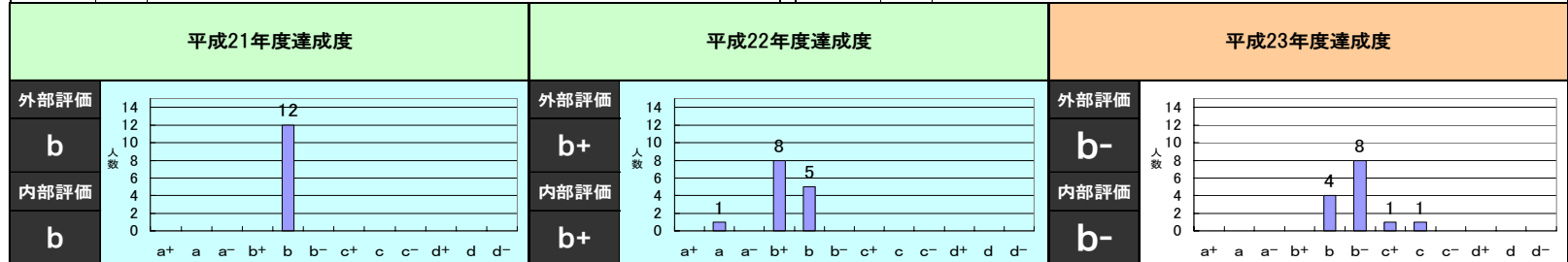
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
行政改革	9-6	情報公開日本一を実現します。 (市へ寄せられた意見とその対応状況の公表)	3年以内	・平成21年度中に、「わたしの提案」やタウンミーティング、各区で実施した対話集会、各団体から市長宛に提出された陳情書などの市に寄せられた意見とその対応状況をホームページで公表します。	①わたしの提案、タウンミーティング、対話集会、陳情書等の公表 ②広聴事業概要書を9月までに作成、公表	①わたしの提案、タウンミーティング、対話集会、陳情書等の公表 ②▼広聴事業概要書を12月に作成・1月公表	b-	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。広聴事業概要書の作成時期が12月になってしまったことを減点評価した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	意見を言う事は出来るが、解決策を見出し進めて欲しい。	長野委員	b-	概要書作成・公表の年度内での遅れはあったが、それ以外は概ね工程表どおりの作業と言える。
河西委員	b+	清水市長の市民に対する思いやりに大変感謝しております。タウンミーティングに参加してみようとおもいます。	橋本委員	b-	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。他事業でも事務作業の進捗の遅れがありましたが、作業量と人員配置に関して見直しが必要ではないかと思えます。
木島委員	b	公表遅延のマイナスと内容高評価のプラスを相殺し、「b」評価。広聴事業概要書の公表が遅延したのはマイナス評価。一方で、HP等で公表されている意見と対応状況は、内容や分類などがきちんとしていて、プラス評価にできる内容と考える。結果の素晴らしい施策が時期の遅延のため高く評価できないのは残念であり、他のプランへの模範となるためにも遅延しないように進めて欲しい。	廣瀬委員	b-	公表項目自体は目標を達成。広聴事業概要書の遅れを減点
栗原委員	b-	-	福崎委員	b-	内部評価の理由の通り。公表までのスピードは大事だと思う。
須藤委員	b	提案受付件数、タウンミーティング、対話集会の参加者数等の実績があがっており、広聴事業概要書の多少の遅れはあるが、全体としてb評価。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と考えます。但し、広聴事業概要書の作成が12月になってしまった為、減点評価。
高木委員	b-	広聴事業概要書を12月に作成、1月に公表し、目標していた時期より遅れたため。	町田委員	b	タウンミーティングの実施と公表、公聴事業の実施など予定どおりの実施と評価
高島委員	b-	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	b-	内部評価と同様の評価とする。



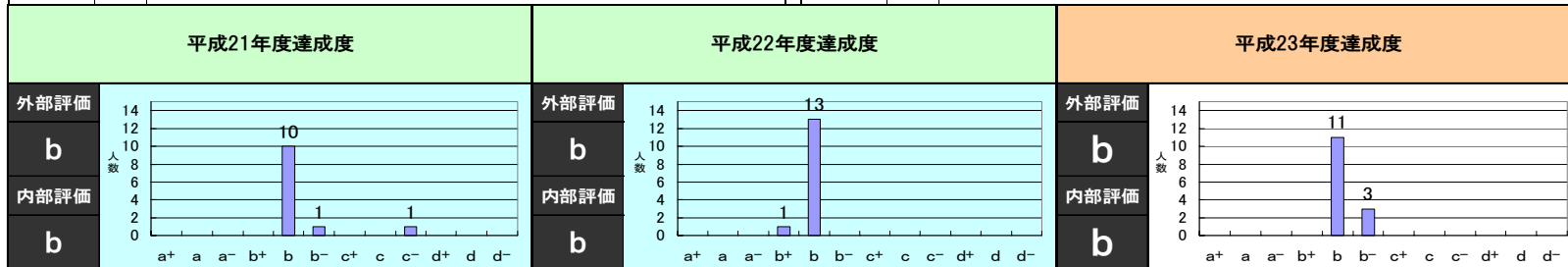
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度。の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合		H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由		
行政改革	12-2	行政職への民間人登用を含め、実力ある人を適材適所に配置します。 (民間企業等経験者の採用)	2年以内	・平成23年4月に、民間企業等における職務経験者の採用を5人から10人に倍増します。	①民間企業等経験者採用を10名で実施 ②教員について、「社会人特別選考」による選考試験の実施	①▼行政職で民間企業等経験者採用で7名を採用(3名辞退) ②教員について、「社会人特別選考」により2名を採用	b-	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。ただし、行政職について、採用選考後、3名が辞退した点を減点評価した。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	業務内容の説明に理解が得られなかった事による辞退と感じる。	長野委員	b	工程表どおりの成果であり、特に減点の必要はないと考える。但し、辞退者へは、その理由等、一定の追跡調査は必要と考える。
河西委員	b-	辞退者が出る理由がわかりません。外国人の門戸を広げる姿勢は評価できますが、さいたま市のような首都圏に近く大きなところはやはり警戒も対策も十分に熟慮した上で実行していただきたいと思います。	橋本委員	b-	概ね、事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。民間人登用の成果・変化等についても検証等が必要な時期かと思えます。
木島委員	b-	行政職7名、教員2名で概ね目標は達成と考えるが、辞退者が3名と多いためマイナス評価。辞退者は減らすことが可能と思われるので、早急に対策をたて実施して欲しい。	廣瀬委員	b-	内部評価と同じ
栗原委員	b-	-	福崎委員	c+	辞退者の理由もあると思われるので、10名内定されていた分を加点。
須藤委員	b-	辞退者が多い。面接時点で入所意思を明確に確認すべきである。	星野委員	c	目標を下回る評価と考えます。
高木委員	b-	行政職で民間企業等経験者採用で、3名が辞退し目標を下回ったため。	町田委員	b	予定人員の採用数に向けて取り組んでいることが伺えるため予定どおりと評価します。採用を辞退されたことは仕方ないことと判断します。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b-	内部評価と同様の評価とする。



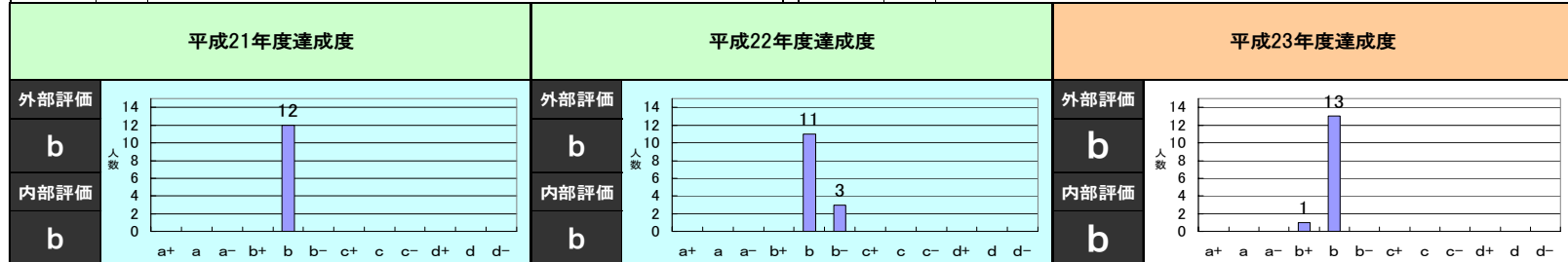
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合		H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由		
行財政改革	12-3	行政職への民間人登用を含め、実力ある人を適材適所に配置します。 (適材適所の人事配置)	2年以内	・平成21年度中に、職員の希望、意欲を反映した庁内公募制度を導入します。 ・平成22年度から、人事評価結果を活用した人事配置を実施します。	①公募に相応しいポストを選定し庁内公募を実施 ②人事評価結果を活用した人事配置	①5ポスト(7人)について、庁内公募を実施 ②人事評価結果を活用した人事配置を実施	b	平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表どおりの作業内容である。
河西委員	b-	地方への希望者が増えるようだと職員のみなさまに尊敬と感謝の念がもてるのと思います。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗。 人事評価結果をどう活用したかについての公開は難しいと思うが、これらの異動による成果(以前との比較)は測定し公表してもらいたい。 民間企業では広く行なっている施策であり、良い効果ができれば、ポストを広げるなどさらに発展させて欲しい。	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗
栗原委員	b-	「応募ゼロ」ということは、公募にふさわしいポストを選べてないのでは？また可能であれば、ポスト選定の理由を聞きたいです。	福崎委員	b	応募数やPR手法など詳しい報告があれば、質的加点。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b-	庁内公募制度を実施したという点では達成している。問題は実力ある人材を活用できているかどうかだが、その検証方法が不明確と評価。 職員へのインセンティブとしてはいい機会だと考える。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り進捗した。



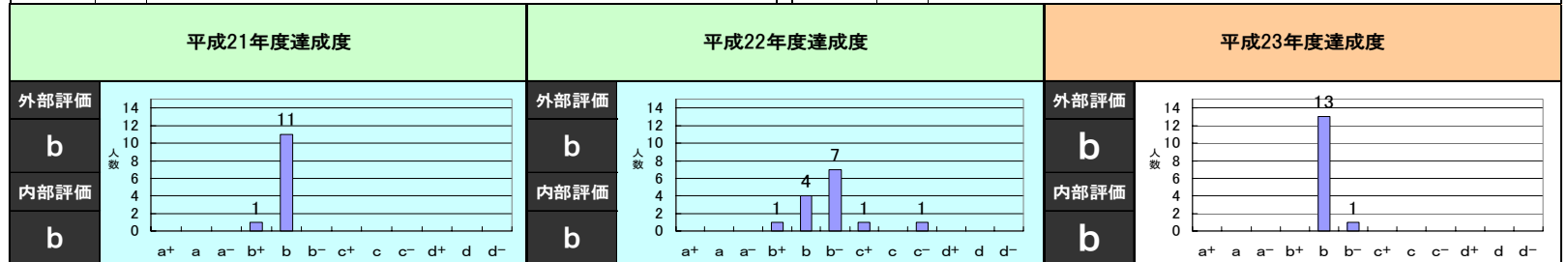
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合		H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由		
行財政改革	13	電子市役所を構築します。	4年以内	・平成22年度末までに、基幹システムの再構築を完了し、運用コストを削減します。 ・市民サービスの充実に向けた電子市役所を構築していきます。	第三次さいたま市情報化計画に基づき、各事業原課が目標を達成できるよう、支援・進捗管理を行う。 ①新さいたま市子育てWEBの稼働 ②市民の声システムの基本計画策定完了 ③コンビニエンスストアでの証明書発行に係る設計の完了 ④コンビニエンスストアでの証明書発行に係る設計の開始	①新さいたま市子育てWEBの稼働 ②市民の声システムの基本計画策定完了 ③コンビニエンスストアでの証明書発行に係る設計の完了	b	・平成23年度取組内容や工程表のとおり進捗したので「b」と判断した。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	個人情報に特段の注意と限定が必要と思う。	長野委員	b	工程表どおりの作業内容である。
河西委員	b	引き続き市民のためによりしくお願いいたします。電子化に魅力を感じる想像ができないので、便利さを実感して感謝したいと思います。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗。 ただし、すでに情報を配信、取得する方法がこれだけ広まっている中で、「行政の情報が市民に十分に伝わっていない(*)」というのはとても大きな問題と考える。他の倍増プランやさいたま市の発展にも大きく影響することで、本質的な解決(問題と捉えて)を図って欲しい。 *第三次さいたま市情報化計画の「市民に見える計画」より	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗
栗原委員	b	—	福崎委員	b+	コスト削減費の説明があったので、加点。ぜひ個票にも掲載してほしい。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	H23年度目標をすべて達成したことによる評価。 電子化によるメリットやコストバランスとの関係について市民への周知が必要。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り進捗した。



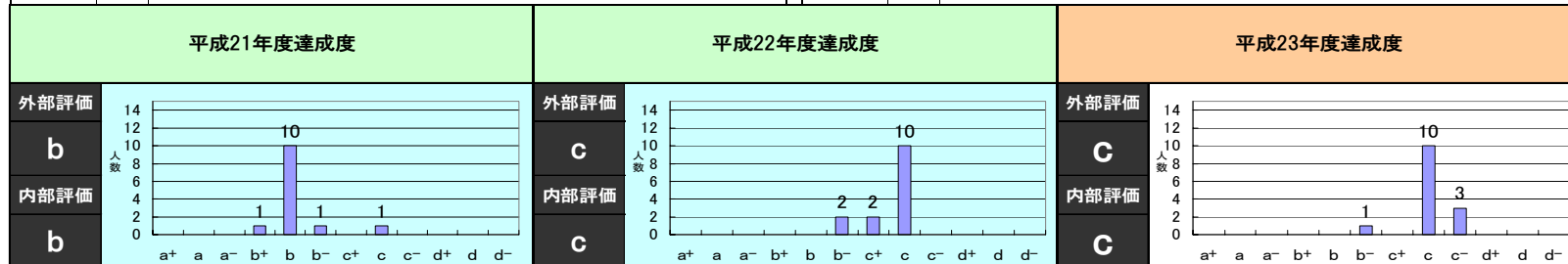
宣言分野	事業番号	倍增プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
市民・自治	14	区民会議・コミュニティ会議の活性化に向けた、検討会議を設置します。	すく	・平成21年度中に、区民会議・コミュニティ会議の活性化に向けた検討会議を設置します。 ・平成22年度中に、「区民会議・コミュニティ会議の活性化に向けた基本方針」を策定します。	①「区民会議及び市民活動ネットワークの活性化に向けた基本方針」に基づく新体制に移行 ②市民活動ネットワーク相互の連携を進めるための交流会の開催	①新体制に移行し、地域の課題について協議を行いました。 ②広報活動を行うとともに、各区での交流会を開催しました。	b	数値目標等を達成することができたため「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定どおりと判断。	長野委員	b	工程表に沿った取組である。
河西委員	b-	各区の自立より連携した支えあいが必要ではないでしょうか。	橋本委員	b	概ね事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標どおりの進捗。	廣瀬委員	b	予定どおりの進捗。
栗原委員	b	当初目標は達成されていますが、結果それが有効であったかどうかは疑問です。	福崎委員	b	—
須藤委員	b	1. 標準どおりの進捗と判断。 2. 各区毎に会議回数・交流会回数等に温度差がある点が気になる。	星野委員	b	目標どおりの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表どおり進捗し、目標を達成したため。	町田委員	b	予定していた事業において予定どおりの進捗と評価します。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程どおり進捗した。 ただし、平成22年度の基本方針策定が年度末ぎりぎりだったため、平成23年度の各区での取組は立ちあがりて若干の混乱が見られた。



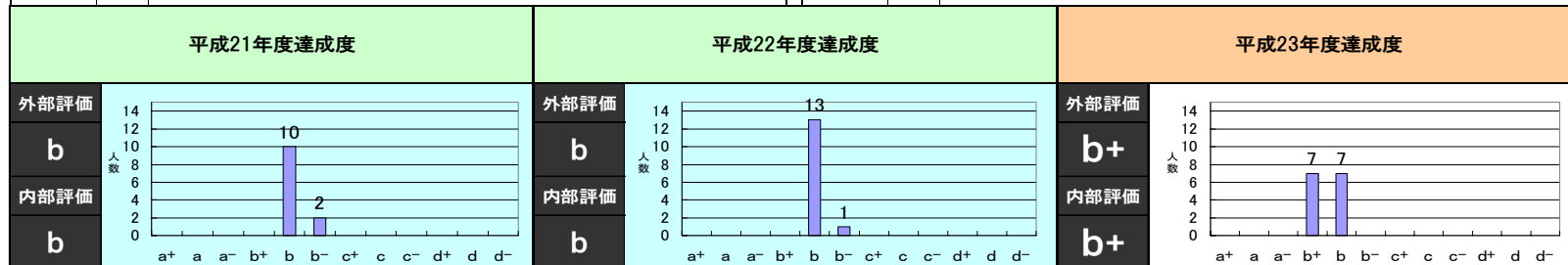
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
市民・自治	15	市民活動を推進するための「マッチングファンド制度」を創設します。	2年以内	・平成21年度末までに、市民活動を推進するための「マッチングファンド制度」を創設します。 ・平成24年度末までに、市民活動に対する支援を22件実施します。	助成事業実施件数7件	★助成事業実施件数4件	C	助成事業件数が目標に達しないことから、「C」と判定した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	件数が少なかった為。	長野委員	C	助成事業件数が当初予定を下回ったため、「c」と置きし、以下の項目への説明を踏まえ、確定としたい。 1)平成23年度当初予算に対する事業費充当率 2)課題として挙げられている「提案力を高めるためのコーディネート」とは、所管課としてどのような趣旨を意図されているのか。
河西委員	C	周知もまだまだの段階といった印象です。大きな成功もまだ少ないようなので市民の意欲や想像力に働きかける所までは至っていないという印象です。	橋本委員	C-	未達のため。 前年に続き、達成できていない点は早急に対応しなければならない。NPOや市民活動は活動への補助金等は活用したいと考えているはずではないか。どうしてマッチしないのか？
木島委員	C	昨年度に引き続き遅延。	廣瀬委員	C	制度はできたが、ニーズとのずれがあるのではないか。その分析はどう進められたか？
栗原委員	b-	9事業の応募を精査した結果の4事業であり、いたずらに助成をすればいい、という話でも無い事から。	福崎委員	C-	マッチングファンド制度の設置後、それが活用されたかを見る事業として、支援件数は重要だが、相談件数、応募数も合わせて重要だと思うので、目標項目に入れるべきかと思う。募集期間にのみ相談が集中したということで、短期間では応募に足る内容へ仕上げられなかったとの説明があった。民間の寄付と民間の活動をつなぐという点で、今後の発展を期待したい。
須藤委員	C	目標大幅未達につき「c」評価。	星野委員	C	目標に遅れが生じていると評価します。
高木委員	C	助成事業実施件数が目標を下回ったため。	町田委員	C-	実施件数が半分の実施ということで予定どおり進捗しなかった結果を評価 基金を設置し、基本的な運営基本方針を定めているにも関わらず、達成できなかった原因を追求することが必要です。前年度も予定を満たさなかった事業です。
高島委員	C	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	C	平成22年度と同じ課題を抱えている。 助成事業件数だけを目標値としたまま、平成24年度未達成でよいのか。新たな目標設定が望まれる。



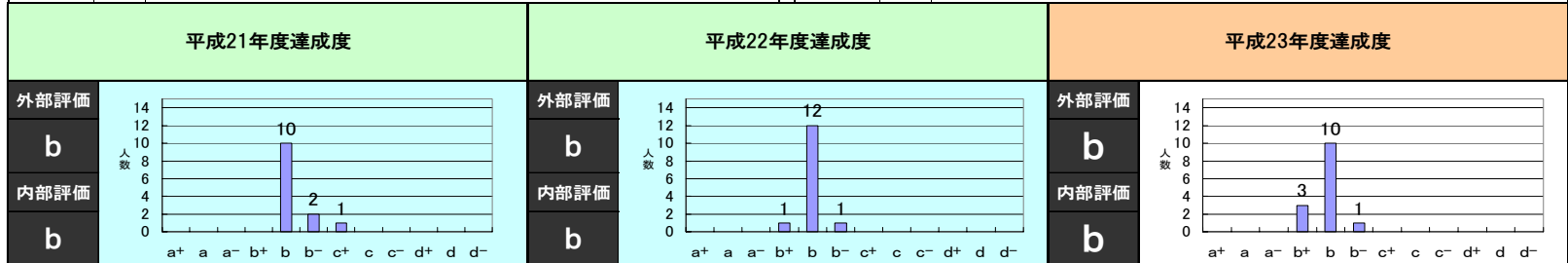
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
市民・自治	16	大学コンソーシアムの仕組みを構築します。	4年以内	・平成23年度末までに、市内のすべての大学（近隣を含む）と調整を図り、「(仮称)さいたま大学コンソーシアム」を構築します。 ・平成24年度末までに、大学コンソーシアムと包括協定を締結し、各大学との間で特色あるプロジェクトを実施します。	①大学コンソーシアムの構築 ②市と大学コンソーシアムの間で包括協定を締結 ③特色あるプロジェクト(市と大学との連携事業)の創出	①大学コンソーシアムさいたまの設立(10月) ②市と大学コンソーシアムさいたまの間で包括協定を締結(10月) ③△11事業を実施し、12事業で連携を検討	b+	・数値目標等を達成したため「b」と判断した。 ・また、幅広い分野で連携事業を実施できたため加点した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	内容が解らないが、事業が出来たので。	長野委員	b	工程表どおりの進捗であり、各所管課とのマッチングも各局にまたがる。ただし、当初目標にある「特色ある」の定義または価値判断基準が不明のため、加点要素とできるのか、判断できず。
河西委員	b+	この学生たちが今後のさいたま市を牽引する可能性も十分にあるので更なる発展を期待したいです。	橋本委員	b	概ね事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。 他のしあわせ倍増プランの事業とシナジー効果がみられる点は評価できる。より横断的な取組を願います。
木島委員	b	目標どおりの進捗。	廣瀬委員	b+	連携事業の積極的な展開を加点要素と評価。
栗原委員	b+	—	福崎委員	b+	—
須藤委員	b+	各大学の長を生かした連携事業が展開されており、評価に値する。	星野委員	b	目標どおりの進捗と評価します。
高木委員	b+	工程表どおり進捗し、目標を達成したため。連携事業が多岐にわたって実施していた点を加点評価した。このような事業は、学生の社会に対する意識レベルを高め、人とのつながりと視野を広げ成長出来る良い機会になると感じました。そのため、今後連携を検討している事業も是非実施し、さらに市と大学のつながりを深め事業の創出を図っていただきたいです。	町田委員	b	平成23年においてのコンソーシアムの設置、協定が結べたことで予定どおりと評価。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b+	内部評価と同様と判断する。



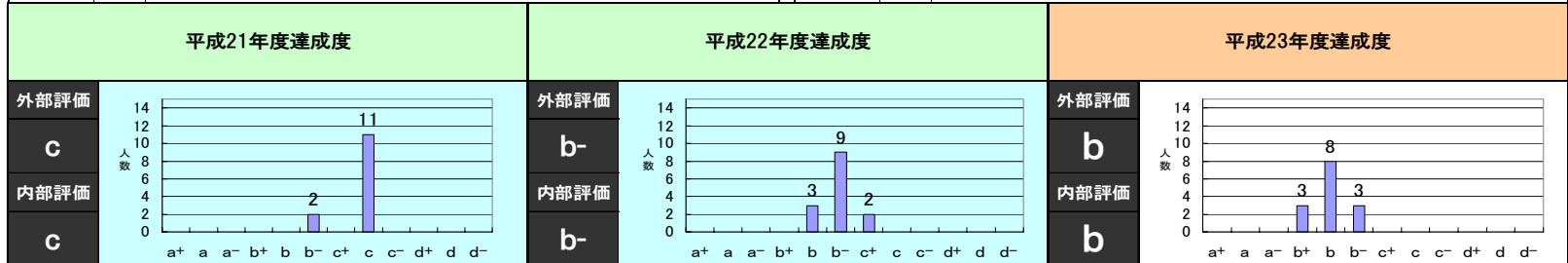
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	17	子どもの好奇心を伸ばすために、プロのスポーツ選手やアーティストなどによる授業を拡大します。	すぐ	これまでのスポーツ選手派遣事業などを、平成21年度から新たに「夢工房 未来(みら)くる先生 心れ愛推進事業」として拡大実施し、平成22年度はすべての市立小学校で、平成23年度からは、すべての市立幼稚園・小・中・特別支援学校で実施します。	すべての市立幼稚園、小・中・特別支援学校で実施	すべての市立幼稚園、小・中・特別支援学校161校で延べ181回実施	b	平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	内容は別として、工程表どおりと判断。	長野委員	b	工程表どおりの進捗・内容である。
河西委員	b+	分野がスポーツ音楽が多いようですが、その場で受けた感動が将来めざす目標や夢のきっかけになればいいと思います。コストの面で「+」。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	数としてはクリアしているが、倍増プランの狙いである「子どもの好奇心をのばす」についての成果が不明。	廣瀬委員	b	リストの充実を図るとともに、子どもたちとの交流の充実のために、授業の方法についての経験の蓄積を全市民的に共有していく必要がある。
栗原委員	b+	「報償費の削減」とあるが、当初予算からどの程度、削減できたのか？資料からは読み取れなかった。	福崎委員	b+	市内団体との連携で、報酬費を削減するアイデアを評価。
須藤委員	b	子供の将来の夢(将来なりたい職業)等も参考に講師を選定することも検討に値する。 (ex: 科学者、医者、パティシエ、美容師等)	星野委員	b	目標数を達成していますが、コストパフォーマンスを更に努力して下さい。
高木委員	b	工程表どおり進捗。161校に対して181回実施し、20回多く行っており、20校の子供たちが高評価だった点が良かった。コストパフォーマンス等の効率化に向けた取り組みが具体性に欠け分かりにくい。	町田委員	b-	目標設定していた学校のすべてで、実施したことで数値的な目標は達成できたと評価できる。 このような機会や情報は、地域社会への開放や地域との交流との場としてのきっかけづくりとしても有効と考える。ひとつの施策が多くの効果を生むような工夫や調整ができれば加点評価としたい。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。	三浦委員	b	事業の数値的実績は見えるが、内容や効果が見えない。生徒や担当教員の反響を踏まえた内部評価が求められる。



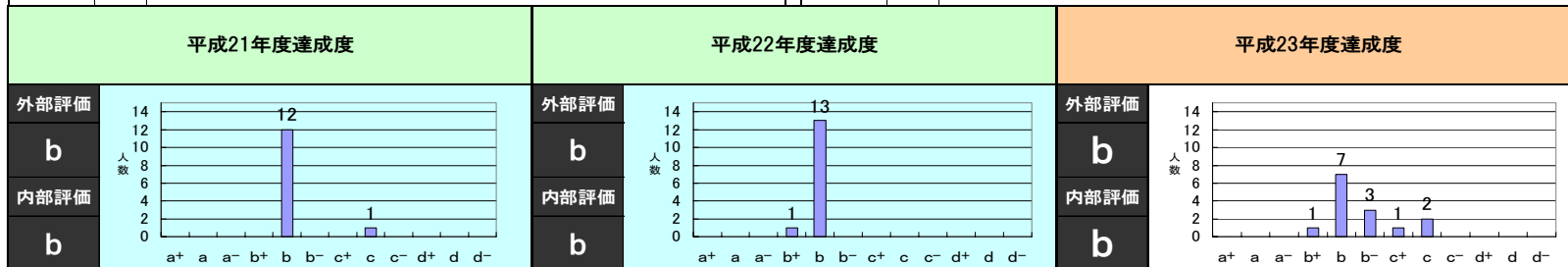
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	18-1	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎体力向上のための「なわとび・逆上がりのプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいざつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。 (読み・書き・そろばん)	2年以内	・平成22年度末までに、基礎学力定着プログラムなどを見直し、「読み・書き・そろばんプロジェクト」を推進します。	①研究指定校・推進モデル校14校の委嘱、研修会の実施 ②「さいたま土曜チャレンジスクール」15教室での書道・そろばんの実施	①研究指定校・推進モデル校14校の委嘱、研修会の実施 ②「さいたま土曜チャレンジスクール」15教室での書道・そろばんの実施	b	・概ね平成23年度の数値目標・取組内容・工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	内容は別として、工程表どおりと判断。	長野委員	b	工程表どおりの進捗と考える。 なお、土曜チャレンジスクールの全数と、それに対する15校が占める割合を要確認とする。
河西委員	b+	書道やそろばん昔はよく見かけましたが、今はあまり接することがありません。でも、読解力や伝達力は必要ですし、技能としても役立つはずだと思います。集中力も身につくと考え継続を評価。	橋本委員	b-	概ね、事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。 学習指導要領が変わり、現場における作業量の摺合せが行われているのかどうか、心配です。
木島委員	b	そもそもの目標が曖昧で、「推進」することが目標になっているが、H24年度は基礎学力向上が測れる指標を元に目標を設定すべき。	廣瀬委員	b	ワークシートの作成が進んでいることは分かるが、その活用度合いはどうか。
栗原委員	b		福崎委員	b-	国語力は間接的効果で、事業との因果関係は薄いのではないかと。
須藤委員	b+	読み「読書」の効用は広く認められており、「学習状況調査」での国語正答率の上昇等成果がでている点をプラス(+)評価。	星野委員	b	土曜チャレンジスクールでの開催回数は適正なのか？
高木委員	b+	取組状況で資料や内容をHP掲載したり、ワークシートやリーフレットを作成している点に工夫を感じた。 また、さいたま市学習状況調査の結果、平均正答率が向上している点に実施の効果が感じられ、効率的な取組であると判断した。事業費がH22とH23で0円であり、コストパフォーマンスの効率化がされている判断した。	町田委員	b-	実施したことで目標は達成されていると評価する。ただし、教室を実施することが目標とされているだけで、No.17の事業のような具体的な数値目標が見えないため、減点評価とする。そろばん教室こそ、地域講師などを招き、地域との交流が図れるよい機会だと考えるがそのような事業をモデル校として実施していれば加点評価としたい。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。	三浦委員	b	事業実施の結果として、学習状況調査のポイント上昇という成果が見られる。



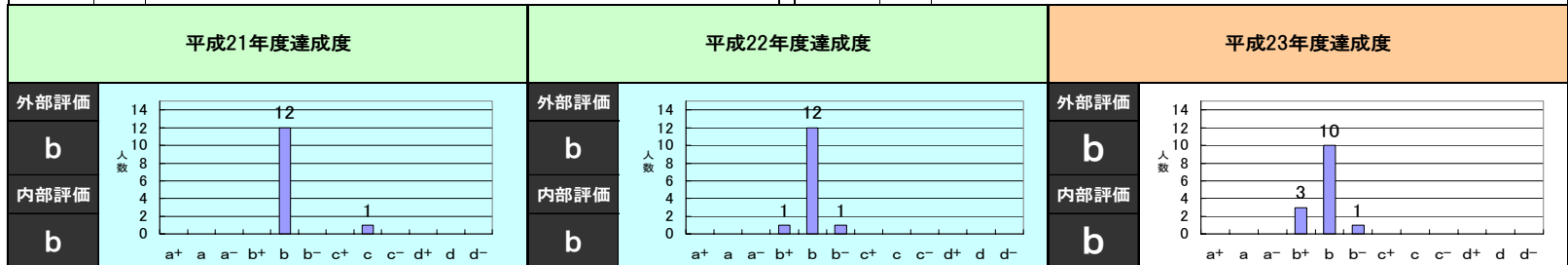
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合		H23年度達成度 (内部評価)	
						達成度	評価理由		
子ども	18-2	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいざつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。 (なわとび・逆上がり)	2年以内	・平成22年度末までに、長縄8の字跳びの参加グループ数を200グループ増やし、1,400グループとします。 ・平成22年度末までに、補助板を活用した逆上がり成歩率を91%から93%とし、平成24年度末までに、補助板を活用しない成歩率を70%から80%とします。	①長縄8の字跳びの参加グループ数3,655グループ ②補助板を活用した逆上がり成歩率93% ③補助板を活用しない逆上がり成歩率は75%	①△長縄8の字跳びの参加グループ数3,708グループ ②△補助板を活用した逆上がり成歩率94.1% ③▼補助板を活用しない逆上がり成歩率は70.5%	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	内容は別として、工程表どおりと判断。	長野委員	b-	八の字飛び参加グループは目標通りの水準であるが、逆上がり(補助板なし)の成歩率は目標を大きく下回る。
河西委員	b+	率直にいうと今の児童はやや身体がふっくらしている子が多いような気がします。エネルギーの過剰摂取や運動不足が原因とするならば、必要な能力として学習として目標を数値化したたりなどして取り組むようにできればいいと思います。ゲームや漫画のようなインドアな遊びに制限をかけたり否定的に考えるより、運動能力向上を、九九のように必須であると概念として共有できれば、運動能力のボトムアップになると思います。コスト面で評価。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。 職場が学校の近くにありますが、該当プロジェクトの活動を見たことはありません。
木島委員	b-	補助板なしの成歩率は昨年目標に達せず、質問に対し「今後とも取組の周知、充実を図っていく」と回答があったにも関わらず特に対策が打てていない。評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。 H24年度は基礎学力向上が測れる指標を元に目標設定を検討して欲しい。	廣瀬委員	b	22年度の中学年の取組成果が、24年度の高学年の成績となってくる。その段階でこのプログラム全体が成功したのかどうか判断するととらえるべき。
栗原委員	b		福崎委員	c	逆上がりを成功させることが事業の取組指標であるため、減少について重視。
須藤委員	b		星野委員	c+	補助板を活用しない逆上がり成歩率が目標に届かなかった。
高木委員	b	工程表どおり進捗。基礎体力向上のため、参加グループ数が増えた点が良い。逆上がりで補助板にこだわる必要もない気がする。二人一組みで行うなど、相手をサポートすることで達成し、お互いの成長につながれば良い。	町田委員	c	補助板を活用しない逆上がり率が具体的な数値目標であるため、その目標値75%は達成できていたため「c」とする。 数値目標の達成が主目的でなく、こどもたちの「自信」や「生きる力」を育むのを真の目的としていただきたい。
高島委員	b-	おおむね工程表どおりだが、 が目標を下回ったので「-」とした。	三浦委員	b	目標どおりの成果が見られる。



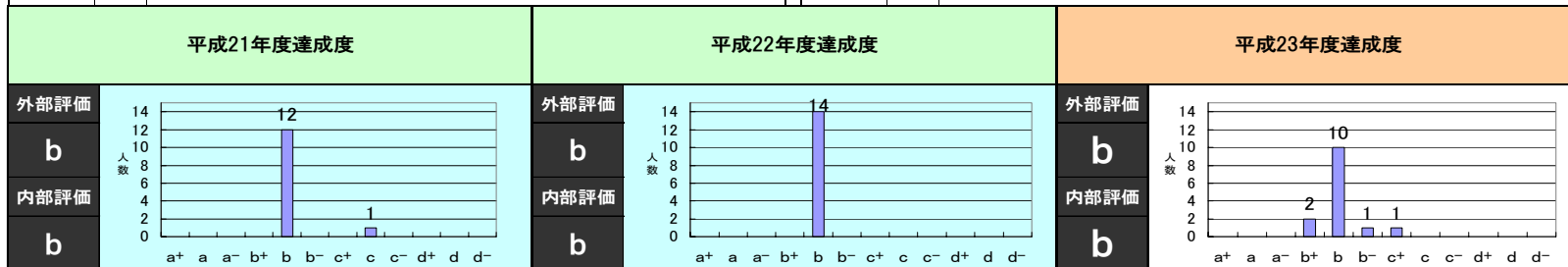
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗率の要旨 進捗度c、dの要旨 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	18-3	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。 (あいさつ・礼儀)	2年以内	・平成22年度末までに、あいさつや礼儀を踏まえた言葉で溢れる学校づくりを目指し、すべての市立小・中学校で「あいさつ運動」に取り組めます。	・あいさつや礼儀を踏まえた言葉で溢れる学校づくりを目指し、指定を受けた「あいさつ運動推進モデル校」の取組例を示すなど、各学校における「あいさつ運動」の充実に取り組めます。	・「あいさつ運動」を保護者、地域の方々、関係機関と連携して実施。 ・「あいさつ運動推進モデル校」(小・中併せて20校)による「あいさつ運動」を推進。	b	・平成23年度の取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	内容は別として、工程表どおりと判断。	長野委員	b	工程表どおりの取組・成果と判断する。ただし、参考資料(19-22頁)の各取組は全校で実施したものの、一部のみであるのかが、資料から判断できず。仮に一部のみであれば、評価は下げる必要があるであろう。
河西委員	b	あいさつは人間の基本です。習慣化は当然必要なことです。もっとアイデアを加えて週間間で英語、中国語、フランス語などと外国語まで身につけられれば楽しいかも。初めのあいさつだけでもできるようにになれば今後外国人とコミュニケーションにも役に立つかも。モデル校だけでなくコストを抑えて全校で取り組めないのですか？保護者とか職員の負担がないと取り組めないのですか？	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	「取り組む」ことが目標となっているため、少しでも行えば評価となり、反面きちんと取り組めていることが高く評価できない。 H24年度はできる限り測定可能な単年度目標を設定するなどの工夫をし、今まで通り高い意識で取り組んで欲しい。	廣瀬委員	b	概ね期待された成果がでているのではない。
栗原委員	b+	取組の対象を保護者まで広げた事を評価。	福崎委員	b+	ネットワーク形成に力を入れている点。
須藤委員	b	社会生活の基本であり、地道な取組が望まれる。	星野委員	b	—
高木委員	b+	工程表どおり進捗。校舎内の工夫だけでなく、ポスターや絵画を掲示し、地域ぐるみであいさつの啓発を図った点が良い。さらに、事業費が毎年減っているため、効率的であると判断した。具体的になぜ、どのように減ったかが分かる点に良い。	町田委員	b-	あいさつ運動をどのように取り組んだかが評価どころ。実施した点では予定どおりと評価する。ただし20校のモデル校のみでは、全市立小中学校の15%にも満たないため、減点評価とする。授業の中で人間関係プログラムなるものを独自展開した点は、工夫点として加点要素としたい。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。	三浦委員	b	目標どおりの成果が見られる。



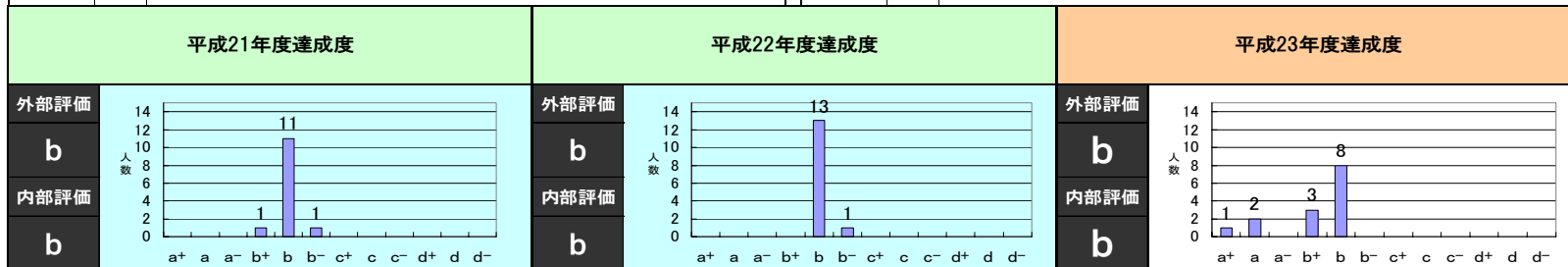
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績	H23年度達成度 (内部評価)	
						進捗度aの要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	達成度	評価理由
子ども	18-4	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎体力向上のための「なわとび・逆上がりのプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。 (早寝・早起き・朝ごはん)	2年以内	・平成22年度から、生活習慣向上のための「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する市独自のキャンペーンを実施し、すべての市立小・中学校で取り組みます。	①「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する「すくすく のびのび 子ども生活習慣向上」キャンペーンの全市立小・中学校での実施 ②研究指定校・推進モデル校委嘱 ③生活習慣に関するアンケート調査実施	①「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する「すくすく のびのび 子ども生活習慣向上」キャンペーンの全市立小・中学校での実施 ②5月に研究指定校4校・推進モデル校10校を委嘱 ③4月に生活習慣に関するアンケート調査を児童生徒と保護者を実施	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	内容は別として、工程表どおりと判断。	長野委員	b	工程表どおりの進捗と判断する。
河西委員	b	「早寝・早起き・朝ごはん」は基本的に家庭の管轄と思いますが、将来の健康面にも関係するのでキャンペーンはとても有意義だと思います。ただあくまでも「早寝・早起き・朝ごはん」心がける意識の問題なので結果の数字は状況把握のためだけで成果程度は参考までに。極端に成果の変化(数字)が見られたのが気になりました。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	18-3基礎学力向上のためのプロジェクト(あいさつ・礼儀)と同様。「取り組む」ことが目標となっているため、少しでも行えば評価となり、反面きちんと取り組めていることが高く評価できない。H24年度はできる限り測定可能な単年度目標を設定するなどの工夫をし、今まで通り高い意識で取り組んで欲しい。	廣瀬委員	b	概ね期待された成果がでていない。
栗原委員	b		福崎委員	b+	アンケート調査の活用をしている点。
須藤委員	b	家庭との連携が大切であり、親への啓蒙も併せて図る必要がある。	星野委員	c+	キャンペーンでは具体的に何をしているかが明確でない。
高木委員	b	工程表どおり進捗。	町田委員	b+	キャンペーンをどのように実施したかは読み取れなかったが全校で実施した実績により目標数値は達成したと評価します。モデル校の設定やアンケートの取組など独自性のある取り組みもされており、課題も見いだせたという点において、加点評価とします。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。	三浦委員	b-	取組そのものは目標どおりかもしれないが、その結果を図るアンケート調査からは取組の成果があがっているかどうか、判断がつかない。



宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	19	「放課後子ども教室」を増増します。	2年以内	・平成22年度末までに、放課後子ども教室を20教室増やし、40教室に倍増します。 ・平成25年度末までの全小学校区の配置を目指し、平成24年度末までに、80教室とします。	①新規30か所含む、合計70か所実施 ②新規開設にあたり、さいたま市唯一の放課後子ども教室の一体的な整備・拡充を実施。	①新規実施32か所を含む、合計72か所実施 ②平成22年度より、整備計画の1年前倒しを実施	b	・平成23年度の目標、工程表のとおり実施したため、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	整備計画が予定どおりと判断。	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b	放課後や土曜日のケアとはすぐくゆきと似たサービスだなと思います。ならば協力者を積極的に募って徹底したものになればいいと思います。今年度の期待事業でしょうか。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。教職員の負担はどの程度か？ ボランティアの確保については？
木島委員	a	倍増プラン策定時の工程表より早く進捗している。 (実績72箇所/工程60箇所 = 120%)	廣瀬委員	b+	前倒しの計画を若干上回っていることと、アンケート結果が非常に好評であることから、加点了。
栗原委員	b		福崎委員	a+	前期の遅れを取り戻し、工程表より進んだ点。他事業との連携は重要。
須藤委員	b+	延べ参加人数84,500人と多数に及び子供への影響が大きいこと、並びに整備計画の1年前倒し実施・達成をプラス(+)評価。	星野委員	b	ボランティアの人数の確保や研修会にどのように取り組んだかをご回答いただきたい。
高木委員	b+	予定を上回る数で実施し、参加人数が多く、さらに参加児童の評価が高いため「b+」判断した。内容も充実している。整備計画を1年前倒ししている点も良い。	町田委員	a	放課後チャレンジスクールの具体的実施が当初計画を超えて実施されているため、目標を上回っていると評価します。また、地域住民のかかわりや地域の特性をどの程度生かしているのかが資料ではよみとれないためこの点を考慮して最終的な評価とさせていただきますと考えています。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。	三浦委員	b	教室数は目標通り拡充している。ただし、地域の声を聴くと、開設済みの小学校で定員オーバーとなっている実態があるようなので、受け入れ児童数の拡充も今後の課題と思われる。



ヒアリング対象	
H23年度主な実績	H23年度達成度 (内部評価)
進捗度aの要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	達成度 評価理由

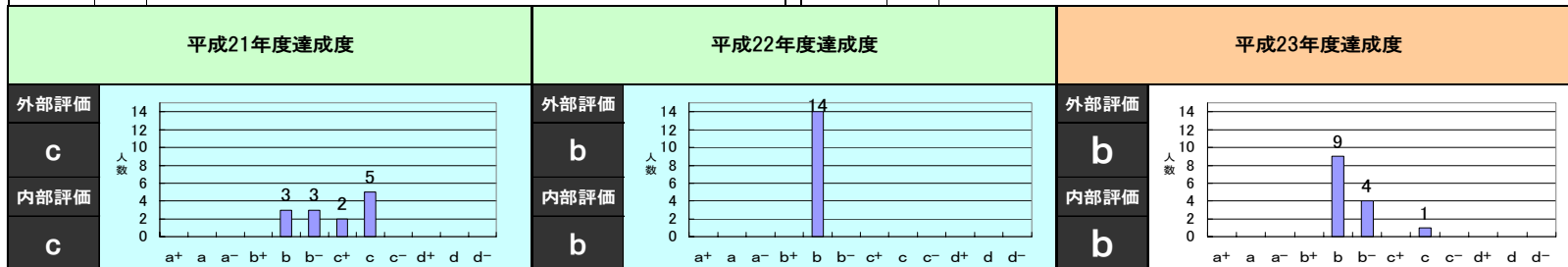
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績	H23年度達成度 (内部評価)
子ども	20-1	児童虐待ゼロを目指し、対応する職員（保健師、児童相談所員など）を増員します。 (児童相談所の充実)	2年以内	・人口1人当たりの児童福祉司、児童心理司の人数が政令指定都市でトップクラスになるよう、児童福祉司12人、児童心理司3人、児童精神科医師1人を増員します。 ・虐待相談の対応のうち、継続指導を行う割合を3%から20%に増やします。 ・施設入所中の児童と保護者に対して援助を行うことにより、家族再統合の割合を全入所児童の75%とします。	①継続指導の割合 15% ②家族再統合の割合 全入所児童の50%	①継続指導の割合 6.8% ②家族再統合の割合 全入所児童の52.6%	C ・家族再統合については、平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗しているが、継続指導については数値目標を達成していないため「C」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	基礎件数の相違による。	長野委員	C+	年度当初目標に設定された「継続指導の実施割合」は目標には未達である。ただし、当初計画に従って人員は拡充されたものの、通告件数・緊急対応件数の絶対数が大きく拡大したため、継続指導の活動に割り当てることが出来る人的資源が十分なほど拡充しているとは判断できない。
河西委員	C	目標を数字で設定することが適当なのか、数字による結果は現実を映しているか疑問です。	橋本委員	C	未達のため。実情と表記される目標との差があるので、評価が難しい。
木島委員	C	継続指導の割合未達。「課題」欄に上げている、職員の専門性向上の強化はもちろん、職員に対するケアも重要と考えられる。	廣瀬委員	b-	分母の急変により数値目標は達していないが、継続指導すべきものをしていくという方向への取組が予定に沿って進められているので、「b」の減点と評価した。
栗原委員	C		福崎委員	C	活動実績の報告内容が変更されたが、数値目標の設定における重要な課題を提示したように思う。今後の計画策定時には、数値目標の算出にあたり、全体数を何にするかをよく検討してほしい。
須藤委員	C+	2つの目標の内、一方は未達成だが、他方は達成しており、全体としては「c+」とした。	星野委員	C+	目標に達していないと評価するが、事務の効率化や一定の努力が見られる為、加点評価。
高木委員	C+	継続指導の数値目標は達成していないが、児童虐待ゼロを目指し、対応する職員を増員し、取組内容が充実していたため加点評価した。	町田委員	C	家族再統合が予定どおりであることは評価します。指導割合が約半分の目標達成であることより達成に遅れがあると評価します。こどもにとっては、早期の希望の持てる環境づくりが必要です。行政がどこまで踏み込めるかが課題ですが、時には強引な姿勢も必要かもしれません。見守りだけでは解決は困難です。
高島委員	C	内部評価と同じです。	三浦委員	C	児相担当ケース(調査要)の増加に対して、継続指導件数は前年比減少している。他機関との連携を更に深めるなど課題も見えている。児相の役割をより明確にしていく必要があると感じる。児相専門職を増やさなければ、適切な継続指導は実施できない。国内他市とのレベル比較だけでなく、欧米先進諸国との比較で充実を図ってもらいたい。

平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度	
外部評価		外部評価		外部評価	
内部評価	C	内部評価	b	内部評価	C
	C		b		C

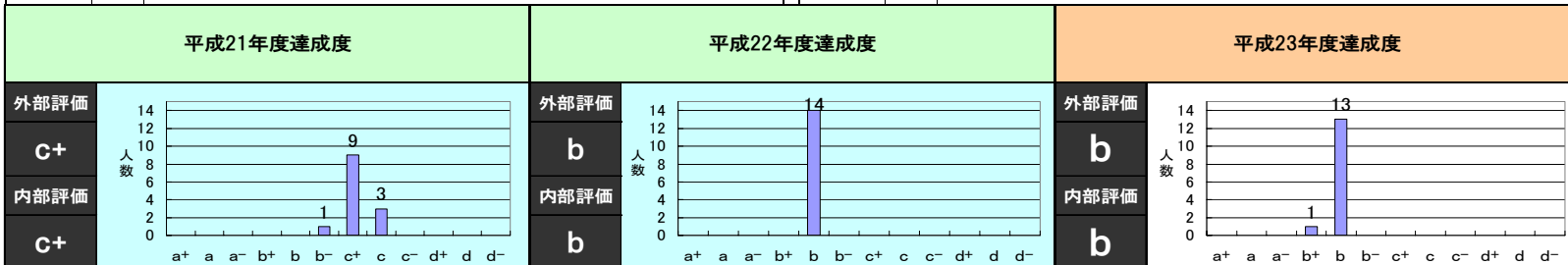
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合		H23年度達成度 (内部評価)	
						達成度	評価理由		
子ども	20-2	児童虐待ゼロを目指し、対応する職員（保健師、児童相談所員など）を増員します。 (保健所の充実)	2年以内	・児童虐待防止の体制を強化するため、保健師4人を増員し、専任組織を設置します。 ・対応職員の資質の向上を図り、育児中、イライラすることが多い親の割合を10%以下に減らします。	①保健師3人増員 ②体系的な研修の開催(5回) ③専任組織「(仮称)親子すこやか支援係」の設置	①保健師3人を増員 ②平成23年度子ども虐待予防対応研修会を開催(11回332人参加) ③専任組織「(仮称)親子すこやか支援係」設置への取り組み(平成24年度設置)	b	・市内部での調整に時間がかかり、平成23年度に、専任組織としての「(仮称)親子すこやか支援係」設置とはならなかったが、グループ体制として実質的には機動していたので「b」と評価しました。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	整備計画が予定通りと判断。	長野委員	b-	研修受講者が対象層のどれだけカバーしているのか不明のため、判定が難しい。専任組織が設置されなかったことについて「要望しただけできなかった」と報告されている。個票の記述は市としてオーソライズされた内容であることを鑑みれば、内部組織編成権を持つ市長の判断の誤りから主張しているとは理解してよいのか？こうした批判を是とすると、本委員会が検討する全項目に対して、目標達成が出来なかった理由として、市長あるいは予算査定を担う財政部門の責任を非難するという部門間対立の構図が持ち込まれてしまうのではないかと危惧される。
河西委員	b	親の感情は子供に大きく影響していきますが、育児はあまりにもケースバイケースなことなので取り組みの効果はわかりません。ただ姿勢は評価できますし、その姿勢が虐待を減らしていくことを期待します。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。 数値目標で掲げられているイライラ10%-に違和感があるので、削除は出来ないのか？
木島委員	b	「課題」欄に上げている、関係機関との連携強化や地域での包括支援は特に重要。専任組織の活動はもちろんだが、それを市全体でフォローする仕組みでなければ関係機関との連携強化は難しいはずで、「市内部での調整」も重要だが、速やかに進捗して欲しい。	廣瀬委員	b	専任組織の設置が遅れた減点と、研修の充実による加点で相殺。
栗原委員	b	研修についての評価と組織設置に至らなかった点を相殺し「b」とした。	福崎委員	b-	係の設置が進んでいるが、工程表より遅れている点。
須藤委員	b	少人数の専門化で効果的に事業が行えるよう、各種関係団体(NPO等含む)との連携がより重要。	星野委員	c	「(仮称)親子すこやか支援係」の設置に至らなかったのが残念です。
高木委員	b	工程表通り進捗。平成23年度子ども虐待予防対応研修会参加者がH22年に比べ約2.5倍増えている点が良い。	町田委員	b	本当に必要なところへ、必要なサポートを積極的に実施して欲しいと願います。子どもも親にも「あなたはひとりではない」という心のケア・いつでも相談できる。なんでも気軽に話せるという環境の構築が必要と考えます。
高島委員	b-	おおむね工程表どおりだが、 が設置に至らなかったため「-」とした。	三浦委員	b-	現行の係内で専任のグループ体制を整えた点とあるが、専任であれば係をつくれるはずではないか。なぜ、専任係をつくれなかったのか。その係の業務分掌は本当に専任と言えるのか。



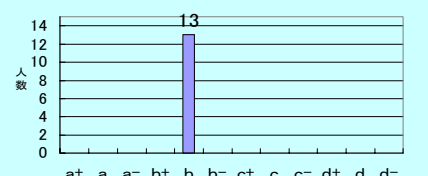
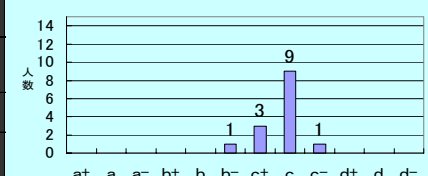
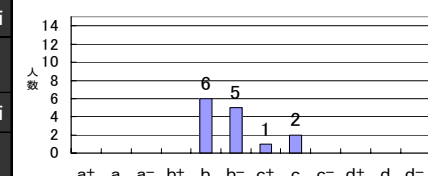
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由
子ども	21	家庭・地域・学校が連携して取り組む「土曜日寺子屋」を実施します。	4年以内	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度末までに、すべての市立小・中・高等学校で「さいたま土曜チャレンジスクール（どちゃれ）」を実施します。 平成24年度末までに、すべての市立小・中・特別支援学校に「スクールサポートネットワーク（SSN）」を構築します。 	①さいたま土曜チャレンジスクール実施校80校 ②スクールサポートネットワークの構築80校	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	b ・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	整備計画が予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの進捗と考える。
河西委員	b	ヒアリングを期待しています。とても必要なことだとしても、現場感よくわかりません。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。SSNの実態について説明がほしい。教職員の関わりは？
木島委員	b	目標通りの進捗。	廣瀬委員	b	回数、実施校については目標通り。運営体制上の課題に取り組まれているか。
栗原委員	b		福崎委員	b+	ネットワークの構築を重視している点。
須藤委員	b	少ない子供を地域で育てるという発想であり、参加者も多く、今後の内容充実を期待。なお、義務教育外の市立高校を含める事の是非は検討が必要。	星野委員	b	「土曜日寺子屋」を実施してどのような内容を実施しているのかが明確でない。
高木委員	b	工程表通り進捗。	町田委員	b	実施目標は達成しているため予定どおりと評価させていただきます。HPでの目的に示された、「こどもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかにはぐくまれる環境づくり」がチャレンジスクールで実現されているか、創意工夫した運営がなされているかをヒアリングさせていただき、加点・減点評価として修正させていただければと考えています。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。チャレンジスクールの実情を知るために、スタッフサイドへのアンケートも必要だと考える。	三浦委員	b	実施校は目標通り拡充している。ただし、地域の声を聴くと、開設済みの小学校で定員オーバーとなっている実態があるようなので、受け入れ児童数の拡充も今後の課題と思われる。



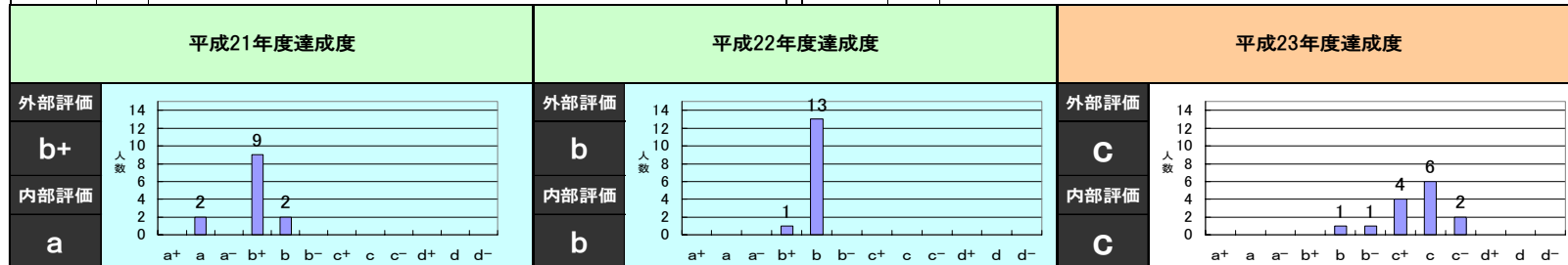
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	22	子どもの想像力を高める「子ども博物館構想」を推進します。	4年以内	・子ども博物館の実現に向け、平成22年度末までに、「子ども博物館構想」等として取りまとめます。	・子ども博物館構想の取りまとめ	・子ども博物館構想(案)として取りまとめ	b	・平成23年の目標のとおり概ね進捗したので、進捗度を「b」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	整備計画が予定通りと判断。	長野委員	b-	構想に対して庁内の最終決定(承認)は行われていないため、「市によるとりまとめ」とは言えないのではないか。
河西委員	b	基本的に、箱ものの計画は(子供総合センターの予定もあることだし。)、どうしてもつくるのなら利用率の均整と100年は持つ頑強なもの。	橋本委員	c	停滞感があります。
木島委員	b-	庁内の調整、意思決定が困難な案件と推定できる。案を作り上げたのち、構想を具体的に取りまとめるための工夫が見られていないため、マイナス評価とする。H24年度も継続してこの事業を実施するのであれば、この構想をどうするのか、目標を明確にかつ具体的に設定し、その上で実行するべきと考える。	廣瀬委員	b	構想としてはとりまとめられ、プランの目標までは到達したが、その先をどう実現していくのか。
栗原委員	b		福崎委員	c+	ソフト事業の実施がされた点。
須藤委員	b-	いわゆる「箱物」であり、内容と費用(ランニングコスト含む)対効果を充分検証する必要あり。	星野委員	b-	構想の取りまとめんびに関して市民のニーズをどの程度掴んでいるかが疑問です。
高木委員	b-	効率的に実行に移した事が具体性に欠け分かりにくい。	町田委員	c	具体的な方向性が見えないため評価がわかりません。昨年度の「都市経営戦略会議」での議事録にも紹介されてきましたが、必ずしもハードに特化した施策にならなくてもよいと個人的には考えています。さいたま市全体が「こども博物館」という発想を目指し、ソフトの充実を願います。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。	三浦委員	b	目標通りの成果が見られる。

平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度	
外部評価		外部評価		外部評価	
内部評価	b	内部評価	c	内部評価	b

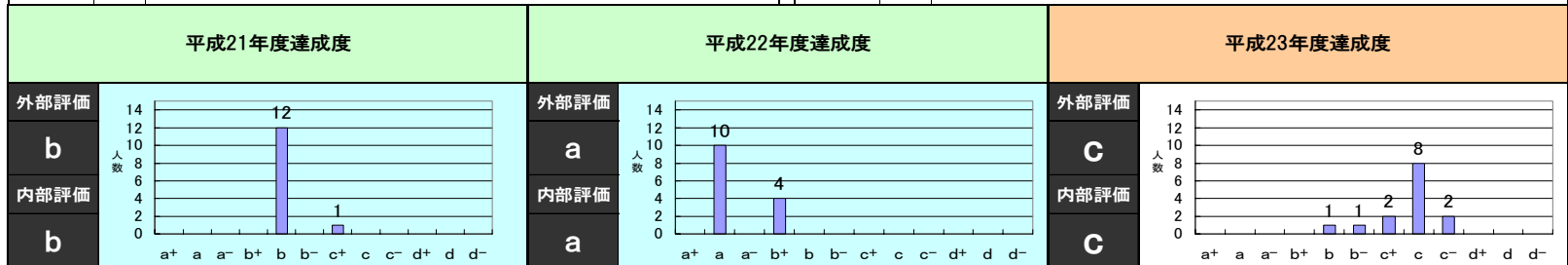
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要旨 進捗度c、dの要旨 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	23-1	「子育て/VV応援プロジェクト」を推進します。 (1日保育士体験)	4年以内	・平成24年度末までに、父親の1日保育士・教諭体験参加者数を、年間1,280人にします。	・体験参加者数1122人(平成22年度実績の320人増)	・★体験参加者数973人	C	・平成23年度の数値目標を達成できなかったため、進捗度を「c」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	目標に達しないため。	長野委員	C	目標値に達せず。 「職場での休暇取得が課題」と提示するならば、市による公共事業・調達等の参入条件として誘導するというこまでを政策意図を含めての記述であるのか？
河西委員	b	すごくおもしろい取り組みだと思います。参加者や認知がのびなくても10年以上の長いスタンスで取り組んでほしいです。	橋本委員	C	未達成への検証はなされているのか？それを踏まえた参加アプローチへの取り組みはされているのか。 さいたま市職員の参加者数はデータであれば知りたい。
木島委員	C-	課題として職場での休暇取得としているが、そもそも父親が参加するための機会づくり、動機づくりへの取り組みが見られない。 目標数未達(実績981人/目標1,122=87%)に加え、取組みへの工夫が見られずマイナス評価とする。	廣瀬委員	C+	23年度目標としては達成できていないが、当初計画の目標には届いているので、加点。
栗原委員	C	より一層、職場等への配慮が必要。	福崎委員	C+	着実に参加者が増えている点。感想文掲示など父親の参加意欲を高める工夫。
須藤委員	C+	目標未達ではあるが、逐年参加者数が増加している点を評価し、「c+」とする。	星野委員	C-	参加動員について努力が足りないように思います。
高木委員	C	参加者数が目標より少なかったため。参考資料が少ない。	町田委員	b-	父親の子育てへの理解・参画という点で、当初の予定数どおりの実績をあげた点で予定どおりと評価しますが、修正目標にはいたらなかったため減点評価とします。 さいたま市内への企業へのPRや、経営者への理解がイクメンの普及には大きな効果があると個人的には考えています。こどもの未来のためにも周囲の環境の価値観をかえることで父親が気づくという仕掛けをお願いしたい。そのためにも産業振興課や教育委員会、地域振興課など、関係各課との連携をお願いしたい。これらの連携や実績があれば加点評価としたい。
高島委員	C	目標に達していないので進捗度は「c」と判断。 不達の理由についての分析をし、24年度につなげてほしい。	三浦委員	C+	難しい取り組みだが、着実に参加者は増えており、懇談会の開催や感想文のフィードバックなど、成果共有の取り組みも評価できる。



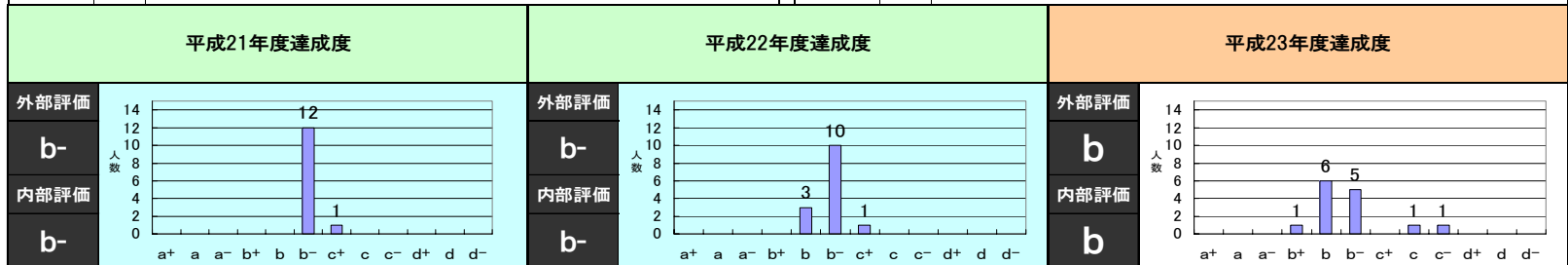
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合		H23年度達成度 (内部評価)	
						達成度	評価理由		
子ども	23-2	「子育て/VAI応援プロジェクト」を推進します。 (子育て支援センターの活用)	4年以内	・平成24年度末までに、すべての単独型子育て支援センターで土曜日開所を実施します。 ・平成24年度末までに、各センターで実施する父親主体の講座やイベントを年12回に増やします。	①各センターで実施する父親主体の講座やイベントを年10回開催 ②各種の媒体を利用して広報し、利用者数5%増加(対前年比)	①各センターで実施する父親主体の講座やイベントを年12.2回開催 ②★市発行の子育てに関する冊子やWEBサイトに情報を掲載するも、利用者数1%増加	C	・各センターで実施する父親主体の講座やイベント開催実績は目標を達成できたが、利用者数の増加目標は達成できなかったため「c」と判断。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	目標に達しないため。	長野委員	C	利用者数は目標に大きく届かず。
河西委員	b	ババママいずれにも土曜日の施設開所は意味があることだと思います。	橋本委員	C	利用者減の分析は？ 事業内容とのミスマッチなのか環境要因なのか？
木島委員	C-	目標数未達（実績1%：目標5%）に加え、利用者増加への取組みの工夫が見られずマイナス評価とする。 利用者減の理由を猛暑のためと回答されたが、そうであれば今後の課題として暑さ対策を盛り込む必要がある。	廣瀬委員	C+	活動指標的には目標通りの取り組みだが、利用が広がっていない。
栗原委員	C		福崎委員	C-	利用者アップの工夫を、もっと増やして報告してほしい。
須藤委員	C	利用者数拡大の難易度高い。 利用者（父親）のニーズ（講座内容、開催日時等）を探ると共に広報のあり方も検討すべし。	星野委員	C	—
高木委員	C	市発行の子育てに関する冊子やWEBサイトに情報を掲載したが、利用者数が伸び悩んだ理由を調査した方が良い。見てる人や興味を持つ人が少なかったのか。それはなぜなのかなど。	町田委員	b-	支援センターの開設、土曜日の開所については当初の予定どおりと評価します。 利用者の増加は日曜開設が大きい効果を発揮すると思う。 企業へのPR活動も有効と考える。優良企業制度などに子育ての評点を増点し、経営者の啓発育成が大切と考える。
高島委員	C	が目標に達していないので進捗度は「c」と判断。 更なるPRの方法を考え、利用者数の増加につなげてほしい。	三浦委員	C+	講座やイベントの実施や広報なども努力が見られるが、顕著な利用者増にはつなげていない。 次年度に向けて、課題や改善点を明確にする必要を感じる。



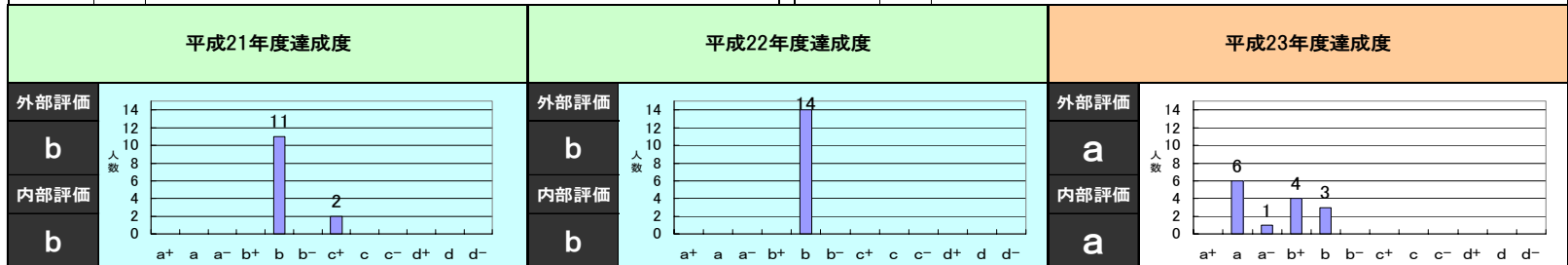
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要否 進捗度c、dの要否 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合		H23年度達成度 (内部評価)	
						達成度	評価理由		
子ども	23-3	「子育てWLB応援プロジェクト」を推進します。 (ワークライフバランスの認知度向上)	4年以内	・平成24年度末までに、ワークライフバランスの認知度を35%にします。	①ワークライフバランスの認知度35% ②父子健康手帳の作成 ③子どもフォーラムでの周知 ④企業向けワーク・ライフ・バランスセミナーの開催 ⑤ワークライフバランス会議の開催	①☆ワークライフバランスの認知度51.5% ②父子健康手帳の作成 ③子どもフォーラム2011での周知 ④セミナーの開催 ⑤★ワークライフバランス会議開催に向けた調整	b	・平成23年度の数値目標、取組み内容のとおり進捗したため、「b」と判断。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b-	推進組織としてのWLB会議は構築されず。認知度調査でインターネット調査が利用されていることについて、調査サンプルの偏りが大きいこと十分予想されるため、その結果を評価情報として利用することは留保せざるを得ない。
河西委員	b-	用語の認知度よりも意識と実行あってこそと考えます。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	c-	二年連続でワークライフバランス会議が開催できていないことに加え、評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。	廣瀬委員	b	認知度は大きく向上したが、さいたま市の取り組みの効果とは思われないので。
栗原委員	b-	ワークライフバランスの浸透度が上記2項目の数値向上の鍵となるのでは？	福崎委員	b-	会議の開催がされなかった点。
須藤委員	b	目標設定として「ワークライフバランス」という抽象的かつ一般に浸透していない度数を掲げることの是非。仮に目標とした場合、認知度をどう計測したのか。	星野委員	b-	ワークバランスの認知度を調べる方が不透明です。アンケートの回答数など詳細がわかりません。
高木委員	b+	ワークライフバランスの認知度が51.5%に向上(プラス)と、ワークライフバランス会議開催に向けた調整(マイナス)でのプラスが上回ったと判断。	町田委員	c	PRのためのHP作成や子どもフォーラムでの周知活動などについては、予定どおりに実施したのかもしれないが、認知目標値が示されているため、その達成度では、50%程度であるため「c」評価とします。今年度の施策に期待します
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。	三浦委員	b	目標の達成度は「b」評価となるが、この取り組みの成果なのか、単に社会的認知が進んだタイミングだったのか？



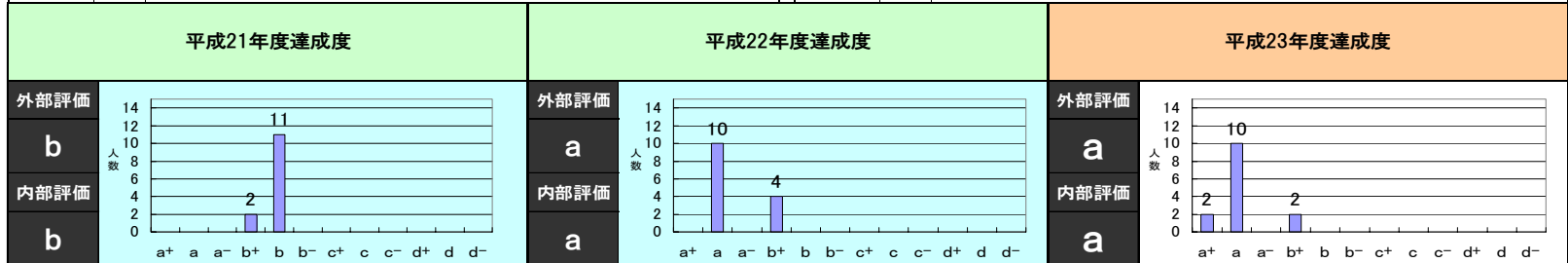
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c、d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	23-4	「子育て/ババ応援プロジェクト」を推進します。 (親の学習などのアドバイザー育成・親育ち支援策)	4年以内	・平成24年度末までに、すべての公民館で子育て/ババ・ママ向けの講座を実施します。	①親の学習ファシリテーターを25人養成する ②親の学習事業を各区1公民館でモデル的に実施する	①△親の学習ファシリテーターを41人養成した ②△親の学習事業を生涯学習総合センター及び各区1公民館でモデル的に実施した	a	・親の学習ファシリテーターの養成人数について、目標を大きく上回る41人を養成したことから、進捗度を「a」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	親の学習に対し理解されていないため。	長野委員	b+	ファシリテーター養成講座について、実技・卒業試験などにより、人材の品質管理がどこまで図られているのか判断できないため、25名目標に対する41名という意義が判定できない。
河西委員	b+	すべての公民館にこだわる必要があるのでしょうか。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。効率化、実施に向けた特筆すべき取り組みがないので、加点しませんでした。
木島委員	a	ファシリテーター養成の達成率を評価。 (実績41人/目標25人=164%)	廣瀬委員	a	学習ファシリテーターの養成数が伸びた。
栗原委員	b+		福崎委員	a-	町田委員のコメントから、ファシリテーターが逆に新しい問題を生む可能性もあると知りました。こうした状況も把握されていると思うので、解決策を報告・実施してほしいです(課題分析不足で質的減点)。
須藤委員	a	超過達成を評価。 今後の活用を期待。	星野委員	a	-
高木委員	a	親の学習ファシリテーターの養成人数が、目標を大きく上回る41人を養成したため。	町田委員	b	ファシリテーターの育成、公民館での新規講座の開催など予定どおりと判断。ファシリテーターの予定数を上回る認定者は、加点要素としたいところだが、運営側の体制に課題があると感じているため「b」評価とした。市内全59の公民館で講座を開催する計画を策定しているが、主催する側の公民館とファシリテーターの意識のギャップが大きいという話をよく聞く。運営サイドの現場に事業の必要性を説明するとともに、職員への育成・啓発も必要だと感じている。
高島委員	a	内部評価と同じ理由で進捗度「a」と判断。	三浦委員	b+	ファシリテーター養成は目標数値を上回った。



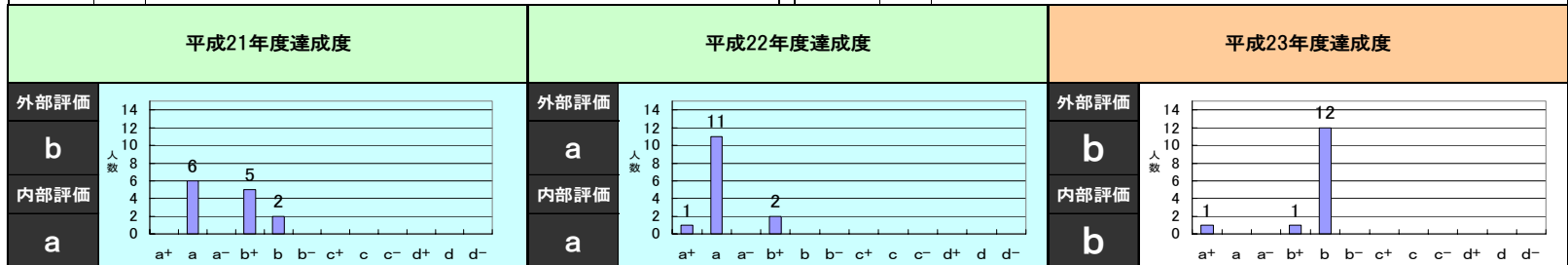
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c、d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	24-1	保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。 (認可保育所)	4年以内	・待機児童ゼロを目指し、平成24年度末までに、認可保育所の定員を1,100人増やします。	①保育所定員400人増 ②翌年度の定員400人増に向けた準備	①☆保育所定員580人増 ②☆翌年度の定員730人増に向けた準備	a	・平成23年度の数値目標を上回る進捗を実現したため、「a」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	予定を上回ったため。	長野委員	a	目標を上回る実績値を得ている。ただし、H22年度中に行われるH23年度目標設定と、H23当初予算編成は相互応答的であることを踏まえると、本事業は補助金交付で誘導すると考えられるため、事業者への補助金枠を設定する段階でどのような見積もりを立てたのか、確認が必要かと考える。なお、補正予算で対応しているということであれば、別の議論となろう。
河西委員	b+	待機児童はゼロが理想的です。空きがあるくらいが望ましいです。	橋本委員	b+	内部評価を受けて、加点。
木島委員	a	保育所定員増の人数達成率を評価。 (実績580人/目標400人=145%)	廣瀬委員	a	目標を上回る整備が進んだ。
栗原委員	a		福崎委員	a+	利便性を重視している点。
須藤委員	a	喫緊かつ重要な事業の超過達成を評価。保育需要が高い地域での定員増加が図られた点も評価。	星野委員	a	—
高木委員	a	保育所定員が580人増え、翌年度の定員730人増加に向けた準備を実現し、目標を上回ったため。	町田委員	a+	待機児童解消についての予定の定員増にむけて、400人予定を580人の定員増であり、目標を上回っていると評価。平成24年度においても当初計画の8割増の数値で計画していることに加点評価。
高島委員	a	内部評価と同じ理由で進捗度「a」と判断。 しかしながら、待機児童がさほど減っていないのは目標設定の誤りか？	三浦委員	a	目標数値を上回った。



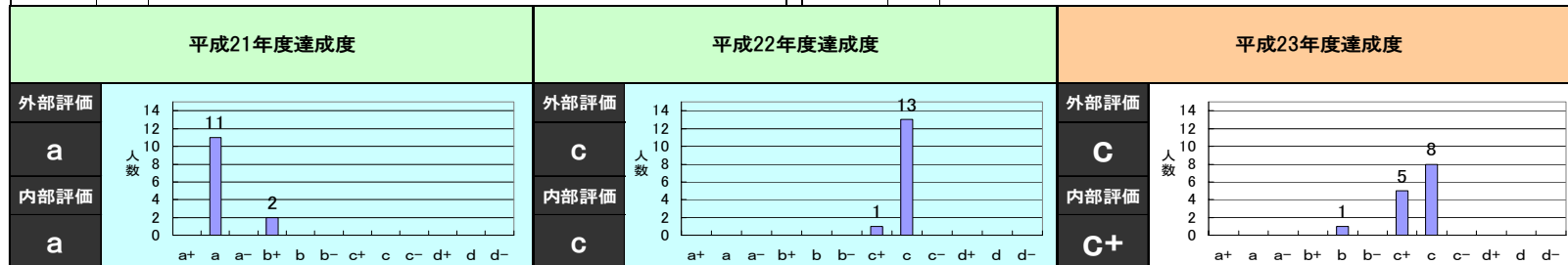
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗率aの要素 進捗率c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	24-2	保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。 (ナースリールーム・家庭保育室)	4年以内	・待機児童ゼロを目指し、平成24年度末までに、ナースリールームと家庭保育室の定員を合計900人増やします。	①ナースリールーム・家庭保育室定員300人増 ②翌年度の定員300人増に向けた準備	①ナースリールーム・家庭保育室の定員317人増 ②翌年度の定員328人増に向けた準備	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りのため。	長野委員	b	工程表通りの進捗である。
河西委員	b	ナースリールームのような場所の需要は多いのか、また望ましいのか。新生児の受け入れをお断りするのはいけないけれど、需要の増加を見込むのもどうなんだろう。もちろん空きがあるくらいの状態で、施設の充実はいいことです。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗。	廣瀬委員	b	概ね目標通り
栗原委員	b		福崎委員	a+	利便性を重視している点。
須藤委員	b	定員増だけではなく、中味の点検も必要。 利用者の満足度等	星野委員	b	—
高木委員	b+	利便性の高い駅周辺をはじめ、需要の高いエリアを中心に定員増を行い、目標を上回って達成したため。	町田委員	b	待機児童解消についての予定の定員増にむけて、300人予定を317人であることで予定通りの進捗と評価
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。	三浦委員	b	認可保育所は年度目標を上回る整備が実現している(予算づけがされている)のに対し、ナースリールーム・家庭保育室は設備基準を満たす申請が目標より多いことになぜ対応できないのか？



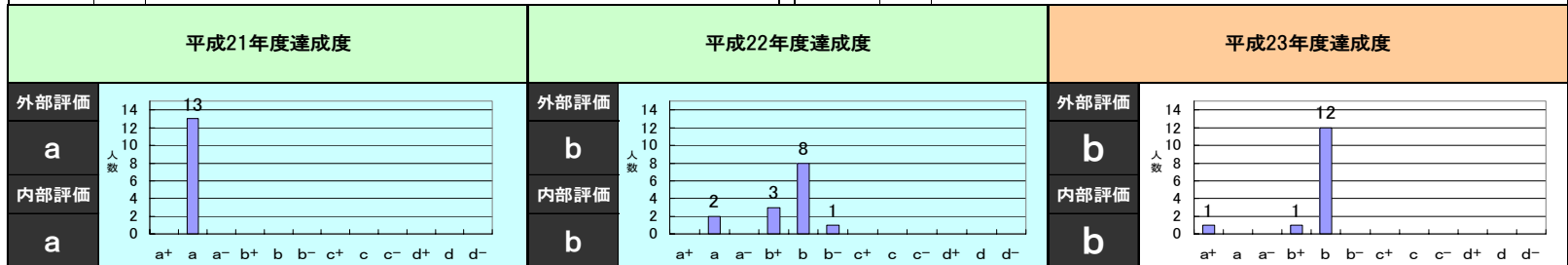
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績		H23年度達成度（内部評価）	
						進捗度 a の要素 進捗度 c、d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	達成度	評価理由	
子ども	24-3	保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。 (放課後児童クラブ)	4年以内	・待機児童ゼロを目指し、平成24年度末までに、民設放課後児童クラブの整備により、受入可能児童数を1,440人増やします。	①受入れ可能児童数360人の増員 ②翌年度の受入れ可能児童数360人増に向けた準備 ③公民保護者負担の平準化の検討 ④空き教室利用についての検討	①★受入れ可能児童数309人の増員 ②翌年度の受入れ可能児童数360人増に向けた準備 ③△公設クラブ指導料の見直し ④野田小学校の余裕教室活用による新規開設	C+	・平成23年度の受入れ可能児童数の目標を達成していないため、「c」と判断。公民保護者負担の平準化を図るため、公設指導料の適正化を決定することができたため加点評価とした。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	目標未達のため。	長野委員	C	残念ながら受け入れ可能児童数の増員は目標に大きく届かず。公設クラブ指導料の見直しは8,500円/年という目標水準が市として設定された。ただし、実施を担保する制度は構築(改正)されていないため、検討の終了段階と判断する。
河西委員	b	空き教室の利用は評価。放課後や土曜日と共通のプランはないか。	橋本委員	C	停滞感があります。公設指導料の適正化の決定は、当然の行政行為。加点評価までは届かない。
木島委員	C	二年連続での未達だが、ヒアリングで可能児童数は減少していることを確認。また、今後の対策を実施しており、効果はH24年度以降にすることを確認。	廣瀬委員	C+	内部評価と同じ判断
栗原委員	C+		福崎委員	C	どのような見直しをしたのか報告がないので、評価できない。
須藤委員	C+	子どもの健全な成長と母親の社会参画、労働市場への参入をサポートする事業として重要度大。コスト面を考慮しつつも、予算の傾斜配分や人材(シルバー層、主婦)の有効活用により必達すべし。	星野委員	C+	今後も待機児童の増加が見込まれるので数値目標の見直しも検討して下さい。
高木委員	C+	受入れ可能児童数309人の増員は目標を達成していないため、「c」と判断。公設クラブ指導料の見直し、野田小学校の余裕教室活用による新規開設のプラス評価で加点評価した。	町田委員	C	予定数360人に対して309人であったことより目標と比べて遅れていると評価します。
高島委員	C	目標に達していないので進捗度は「c」と判断。	三浦委員	C	チャレンジスクール、認可保育所と同様に、きちんと目標に対応する予算や体制づくりに取り組めば、達成できるのではないかと。量的目標が未達になっている原因は何なのか、分析と解決策の提示をお願いしたい。



宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	25-1	北九州方式を参考とした小児救急体制や産科救急体制を整備します。 (小児救急)	4年以内	・市民に対して小児救急医療の正しい受診方法の普及啓発を行うことにより、小児救急医療の一層の環境整備を図り、小児救急医療体制を確立します。 ・市内の医師会・中核病院の協力を得ながら、初期・二次・三次といった重層的な小児救急医療体制を確保した上で、平成24年度末までに、二次や三次の医療機関で受診していた初期救急患者の割合62%（平成21年2月時点）を、35%以下に抑制します。	①小児救急医療体制の確立及び小児救急医療の提供（平成22年の初期救急患者割合14%） ②「さいたま市小児救急ガイドブック」の作成・配布 ③適正受診に関するポスターを試験的に掲示 の検討	①初期救急患者割合10% ②「さいたま市小児救急ガイドブック」を2万部作成・配布 ③適正受診に関するポスターを試験的に掲示	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	工程表通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの進捗である。
河西委員	b	救急の件だけではなく小児専門の医療の場所移転についてくわしく知りたい、ヒアリング希望します。親の小児医療の勉強の場をもてないでしょうか。育児の中で不安感を救急医療の充実だけに頼るよりも、建設的だと思います。むしろ県と協力して大規模で日本一クオリティーの高い設備を目指してほしいです。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗。目標を達成できている背景にガイドブックのわかり易さといった地道な取り組みが考えられる。	廣瀬委員	b+	—
栗原委員	b		福崎委員	b	初期救急患者割合は減少がいいのか不明確。事前質問の回答によって評価変更する。
須藤委員	b		星野委員	b	—
高木委員	b	初期救急患者割合が10%で、前年度に比べ下がっているが、「さいたま市小児救急ガイドブック」を2万部作成・配布しているため「b」と判断。	町田委員	a+	当初目標であった初期救急患者の割合35%以下が10%であることより目標を上回って達成していると評価します。その数値にあっても達成度では200%を超えることより加点評価とします。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。	三浦委員	b	目標通りの成果が見られる。



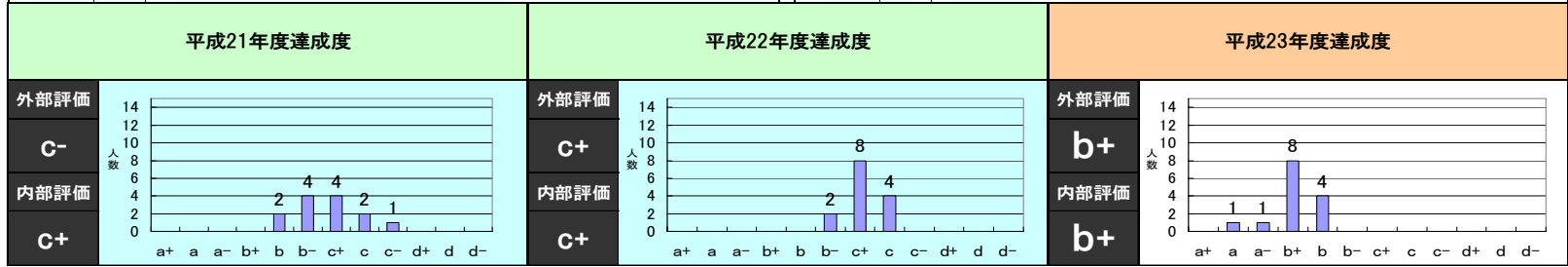
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績	H23年度達成度（内部評価）	
						進捗率の要否 進捗率c、dの要否 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	達成度	評価理由
子ども	26	高校教育の底上げを図り、質の高い特色のある学校づくりを推進します。	4年以内	・平成24年度末までに、市立高校に在学する生徒・保護者の満足度100%を目指します。	①学校における検討の最終報告の実施(7月) ②第3回市立高等学校教育満足度調査の実施(12月～)	①市立高等学校将来構想検討委員会を7回開催 ②市長と教育委員の意見交換会を開催(8月) ③市立高等学校教育満足度調査の実施(1月)	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	満足度に関し意見交換したため。	長野委員	b	工程表通りの進捗である。
河西委員	b	進学や英才教育と平行してさいたま市全体のボトムアップまでつなげたいと思います。満足度の数字が高いですが、「満足度」があまりに抽象的で何を指すのかわかりません。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。満足度100%の標記に違和感を感じます。
木島委員	b	目標通りの進捗。 H24年度の単年度目標を満足度100%とはしていないが、それを達成しなければ仮に取り組みがうまくできても評価はできない。(最終目標が満足度100%であることは質問への回答で確認) 質の高い特色のある学校づくりを目指して行なった取り組みであることを認識し、常時検証していくことが重要。各校の計画が特色となっていくか、効果測定や方針転換の検討が必要。	廣瀬委員	b	内部評価と同じ判断。
栗原委員	b		福崎委員	b+	合同授業といった、高校間交流の取り組みがあった点。
須藤委員	b		星野委員	b-	来年度100%に向けて更なる努力が必要と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗。	町田委員	b	100%の満足度を目標にするのは難しい設定だが、年々満足度が向上しており23年度は90%を超えたことで予定通りの進捗と評価。 数値の向上は大切なかもしれないが、広く生徒や保護者や地域住民との対話を通して有意義な教育の場としての質の確保に尽力いただきたい。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。	三浦委員	b	目標通りの成果が見られる。 ※市立高等学校教育満足度調査の全調査項目(設問)の資料提供を望む。

平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度	
外部評価		外部評価		外部評価	
b		b		b	
内部評価		内部評価		内部評価	
b		b		b	

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗率の要旨 進捗率c、dの要旨 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	27	一人ひとりの子どもが輝くために、心のサポート推進事業を充実します。	4年以内	・平成22年度末までに、不登校の状態から登校できる状態となった子どもの割合を50%に高めます。 ・平成21年度中に、いじめ対策プロジェクトチームを設置し、教職員研修の充実やいじめ問題の解消を目指す取組を推進します。	・平成23年度末までに不登校の状態から登校できる状態となった子どもの割合を50%に高めます。	・△指導の結果、不登校の状態から登校できる状態となった子どもの割合は、62.7%となりました。	b+	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。 不登校の状態から登校できる状態となった子どもの割合が62.7%となったことなどを加点評価。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b+	予定通りのため。	長野委員	b+	年度目標を上回る結果を得ている。
河西委員	b	子どもの虐待の場合と同様に数値による目標設定が妥当なのかどうか、あくまでも参考であって、現状把握が大切だと思います。ネットの普及で、通常のモラルや道徳の内容を見直して、専門家を増やす以外に教師側も新人ベテラン共に時代に沿うべく研修が必要ではないでしょうか。	橋本委員	b	概ね、事業計画(工程表)のとおり進捗していると判断しました。 Q. 不登校児童生徒数990名のうち、62.7%が登校状態になったのか？
木島委員	a	不登校から登校になった割合の増加を評価。(実績62.7%/目標50%) ただし、取り組みにプラス評価とするほどの大きな工夫は見られない。 課題にあげているそもそも不登校を未然に防ぐ、という取り組みに期待したい。	廣瀬委員	b+	—
栗原委員	b+		福崎委員	a-	事業と数値結果の因果関係が直接的なものか不明な点。
須藤委員	b+	不登校児童に関しては両親の心痛等の負荷大。 学校と家庭の連携(ex:専門のカウンセラーの共同活用等)の方法を検討すべし。	星野委員	b+	登校できるようになった子どものケアを引き続きお願いします。
高木委員	b+	不登校の状態から登校できる状態となった子どもの割合は、62.7%となり、目標を上回って達成したため。取組内容も充実し、成果が出たため。	町田委員	b	不登校児の解消率50%という目標値が、平成23年度に62.7%ならば、目標値を上回っていると評価。しかし、この2年間学校でPTA活動をさせていたが、数値ほど不登校の生徒が教室に戻れたという認識が持っていない。また現場においても不登校の解決に向けて、きわやか相談員と保護者、学級担任がお互いに協力して不登校の生徒への対応を積極的にしていたという認識はない。不登校の問題は、全体生徒の数の中では数%の少数対策であるがゆえに、その解決のための努力は相当なエネルギーを必要とする。不登校と今はなっていない他の保護者の理解も必要となることが多い。教師への不登校の問題も理解されているとは思えない。保護者・教師への研修や周知の取り組みが今後も継続して必要と考える。
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。	三浦委員	b+	登校できる状態になった児童割合が目標を上回った。

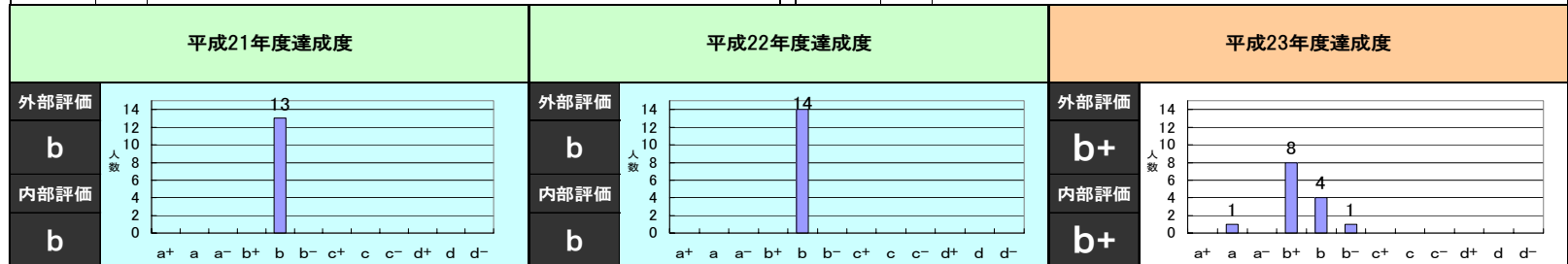


【委員評価一覧】ヒアリング対象外事業（第2回委員会:6月1日(金)開催）

部分が委員会後変更箇所

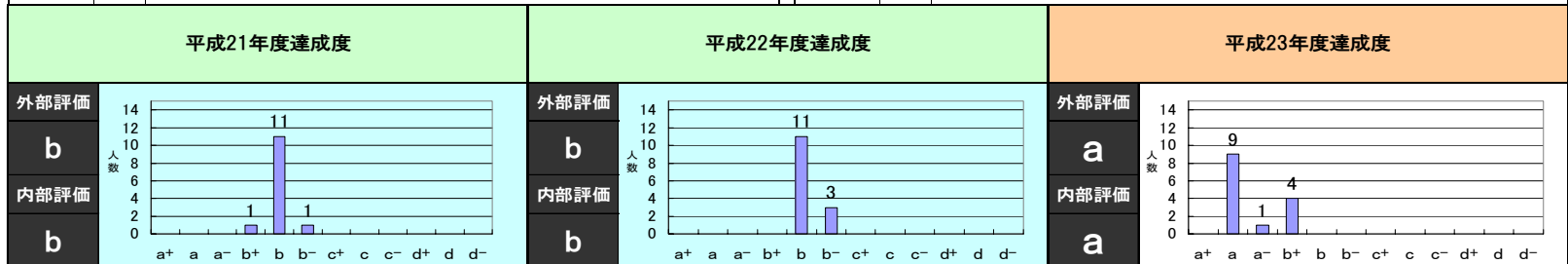
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	28	ノーマライゼーションの理念の共有化に向け、障害のある人もない人も、誰もが同じように住み慣れた地域で暮らし学べるよう、特別支援教育を充実します。	4年以内	・平成24年度末までに、特別支援学級を市立小・中学校16校に新設し、54校とします。 ・平成24年度末までに、発達障害・情緒障害通級指導教室を4校に新設し、7校とします。 ・市南東部に肢体不自由児のための特別支援学校を平成24年度に新たに開校するとともに、市立養護学校の施設・設備の充実に向け準備を進めます。	①特別支援学級を小学校4校、中学校2校に新設 ②発達障害・情緒障害通級指導教室を小学校1校に設置 ③新設特別支援学校の建設工事	①△特別支援学級を小学校4校、中学校3校に新設 ②発達障害・情緒障害通級指導教室を小学校1校に設置 ③新設特別支援学校の建設工事を完了	b+	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。特別支援学級を中学校に2校整備するところ、3校整備したことを加点評価した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b+	予定を上回ったことにより。	長野委員	b+	内部評価の判断は妥当と考える。
河西委員	b	特別支援の充実は大変評価します。ただ当事者やその家族の気持ちとこれから受け入れる社会のことを考えるとにも意見できません。新聞に特別支援学校のいじめや暴力が水面下で多いとあったがその点のチェック体制はできているのか。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。集約型から分散型への動きに関しては評価。人員設備に関しては十分とはいえない。
木島委員	a	特別支援学級新設数を評価。(実績3/目標2) ただし、取り組みにプラス評価とするほどの大きな工夫は見られない。	廣瀬委員	b	ほぼ工程表通りの取り組み
栗原委員	b+		福崎委員	b-	河西委員のコメントで、特別支援学校の設置だけを見るのではなく、生徒の学校生活上の問題対応にも重点を置くべきだと感じました。特に、当該学校での「教育の充実」がプランの目標なので、この点も報告が欲しいです(課題分析不足で質的減点)。
須藤委員	b+		星野委員	b+	今後も、児童・保護者・地域のニーズを把握して、施設数などの見直しも検討して下さい。
高木委員	b+	特別支援学級を小学校4校、中学校3校に新設し、目標を上回ったため。	町田委員	b	平成23年度の目標数値を、予定どおり実施できたことで評価。 ※予算8億6千万の使用用途について興味があるところ。
高島委員	b+	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	b+	中学校の特別支援学級開設が、目標を1校上回った。



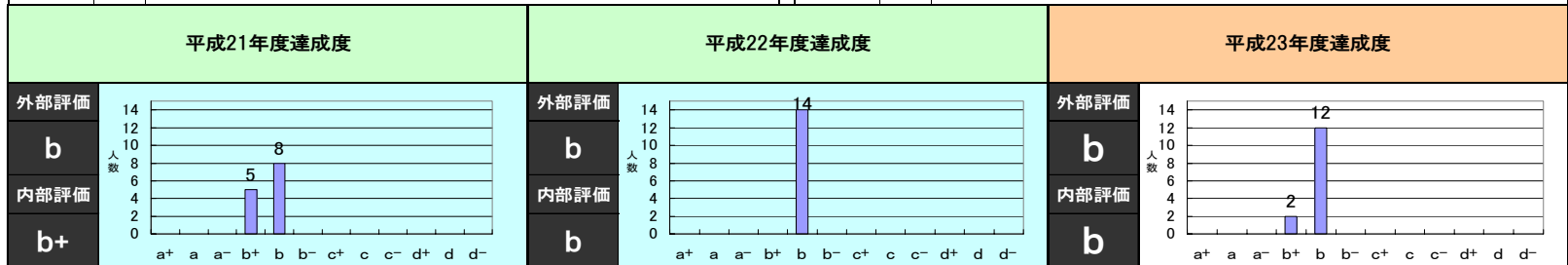
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗率の要旨 進捗率c、dの要旨 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合		H23年度達成度 (内部評価)	
						達成度	評価理由		
子ども	29	学校教育における食育を推進します。	4年以内	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度末までに、すべての小中学校で学校教育ファームを実施します。 平成24年度末までに、給食における県内地場産物活用率を30%に、米飯実施回数を週3.5回に増やします。 平成24年度末までに、地元シェフによる学校給食を45校で実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校教育ファーム新規実施校 小学校34校、中学校9校（累計小学校100校、中学校25校） ②県内地場産物活用率26.0% ③米飯給食回数週3.4回 ④地元シェフによる学校給食 15校実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①△学校教育ファーム新規実施校 小学校36校、中学校36校（累計小学校102、中学校52） ②△県内地場産物活用率27.2% ③▼米飯給食回数週3.3回 ④地元シェフによる学校給食の実施 15校 	a	・小学校、中学校ともに教育ファーム実施校の目標数を前倒して達成したことから、進捗度を「a」と判断。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	農業に関し前向きに対応したことによる。	長野委員	a	学校教育ファームの新規実施数は目標を上回ることができた。県内地場産物活用も目標を上回っている。
河西委員	b+	生産過程を体験することで栄養や調理にも興味がひろがると思います。食べ物の好き嫌いが減ったり作り手への感謝などいろんなことが期待できそうです。	橋本委員	b+	実施校増加による加点。どの程度継続性のある取組になっているのか？
木島委員	a	学校教育ファーム新規実施校増（小学校実績36 / 目標34・中学校実績36 / 目標9）、および県内地場産物活用率増（実績27.2% / 目標26%）を評価。	廣瀬委員	b+	全体としてほぼ目標通りで、学校教育ファームについて加点
栗原委員	a		福崎委員	a-	米飯の取り組みが予定より少なかった点。
須藤委員	a	土との触れ合い、労働体験等、教育ファームの狙いは充分達成。食育に関し、池沼地産の大切さ等を生徒に教育すべし（スローフード、フードマイレージの考え方を易しく解説）食育における家庭の役割大 地元シェフの給食時に母親参加を促す等、要検討。	星野委員	a	目標に対して順調に進捗していると判断できます。
高木委員	a	学校教育ファームを全ての小学校で実施したほか、中学校でも目標を大きく上回って実施したため。	町田委員	a	小学校と中学校の両方で、予定計画数を大幅にうわまっているため、「a」と評価 ※当初の取組み目標のひとつとして掲げている「土曜チャレンジスクールとの連携」という点で配布資料からは読み取れなかったためその実施校がどの程度あるのかに興味があるところ。
高島委員	b+	工程表のとおり進捗しているので進捗度はbと判断し、で特に中学校での新規実施校が目標を上回っているため「+」とした。	三浦委員	a	中学校の教育ファーム実施校が大幅に前倒しされた。



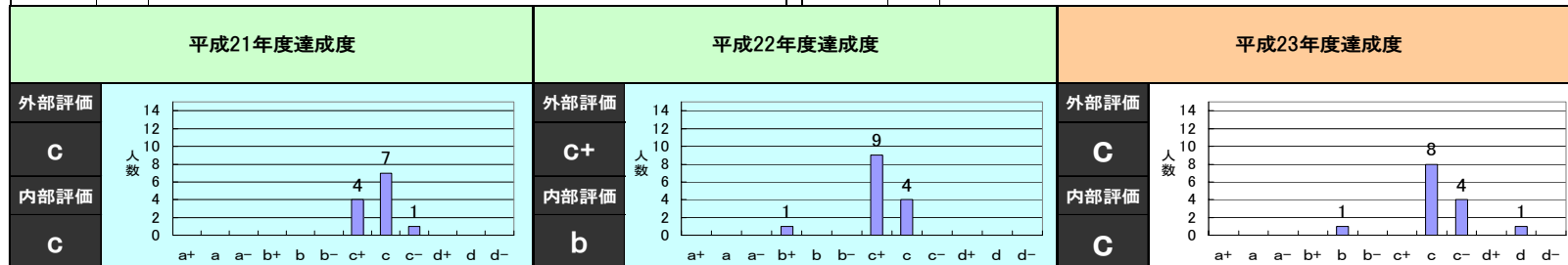
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
子ども	30	メディアリテラシー教育の充実と携帯・ネットアドバイザー制度を創設します。	4年以内	・平成22年度中に、メディアリテラシー教育を充実するため、携帯・ネットアドバイザー制度を創設します。 ・平成23年度末までに、児童生徒・保護者・地域・教職員を対象とした「携帯・インターネット安全教室」をすべての市立小・中・特別支援学校で実施します。	①市立全小・中・特別支援学校160校での「携帯・インターネット安全教室」を継続して実施 ②市立全小・中・高・特別支援学校164校の「学校非公式サイト」などの監視活動を継続して実施	①市立全小・中・特別支援学校で「携帯・インターネット安全教室」を実施 ②市立全小・中・高・特別支援学校の「学校非公式サイト」などの監視・削除要請	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	時代に合った対応のため、予定通りとした。	長野委員	b	工程表通りの進捗内容である。
河西委員	b+	インターネットが大人になって身につけたか、生まれたときから当たり前にならないうちに生活に合ったか、によって指導者と生徒の意識がまったく違う。気をつけて指導していかねばなりません。識者の意見も頂きたいところです。コスト面で評価。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗。 急速に多様なメディアが普及していく状況を考えると、課題に記載があるとおり、学校だけでなく保護者など他者が指導できる体制づくりが急務。	廣瀬委員	b	工程表通りの進展
栗原委員	b		福崎委員	b+	企業の社会貢献事業と連携し、教室の無料実施をした点。
須藤委員	b		星野委員	b	目標は概ね達成していますが、保護者への情報提供を更に推進して下さい。
高木委員	b	工程表通り進捗。	町田委員	b	携帯・インターネット安全教室の実施、ネットアドバイザー制度の創設、安全サイトへの監視など、市内全小中学校の実施したと平成23年度の計画を予定どおりの進捗したと評価します。 ※平成23年度予算600万の使用用途に興味があるところ
高島委員	b	工程表のとおり進捗していると判断した。	三浦委員	b	目標通りの成果が見られる。



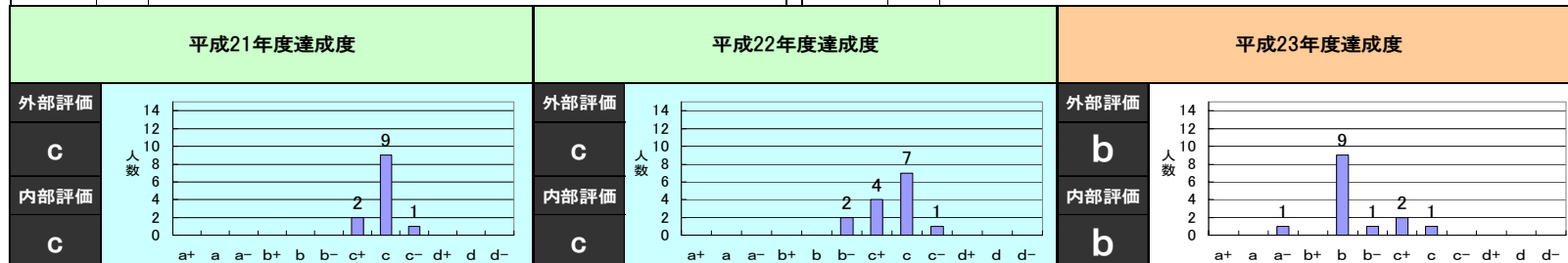
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
高齢者	33-1	空き教室や空き店舗、遊休施設などを活用し、各区に高齢者サロン・介護者サロンを設置します。 (高齢者サロン)	4年以内	・平成24年度末までに、市内全47地区社会福祉協議会で高齢者サロンを実施します。 ・平成24年度末までに、老人福祉センターを2か所増やし、全10区に整備します。	①全47地区社会福祉協議会のうち43地区で実施 ②平成24年5月に開館する老人福祉センター武蔵浦和荘の開設準備をする	①★地区社協内の43地区のうち31地区で高齢者サロン開催 ②南区内の老人福祉センター(武蔵浦和荘)開設準備	C	・市社協の補助金を活用した地区社協での高齢者サロンは、開催地区数を拡大することができなかったため、「c」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	若干少なかったが、方向性は良とした。	長野委員	C-	浦和区に仲本荘が開設されたが、残念ながら武蔵浦和荘は火災により開設準備が進まず。サロン実施は前年比+1で、目標の1/13にとどまってしまった。
河西委員	b	地域の学校の空き教室利用はいいことだと思います。すぐに実行できそうな事業に感じますが、「c」評価となる理由はなんでしょうか。	橋本委員	C	H22年→H23年事業実施に関して停滞感があります。
木島委員	C-	サロン開催地区数が未達。(実績31地区/目標43地区=72%) 二年連続での未達であり、昨年評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。	廣瀬委員	C	開催地区数の拡大ができていない
栗原委員	C		福崎委員	C-	サロン開催数を増やす工夫をもっと増やして、報告してほしい。
須藤委員	C	費用対効果の計測(ex:1か月の延べ利用者数と家賃・人件費等のコスト) 土・日は一般市民のサークル・団体等利用者にも一部開放し、利便性と稼働率アップを図る。	星野委員	C	なぜ高齢者サロンを開催できなかったのか十分な検証をすべきである。
高木委員	C	地区社協内の43地区のうち31地区で高齢者サロン開催で、目標値を下回ったため。	町田委員	d	2カ年連続して「c」評価であったにもかかわらず3年目にあっても予定数を大幅に少ない開設数により低い評価と判断。 公民館・地域施設・学校空き教室など既存施設の有効活用を図り、既存ストックマネジメントとの調整もしながら有効な税金使用とした施策としていただきたい。 ※平成23年度予算の2億の使用用途についてお伺いしたい。
高島委員	C	が目標に達していないので進捗度はCと判断。不達の原因についての分析をし、24年度につなげてほしい。	三浦委員	C-	平成23年度の目標未達にとどまらず、平成22年度の39地区を下回る31地区の高齢者サロン開催となった。 高齢者サロンは地区ごとに多様な取り組みがなされており、既存のサロンの現状を把握して今後の推進策を検討すべきと考える。



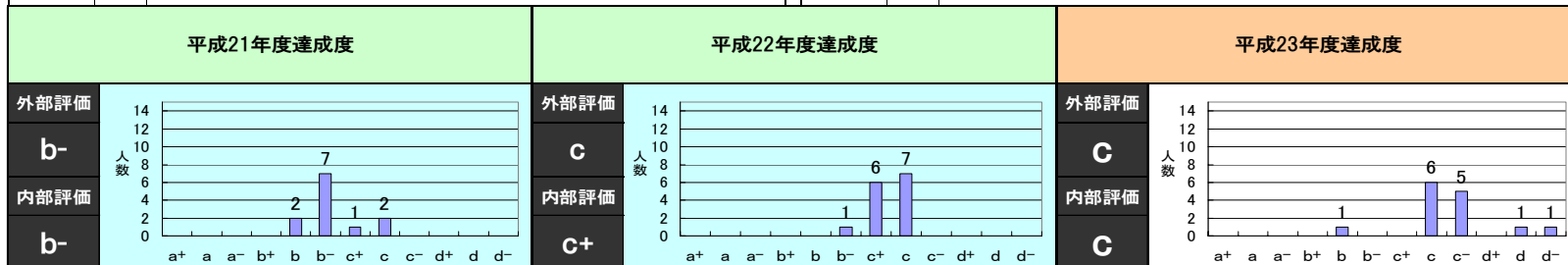
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績		H23年度達成度（内部評価）	
						進捗度 c、d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	達成度	評価理由	
高齢者	34	シルバー人材センターの充実や団塊の世代の市民活動の推進など、高齢者が地域で働く場を増やします。	4年以内	・平成24年度末までに、シルバー人材センターの会員数を6,300人に、年間就業率を90%にします。 ・平成24年度末までに、シルバーバンクのマッチング数を年間300件以上にします。	①シルバー人材センターの累計会員数6,000人 ②シルバーバンクのマッチング数250件 ③シニア生き方発見セミナーの開催	①★シルバー人材センターの累計会員数5,168人 ②☆シルバーバンクマッチング数341件 ③シニア生き方発見セミナーを開催（3月：参加者90人）	b	経済動向による就業先の減少や適正就労の見直し等の影響によりシルバー人材センターの累計会員数は減少したが、シルバーバンクはマッチング数目標を上回りましたので「b」と判断しました。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	概ね方向性は良とした。	長野委員	b	内部評価の判定はおおむね妥当と考える。
河西委員	b	高齢の方々にとって必要とされること役に立つことは大変有意義だとおもいます。実際の実働状況が知りたいです。広がり増えていけばいいとおもいます。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	a-	マッチング数が目標より増加（実績341件/目標250件=136%）していることを評価。会員数減については不可抗力の部分が多くあり、マッチング数が増加することがこのプランの本質と考える。ただし、ヒアリングにより、会員数減について工夫を凝らすことも必要とわかったため、マイナス評価。	廣瀬委員	b	シルバー人材センターについては内容面に及んでの見直しが必要なのではないか。
栗原委員	b		福崎委員	c+	マッチング数が多い点。
須藤委員	b	就業率アップが本制度の活性化に直結する。市の外郭団体等各種団体の作業受託や民間企業への雇用開拓を積極化すべし。	星野委員	b-	引き続きシルバー人材センターの会員増を目指して取り組みを再考して下さい。
高木委員	b	シルバー人材センターの累計会員数5,168人で目標を下回ったが、シルバーバンクマッチング数341件で目標を上回ったため。	町田委員	c	会員数登録の予定目標数を大きく下回っているため、「c」ランクと評価。PRなどの周知活動によりマッチング数は増加するが、労働を提供している過程での、クライアントとのフォロー態勢が必要な場合も多いと感じた。登録者の「やりがい」「自己肯定感」をどのように抱いてもらうかはセンター職員や組織の役割だと感じる。マッチング数にあってよりビーター数のリサーチなども必要と感じる。 ※平成23年度予算の2億の使用用途をしりたし。
高島委員	b	内部評価と同じ理由により進捗度「b」と判断。	三浦委員	c+	シルバー人材センターの累計会員数が1,000人以上目標を下回り、前年度比較でも減少している。シルバーバンクのマッチング成功は90件増だが、目標をカバーしたとは見せない。シルバー人材センターのあり方の抜本的な見直しが必要ではないか。



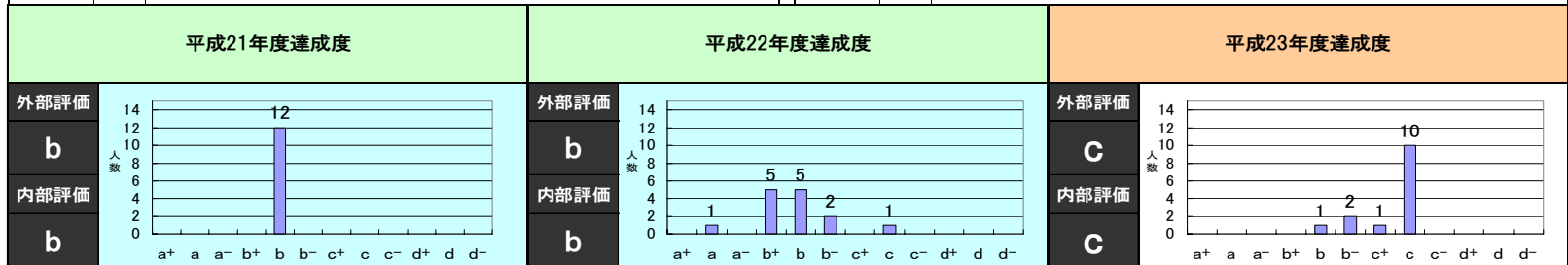
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
高齢者	35	シニアユニバーシティを充実します。	4年以内	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度末までに、定員を1割増やし1,245人とします。 平成23年度末までに、卒業生の活動拠点となる施設を整備します。 平成24年度末までに、校友会活動に参加する卒業生を9割以上とします。 大学院卒業生のうち平成21年度は1割の50人を、22年度以降は2割の100人をシルバーバンクへ登録します。 	<ul style="list-style-type: none"> ①定員60名拡大 ②北大宮校(大学)の設置、北大宮校(大学院)設置準備 ③卒業生の活動拠点の整備 ④大学院卒業生のシルバーバンクへの登録100名/年 	<ul style="list-style-type: none"> ①定員60名拡大 ②北大宮校(大学)の設置、北大宮校(大学院)の設置準備、地域活動講座で福祉専修科卒業生による発表実施 ③整備に向けて備品の準備 ④地域活動講座の際にシルバーバンクの紹介・登録受付実施★大学院卒業生の登録者5名(ただし大学院卒業生の登録者16名) 	C	①②③の目標は達成したが、④の目標(平成23年度の大学院卒業生のうちシルバーバンクへの登録者100名)が5名と著しく低かったため「c」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	登録が少なかった事は社会環境が変化したと感じます。	長野委員	C	シルバーバンクへの登録は目標を大きく下回ってしまった。
河西委員	b	必要とされ役に立つことと同様に興味を持つこと、学ぶことも生命力の向上につながると思います。もっともっと学びの場を広く自由に提供できればいいのにと、思います。高齢者と若者、現場の様子をみて感じることで、お互いをもっと歩みよれるのではないのでしょうか。	橋本委員	d-	計画/目標と結果のこれだけの不一致があり、未達評価。来年度の見込みもかなり厳しい印象。計画/目標の見直し/変更が必須。
木島委員	C-	シルバーバンク登録が未達。(実績5名/目標100名=5%) 二年連続での未達であり、昨年評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。	廣瀬委員	C-	施策のそもそもの想定と現実が適合していないのではないかと。根本から見直す必要があるのではないかと。
栗原委員	C-	制度の意義が問われる結果。根本的な見直しが必要?	福崎委員	C-	登録者数を増やす工夫を、もっと具体的に増やして報告してほしい。
須藤委員	C	大学院設置のコンセプトが曖昧。(一般教養の深掘りor社会参画支援)シルバーバンクへの登録を期待するのであれば、募集要項や講義内容を見直す必要あり。シニアユニバーシティの費用対効果如何(特に所要コスト)多少の学費を徴収しても良いのでは(ex:1講座1000円)	星野委員	C	シルバーバンクへの登録者を増やす為の具体的な対策が急務だと考えます。
高木委員	C	大学院卒業生のシルバーバンクへの登録が5名であり、目標を大きく下回ったため。シニアの方々の興味や需要に対して、目標値が高かったのではないかと考える。なぜシニアの方々が興味を示さないのかアンケートや意見を聞いて状況を把握した方が良いと思う。	町田委員	d	2カ年連続してシルバーバンクへの登録が少なかったことで「d」評価とする。
高島委員	C	内部評価と同じ理由により進捗度「c」と判断。 シルバーバンクへの登録者数が目標を著しく下回った理由は?	三浦委員	C-	シニアユニバーシティで学ぶ高齢者が、地域活動やボランティア活動に向かうことが望まれているのに、大学院にまで進んでも卒業後のシルバーバンクへの登録がわずか5名にとどまっている。 大学院進学と修了の条件に、シルバーバンクへの登録を必須としてはどうか。実際に活動するかどうかは、その後の個人の判断であろう。



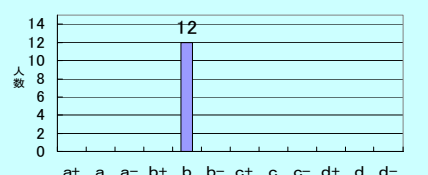
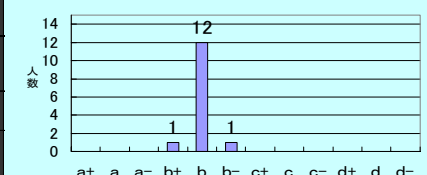
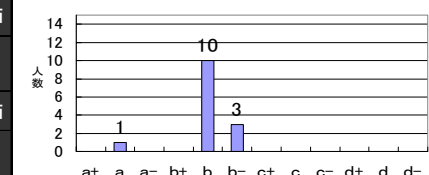
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要旨 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度 (内部評価)	
							達成度	評価理由
高齢者	36	高齢者を対象とした、(仮称)シルバー元気応援ショップ制度(割引制度)を創設します。	4年以内	・平成22年度中に、65歳以上の市民に配布している「シルバーカードを提示することにより、市内の店舗で割引などの優待が受けられる」(仮称)シルバー元気応援ショップ制度を創設します。 ・平成22年度中に協賛店600店舗で開始し、平成24年度末までに1,000店舗に増やします。	①協賛店数200店舗(累計1,102店舗) ②協賛店紹介冊子の作成・周知 ③事業効果測定方法の検討	①★協賛店数111店舗(累計1,013店舗) ②民間の情報誌に協賛店を掲載し周知 ③事業効果測定方法の検討の実施	C	・平成23年度の協賛店数が目標に達しなかったため「c」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	高齢者が理解されていない事による事ではないか。	長野委員	C	協賛店数で目標を大きく下回ってしまった。
河西委員	b-	シルバーのカードもショップ制度もすばらしい案だと思います。「c」の評価は何が行き詰っているのでしょうか。若者じゃなくても「街へ出よう」(ニーチエ)です、孤独の回避です。	橋本委員	C	市内・市外の協賛店の状況、利用者数、利用した総額等のデータは？検討の実施までにスピード感がない。
木島委員	C	協賛店数が目標未達。(実績111店/目標200店=56%) ただし、既に現状でプランの目標は達成しており、利用者の評価、および利用実態において利用者が満足できているのであれば、そもそも目標自体が不要であったと考えられる。	廣瀬委員	b-	上方修正した目標には届かなかったが、当初計画の目標は前倒して達成できた。
栗原委員	C		福崎委員	b	事前質問に対して、具体的な削減額の回答がありました。 無料で掲載できる民間情報誌があったことは幸運だと思いますし、全ての事業で実施出来るものではありませんが、情報誌活用の工夫から、質的加点。(単年度目標が未達成であったことと相殺)
須藤委員	C	利用状況を計測すべし(ランダム抽出でも可 ex:1,000人当たりの利用率) 利用者のアンケートを実施し、今後の改善につなげるべし。	星野委員	C	協賛店とお互いのメリットを十分に考慮して事業に取り組むべきである。
高木委員	C	協賛店数が111店舗であり、目標を下回ったため。費用の削減に努めた点は良い。どのくらい費用の削減に成功したのか具体的に分かればさらに良いと思う。	町田委員	C+	平成23年度の目標には達成しなかったため「c」評価。 ただし、全体計画としては1,000店舗を超えているため加点要素とする。予算も59万での100店舗追加は費用対効果としても加点評価とする。
高島委員	C	内部評価と同じ理由により進捗度「c」と判断。 協賛店を増やすための努力を望む。	三浦委員	C	目標が未達であった原因の分析として、協賛店にインセンティブが働いているかどうかを見極める必要があるように思う。この制度が、どれくらい高齢者に浸透し、結果として集客力アップにつながるか見えないのではないか。



宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合		H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由		
健康・安全・安心	37-1	食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。～元氣倍増大作戦～ (食生活・運動)	4年以内	・平成24年までに、健康寿命を男性17.0年、女性19.5年まで伸ばします。 ・平成23年度末までに、食事バランスガイドを知っている人の割合を60%以上とします。 ・平成24年度末までに、意識的に体を動かすなど運動している人の割合を、男性35%以上、女性26%以上とします。	①「いきいき健康づくりグループ」育成教室を全区で継続的に開催 ②健康倍増ガイドブックのウォーキングコース追補版を作成 ③健康フォーラム2011～ウォーキングを始めよう！を10月に開催	①グループ育成教室を全区で開催、継続化、自主化を支援。 ②健康倍増ガイドブック「水と緑のコース編」を10,000部作成・配布 ③健康フォーラム2011 ウォーキングを始めようの開催 参加者313人	b	・平成23年度の目標、取組状況等工程どおりに進捗したので「b」と判断しました。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの内容と考える。
河西委員	b	健康寿命の伸びは大変評価。団塊世代の加入によるなら今後は更なる伸びを期待します。ウォーキングは継続することが意味なので、多数のイベント開催が事業費の増加につながらないように注意して、事業継続に工夫してもらいたいです。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	a	健康寿命の目標について、既にH22年度で達成したことを評価(実績M17.0年 F19.7年/目標M17.0年 F19.5年)。また食事バランスガイド周知割合達成も評価(実績70.7%/目標60%)。健康寿命の発表が一年遅れで行われるため、単年度目標の成果が回り辛いプランでありながら、最終目標を上回る成果を既に出しているのは大きく評価できる。	廣瀬委員	b-	健康寿命そのものは目標を達成しているが、この政策がその成果としてどの程度寄与できているのかについての精査が必要である。
栗原委員	b	—	福崎委員	b-	アンケートの数字やイベント参加者数など数値目標に出来そうだが、設定されていない点。
須藤委員	b	1. 工程表の通りの進捗と判断。 2. グループ育成教育の開催数・参加者数に各区でバラツキがあり、工夫が必要。 3. ウォーキング参加者数が多く取組み評価する。	星野委員	b	工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b-	全体的な目標はわかるが、具体的な年度ごとの事業計画の数値的目標が不明。平成23年度に実施予定であった食事バランスガイドの周知割合が7割と報告されているが、自分の家族は誰も知らない。???である。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。取組指標・方針にある、「平成23年度末までに、食事バランスガイドを知っている人の割合を60%以上とする」とうのは達成されたのか否か、調査しているか？

平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度	
外部評価		外部評価		外部評価	
内部評価	b	内部評価	b	内部評価	b

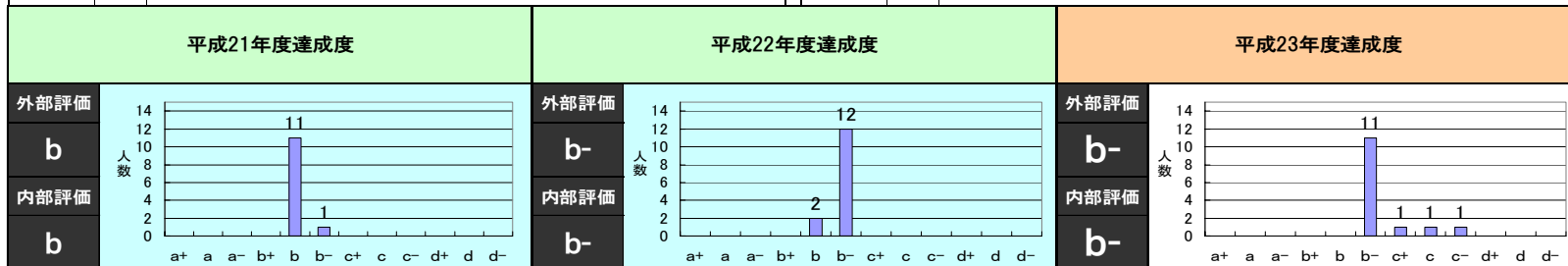
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	37-2	食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。～元気倍増大作戦～ (介護予防)	4年以内	・平成24年度までに、健康寿命を男性17.0年、女性19.5年まで伸ばします。 ・平成24年度未までに、介護予防特定高齢者施策事業の参加者を1,800人に増やします。 ・平成24年度未までに、介護予防一般高齢者施策事業の参加者を15,000人に増やします。 ・平成24年度未までに、介護予防・生活支援事業（介護予防水中運動教室事業）の参加者を210人に増やします。	①二次予防事業参加者1,600人 ②一次予防事業参加者14,000人 ③介護予防水中運動教室事業参加者190人	①★二次予防事業参加者数1,342人 ②一次予防事業参加者数26,456人 ③★介護予防水中運動教室参加者数155人	C	・平成23年度の二次予防事業参加者が1,341人、同水中運動教室事業参加者については、前年よりも若干の増加はあったものの目標値を下回ったので「c」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C-	目標を下回った為。	長野委員	C	内部評価の判定は妥当と考える。中核的な対象層である二次予防事業参加予定層へのアプローチの前提を変える必要が伸び率からするとあるといえるかもしれない。
河西委員	b	一次予防事業の参加が多いのが評価です。参加率に差が出るのは地域の平均年齢の点かあるいは足の悪さが原因か。もし原因が地域への愛着の無さならば今後 いろいろな影響が心配されると思います。(非常時の非難 名簿など。) 事業費をアップさせないよう工夫して継続してください。	橋本委員	C-	二次予防事業への参加者、介護予防水中運動教室事業の未達が続いている。
木島委員	C	二次予防事業参加者、介護予防水中運動教室事業参加者が未達。二年連続での未達であるが、介護予防水中運動教室の開催されていない区での水中運動事業への参加者(見沼ヘルシーランド1,224人/西楽園463人)を評価し、マイナス評価は見合わせる。	廣瀬委員	C-	単に周知活動の強化ということではない改善策が必要なのではないか。特に水中運動教室については、単体としての効果が期待できるにしても、対象者のそれまでの運動習慣などに照らしても参加促進に限界があるのではないかと。現実的に参加が見込めるメニュー構成へと再検討する必要もあるのではないかと。
栗原委員	C	-	福崎委員	C-	開催区が限定されている以上、対象人口も限定される。開催会場の数は適正に抑えつつも、複数個所でローテーションするなど、参加の機会を増やす工夫がほしい。
須藤委員	C+	1. 二次予防事業、水中運動教育参加者は未達なるも、一次予防事業の大幅超過達成をプラス評価。	星野委員	C-	H22年度から2年連続数値目標を達成していないので、目標達成に改善点が必要と考えます。
高木委員	C+	①二次予防事業参加者と③介護予防水中運動教室事業参加者が目標を下回ったが、②一次予防事業参加者が大幅に上回ったため「c+」とした。	町田委員	C-	2年連続で「c」評価であり、来年度の予定数を達成するためには相当のテコ入れが必要。
高島委員	C	目標値に達していないので「c」とした	三浦委員	C-	過年度より指摘しているが、介護予防の視点から水中運動教室を展開するならば、空白区があるのは問題だと感じる。管理運営が異なるプールでも、同じ目的の事業連携によって、希望する区民が参加しやすい環境整備の工夫が望まれる。また、介護予防の視点からより重視されるべき二次予防事業の参加者が目標を下回るのはよくない。

平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度	
外部評価		外部評価		外部評価	
内部評価		内部評価		内部評価	
達成度	a	達成度	C	達成度	C-
達成度	a	達成度	C	達成度	C

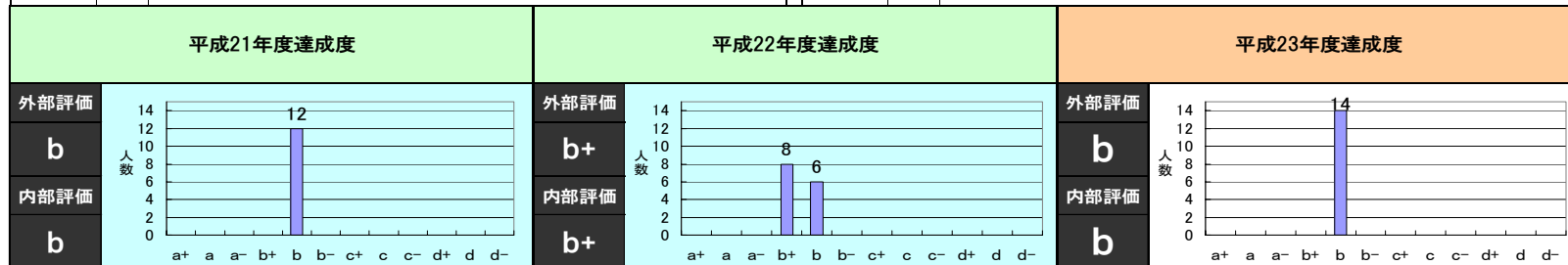
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	38-1	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を増強します。 (多目的広場整備方針の決定)	4年以内	・未利用地を活用したスポーツもできる多目的広場の整備に向けて、管理運営手法などに関する研究会を設置し、平成22年6月までに整備方針を決定します。	①協議会の設置 ②協議会の開催(3回) ③多目的広場の開設(5か所)	①②協議会の設置・開設(7月・10月) 協議会にて管理運営団体を審査・市が承認(10団体) ③▼多目的広場の開設(3か所) 実施設計11か所実施	b-	・協議会の設置、開催については、取組内容、数値目標を概ね達成した。 ・広場開設が3か所であるが、1か所着手。 ・平成23年度中において、10団体を管理運営団体として承認し、11か所の実施設計をした。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b-	広場が下回った為。	長野委員	b-	多目的広場の開設数が目標を下回る。「管理運営団体の申請時期が遅かった」と記される2か所について、なぜ、遅くなったのか、純粋に民間側の責任なのか、確認させていただきたい。
河西委員	b-	多目的広場開設となると維持のメンテナンスが必要になります。各候補地の人口の増減を見越して計画してください。	橋本委員	b-	内部判断に準じました。
木島委員	c	協議会の設置・開催も重要だが、新設・整備が最終的な目標と考え未達(実績3か所/目標5か所)。	廣瀬委員	b-	開設数が目標を下回ったが、実施設計までの進捗がみられるのでcではなくbの減点と評価した。
栗原委員	c+	広場開設5ヶ所の目標に対して、一部着手はあるものの開設3ヶ所のみ、という進捗から判断しました。	福崎委員	b-	課題、今後の取組内容に具体性が欠ける点。
須藤委員	b-	1. 概ね工程表どおりと判断。 2. 実施設計11か所が広場開設に直結する事を期待。	星野委員	b-	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b-	②多目的広場の開設が目標値を下回ったため。	町田委員	c-	協議会の開催数が予定数を下回っていること、多目的広場の開設数が予定数を下回っていることから目標と比べて遅れがあると判断。2年連続して「b-」の評価であることよりマイナス評価とする。
高島委員	b-	おおむね工程表どおりに進捗していると判断したが、③が目標に達していないのでとしました。	三浦委員	b-	概ね工程通り事業を実施しているが、申請が遅れて開設箇所数が目標を下回った。申請の遅れは行政だけの責任ではないと思うが、円滑に申請できるようなサポートも求められていると想像する。



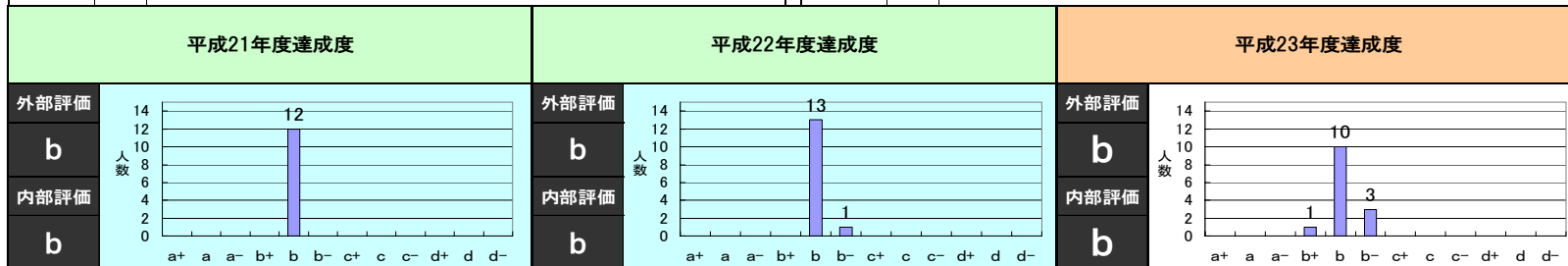
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由
健康・安全・安心	38-2	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。 (都市公園内のグラウンド等の個人への開放)	4年以内	・平成22年度末までに、都市公園内のグラウンド等の運動施設に個人利用ができる開放日を実施、だれもが気軽にスポーツができる機会を増やします。	①有料のグラウンドについては4公園を夏・冬・春休み中に個人開放します。 ②無料のグラウンドについては、12公園を団体利用がない場合は自由に個人利用ができるようになります。	①4公園について、8月2日と3月30日に個人開放しました。 ②13公園について、団体利用がない時間に限り個人利用ができるようになりました。	b ・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判定しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	概ね工程表通りの内容である。なお、可能であれば、冬休み中の個人開放を実施しなかった理由をお示し頂きたい。
河西委員	b	個人開放はプラス評価ですが、日にちが8月3月以外も検討していただきたいです。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。よりアクセスしやすいシステム構築を期待します。
木島委員	b	工程表通り進捗したため。	廣瀬委員	b	年度目標通りの実績
栗原委員	b	—	福崎委員	b	事業費が0円計上の説明を得た。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	グラウンドの個人利用が予定どおり実施されていることで評価。グラウンドとして利用可能な施設には、他に公園、学校など多くの施設がある。これらの施設への一般開放の検討を願う。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。



宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	38-3	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。 (民有地を活用した多目的広場の整備)	4年以内	・平成24年度末までに、民有地を活用したスポーツもできる広場を2か所から4か所以上に増やします。	①民有地情報について市HPを活用し、情報交換の場を設定します。 ②借地公園について1か所整備します。	①情報交換プラットフォームの周知を図りました。 ②北区今羽町96-5に新設した今羽中原公園(借地公園)の一角にのびのび広場を整備しました。	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判定しました。

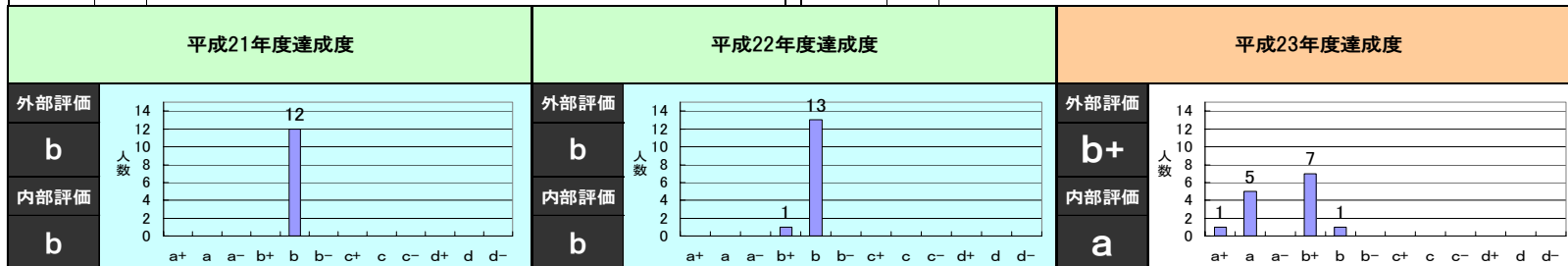
委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの成果である。
河西委員	b-	目標が未達成の見込みなので。プラットフォーム=駅を連想してしまいます。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。よりアクセスしやすいシステム構築を期待します。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b-	情報交換の場は置かれているが、24年度末までの目的達成に間に合うペースでの進捗とはなっていないので、減点。
栗原委員	b	—	福崎委員	b+	民間からの情報を積極的に用いている点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b-	概ね工程表通りの進捗と考えます。但し、市のHPに情報交換の場というものが出来上がったのかが不明。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	目標数値設定が2ヶ所という少ない数値であることに疑問。そもそも、新たな土地の検索より身近な土地(学校校庭・公園)などを利用して市民のコミュニティーの場として活用するほうが効果的と考える。身近な建物施設にも開放の余地はある。それらにも目を向けて積極的な施策としてもらいたいと願う。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。



ヒアリング対象

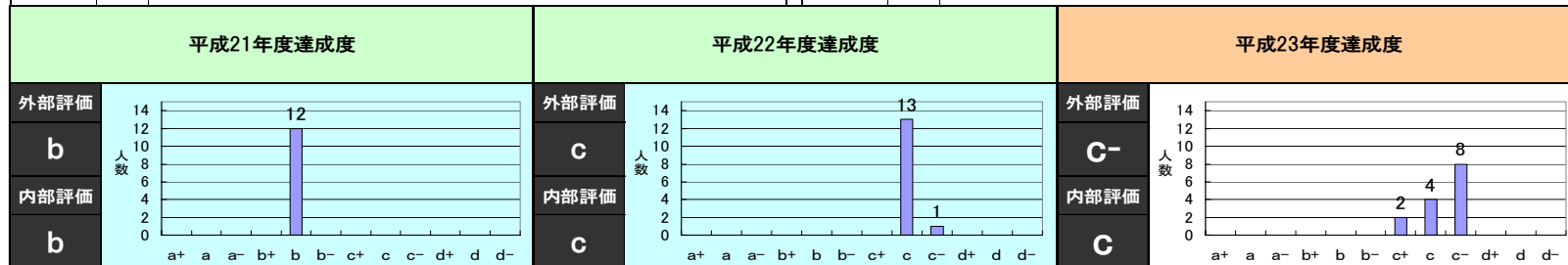
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	38-4	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を増殖します。 (仮称)スポーツふれあい広場の整備)	4年以内	・平成24年度末までに、公園内の一角にボール遊びなどのスポーツもできる「(仮称)スポーツふれあい広場」を、各区に1か所整備します。	・都市公園内に3か所の「(仮称)スポーツふれあい広場」を整備。	・都市公園内に4か所の「のびのび広場」を整備。	a	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表などを上回る数値となったことから、「a」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	予定を上回った為。	長野委員	b+	単年度目標を1か所上回る整備ができた。
河西委員	b	各区に一箇所といっても、区の広さもずいぶん違いますし、人口密度にもよるのでもちろん利用が見込まれる世代の人口もあります。	橋本委員	b+	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	a	整備数を評価(実績4か所/目標3か所=133%)	廣瀬委員	b+	目標を概ね達成できるペースで若干早い進捗。「b」の加点と判断。
栗原委員	b+	—	福崎委員	b+	計画を一か所前倒し出来た点。
須藤委員	b+	1.「のびのび広場」の設置数は超過達成だが、質的なレベルアップ等の向上が図られているか不明。	星野委員	a	工程表を上回る成果を上げたと判断します。
高木委員	a	都市公園内に4か所の「のびのび広場」を整備し目標を上回ったため。費用をかけず、子供たちの遊ぶ幅が広がったのが良い。	町田委員	a+	目標に掲げた数値を達成したことで予定どおりと評価します。予算も30万という低予算であることは加点評価
高島委員	b+	工程表どおりに進捗していると判断した。目標を1箇所上回ったので+とした。	三浦委員	a	3ヶ所の目標を上回る4ヶ所を整備した。



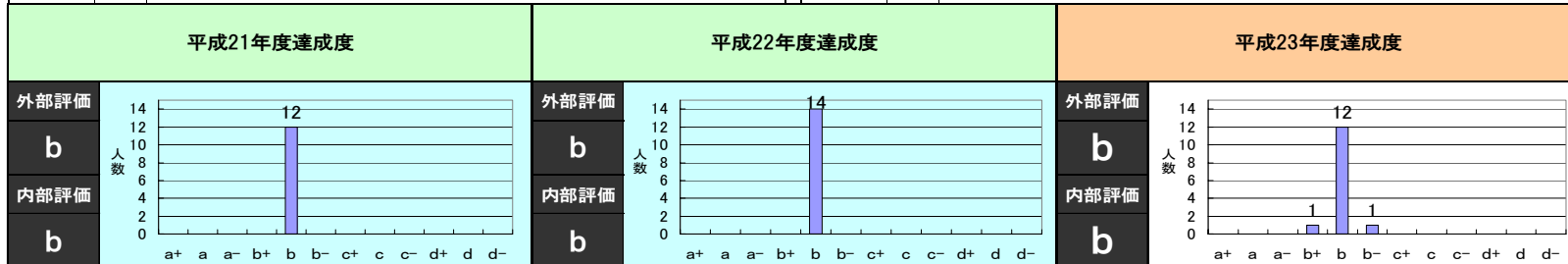
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	38-5	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。 (大学との連携による多目的広場の整備)	4年以内	・平成24年度末までに、市内にある大学と連携し、学校施設内の一部を活用したスポーツができる多目的広場を3カ所整備します。	・学校施設内一部を活用したスポーツができる多目的広場を整備する。 (2カ所)	・★日本大学と広場開設について基本的に合意しましたが、他大学とは協議が整わず、広場の開設にいたりませんでした。	C	・広場の開設に至らなかったため「c」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	協議が整わなかった為。	長野委員	C-	2カ所整備するとの目標に対して、日大とは基本合意まで進むが、埼玉大学とは合意が白紙になってしまった。
河西委員	C	大学の敷地内を市民が利用するには多数の問題が伴うことを再認識し、開設は甚だ困難と考えました。	橋本委員	C-	法令の変更等がないと事業達成が実現できないのではないかと考える事業。目標の変更等が必須と考えます。
木島委員	C-	単年度目標が未達な上、4年間の目標も未達の見込み。埼玉大学との合意白紙など手法に工夫が見えずマイナス評価。	廣瀬委員	C-	累計3箇所を目指したが最終的に累計1箇所となる見込みであるため。
栗原委員	C-	—	福崎委員	C+	現在協議を進めているところだけにこだわらず、協議対象の大学を拡げて目標の達成に努めようとしている点。
須藤委員	C	1. 難度が高い事業であり、粘り強い協議が必要。	星野委員	C-	目標に達していないため。なぜ未達なのか大学側の理由を含め明確にして欲しい。
高木委員	C-	他大学とは協議が整わず、広場の開設に至らなかったため。	町田委員	C+	日本大学との新たな交渉ができたことを評価します。結果的には遅れてはいますが実現に向けて努力している評価とします。運営面での行政の役割と施設管理者側の役割分担が課題と思います。
高島委員	C	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	C-	相手のあることなので、工程通り進まないとしてもしかたないが、昨年度合意した埼玉大学が白紙に戻ったことも含め、この事業は具体的成果が生まれていない。災害時の協力関係も含め、キャンパスを有する大学との連携は重要と考える。



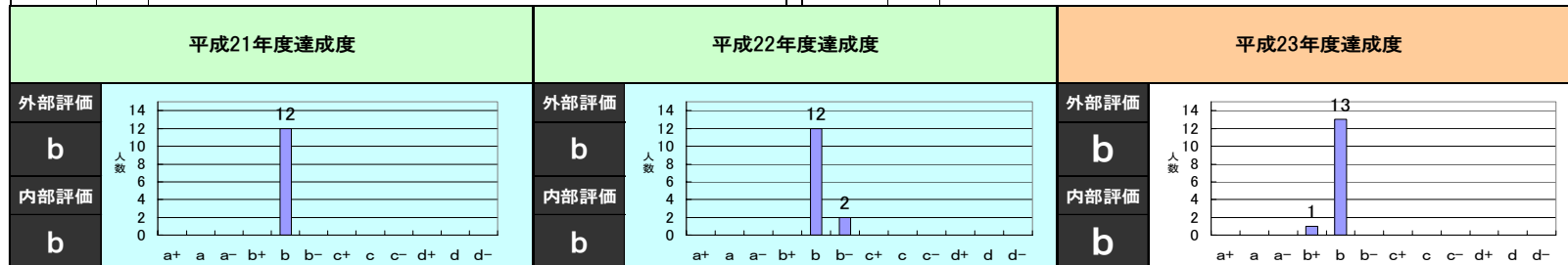
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	38-6	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。 (農業関連施設へのスポーツもできる多目的広場の整備)	4年以内	・平成24年度末までに、3か所の市有農業施設の敷地内にスポーツもできる多目的広場を整備します。	・農業施設の敷地内に多目的広場2か所整備	・農業施設の敷地内に多目的広場2か所整備	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したため、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの成果である。
河西委員	b-	農業施設を利用する広場は脚の問題はクリアできたと考えます。	橋本委員	b	整備内容が一部具体的に状況報告されている点。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b+	単年度で工程表の通りだが、もともとの最終目標まで到達したので加点。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	整備内容が一部具体的に状況報告されている点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b	工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	目標数を満たして多目的広場を整備したことで予定どおりと評価。農業施設を多目的広場とすることで、もともとある農業施設の運営は損なわれないのかが疑問。必要ない施設を所有していたということにはならないか。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。



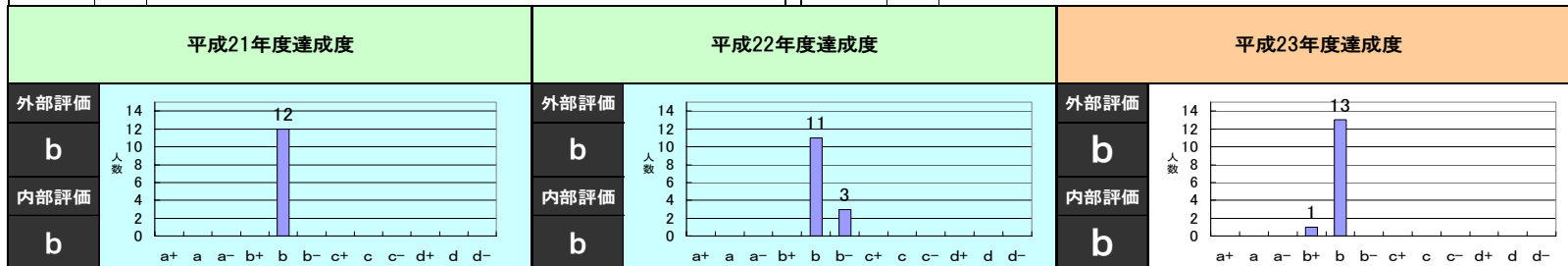
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	39-1	万全な危機管理体制を構築します。 (総合防災情報システムの構築)	4年以内	・平成24年度末までに、災害発生時に迅速で的確な情報の収集と提供を行うため、総合防災情報システムを構築します。	①委託業者の決定 ②基本設計の実施	①総合評価一般方式による入札を実施し、委託業者を決定しました。 ②システム構築に関する基本設計書を作成しました。	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの進捗である。
河西委員	b	早いシステムの完了を期待します。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。より迅速な取り組みを期待します。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	進捗は予定通り。内容面において有効なシステムとして完成することを期待したい。
栗原委員	b	—	福崎委員	b+	コスト削減見込み額の説明があった。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b	工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	2000万で委託業者が決定したことは予定どおりと評価。地域に住まう人々が安心して生活できるためにも災害時の防災情報は必要。H24年度中に3800を費やして防災システム完了となるのか？この金額で構築できるなら加点評価
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。



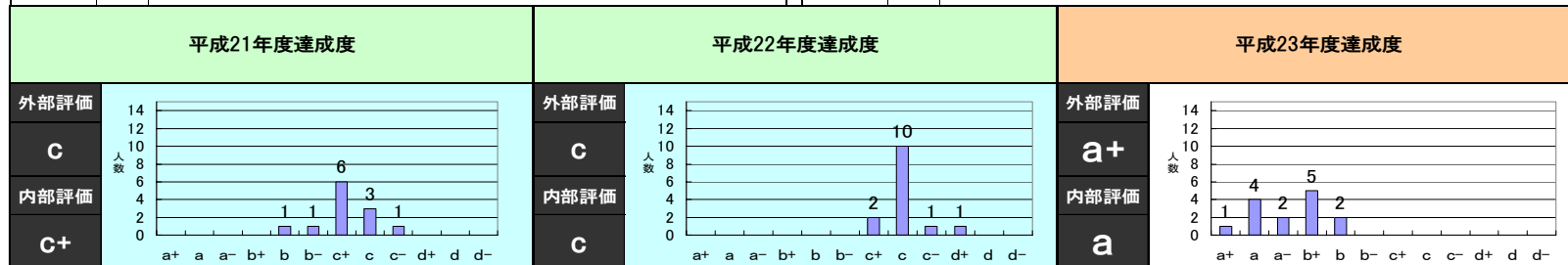
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由
健康・安全・安心	39-2	万全な危機管理体制を構築します。 (危機事案発生時の初動体制の確保)	4年以内	・危機事案発生時の初動体制の確保を図るため、平成21年9月から職員の日直体制を整備します。 ・平成21年度中に、職員の動員を速やかに行う職員参集システムを構築します。	①管理職職員及び宿直専門の再任用職員による2名体制での宿日直を実施 ②職員参集システムの配信試験・訓練を4回実施	①管理職職員及び宿直専門の再任用職員による2名体制での宿日直を実施 ②職員参集システムの配信試験・訓練を4回実施した。	b ・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b	災害、テロの想定以外、高齢者の多い地区の避難指示方法など各地区に合った研修を取り入れるよう検討してみてもどうでしょう。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。より迅速な取り組みを期待します。
木島委員	b	目標通りの進捗。	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗。慣れによる弛みを生じないよう継続的な取り組みを期待。
栗原委員	b	—	福崎委員	b+	職員の配備だけでなく、研修も重視している点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b	工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	緊急の災害時における対策として初動活動の体制づくりをしておくことは重要です。継続して宿直体制をとっていることより予定どおりと評価します。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。



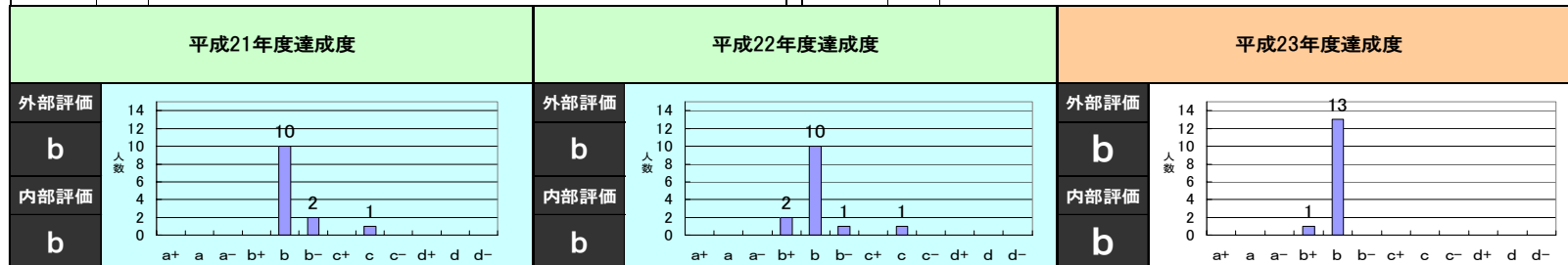
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	39-3	万全な危機管理体制を構築します。 (防災ボランティアコーディネーターの養成と避難場所運営体制の構築)	4年以内	・平成24年度末までに、防災ボランティアコーディネーターを600人、防災士を500人養成します。 ・避難場所の運営体制を構築するため、平成24年度末までに、避難場所運営委員会を公民館を除くすべての避難場所へ設置します。	①防災ボランティアコーディネーター200人、防災士150人を養成する ②避難場所運営委員会を35か所設置する	①防災ボランティアコーディネーター197人、防災士148人を養成 ②☆避難場所運営委員会を56か所設置	a	・平成23年度の避難場所運営委員会の数値目標を大幅に上回って設置したことから「a」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	内容が判断出来ない為。	長野委員	a	避難場所運営委員会の設置数が目標を上回り、また、防災コーディネーターへのフォローアップ研修も用意された。なお、可能であれば、中級編研修、意見交換会参加人数が防災アドバイザー登録数全体に占める割合をお示し頂きたい。
河西委員	b+	努力と工夫は評価できますが、実感や実績がわからないので。ボランティアコーディネーターの必要人数が適当かもよくわかりません。任期や訓練も。	橋本委員	b+	避難場所運営委員会の設置を評価。継続的な取り組みが実現できるよう期待します。
木島委員	a	避難場所運営委員会の数値目標を上回ったことを評価	廣瀬委員	b+	遅れていた避難場所運営委員会の設置を、ほぼ当初目標通りの水準に追いつくところまで巻き返した。
栗原委員	a-	—	福崎委員	a+	継続的フォローアップを重視し、コーディネーターの中級編講座やアドバイザー間の交流促進をしている点。
須藤委員	b+	1. 防災ボランティアコーディネーター、防災士の養成に若干未達があり、総合評価はb+に留めた。	星野委員	a-	避難場所運営委員会の数値目標は大幅に上回って達成したが、他が目標数に達していない為「-」としました。
高木委員	a	避難場所運営委員会を56か所設置し、目標値を大幅に上回ったため。	町田委員	b	避難場所運営委員会が大幅な増数であることは評価できる。防災ボランティアコーディネーターの人数は予定を若干下回っている。自主的な防災活動は災害初期の段階での被害拡大を阻止するためにも重要であり、そこに住まう人々の街づくりの視点においても積極的に体制づくりをすべきだと思う
高島委員	b+	工程表どおりに進捗していると判断した。②が目標を上回っているので+とした。	三浦委員	a	避難場所運営委員会の数値目標の遅れを取り戻し目標を大きく上回った。



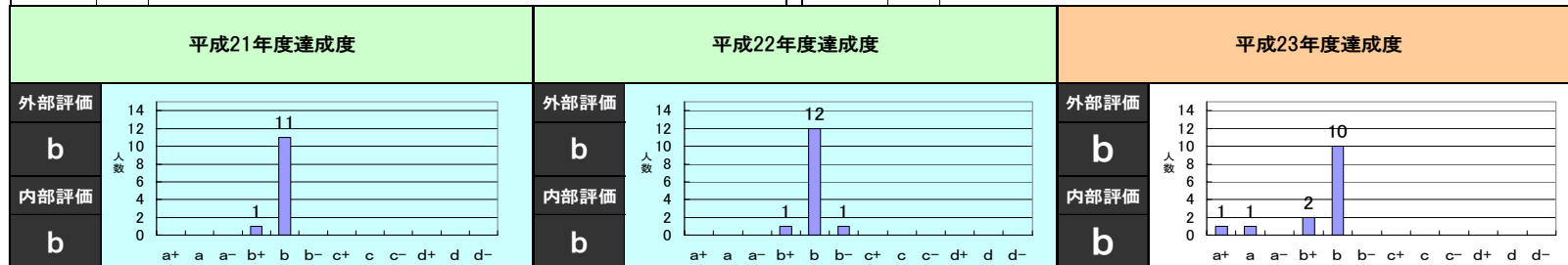
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由
健康・安全・安心	39-4	万全な危機管理体制を構築します。 （災害時要援護者への支援）	4年以内	・平成23年度までに、災害時要援護者への支援を充実するため、「個別避難支援プラン作成マニュアル」を策定します。	・更新した災害時要援護者名簿の配布を行うとともに、日頃の見守り活動や災害時の安否確認・避難誘導等に活用するための「個別避難支援プラン作成マニュアル」を策定する。	・更新した災害時要援護者名簿の配布 ・日頃の見守り活動や災害時の安否確認・避難誘導等に活用するための「個別避難支援プラン作成マニュアル」を策定	b ・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	地域性を考えると一律ではない。	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b+	プランの合意割合が低い区への説明を急ぎをお願いします。合意がない原因は拒否ですか、無知ですか。いい取り組みだと思うのでプラス。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。より迅速な取り組みを期待します。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗。現場で効果を発揮できるよう避難訓練などの励行を期待したい。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	事業費が0円計上の説明を得た。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	具体的な行動マニュアルとして「個別避難支援プラン作成マニュアル」を策定し、高齢者名簿の配布や更新を予定どおり実施したことで予定どおり評価しました。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。



宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
健康・安全・安心	39-5	万全な危機管理体制を構築します。 (マンホールトイレの整備)	4年以内	・平成24年度末までに、避難場所である市立小・中・高等学校100校に600基の災害用マンホール型トイレを整備します。	・平成24年3月までに、各区3校、計30校の避難場所に180基設置する。	・平成24年3月までに、各区3校、計30校の避難場所に202基設置した。	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの進捗である。
河西委員	b+	区の広さが違うのでトイレの数はもっと必要では。費用がかかってもメンテナンスを怠らさずお願いします。目標を超えているので+。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗。
栗原委員	b+	—	福崎委員	a+	事業項目の取組だけにこだわらず、災害時のトイレ対策という視点で包括的な計画がされている様子の報告がある点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。 2. 設置後のメンテナンスも効率的に行う必要がある。	星野委員	a	工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	災害時のトイレと水はなくてはならないもの。平成23年度の予算1億1700万で200基のトイレ設置による安心生活を市民に宣伝して行ってほしい。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。



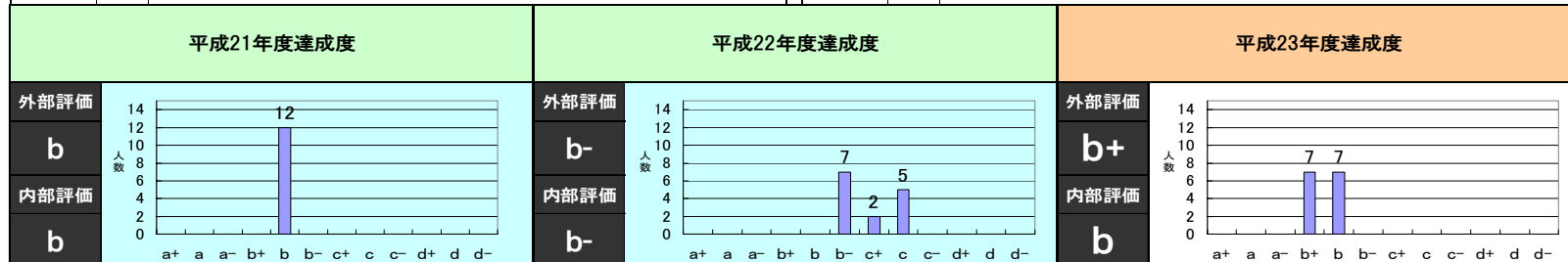
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合		H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由		
健康・安全・安心	39-7	万全な危機管理体制を構築します。 (地域防犯ステーションなどの増設と自主防犯パトロールの促進)	4年以内	・平成24年度末までに、安心・安全なまちづくりを推進するため、地域防犯ステーションや公共施設などを利用した防犯パトロール拠点施設を15か所増やし、20か所とします。 ・平成24年度までに、自主防犯活動団体を760団体にします。	①パトロール拠点施設の検討・設置 5か所(累計16か所) ②自主防犯活動団体数 24団体増(累計740団体)	①パトロール拠点施設の検討・設置 4か所(累計15か所) ②自主防犯活動団体数 26団体増(累計742団体)	b	・平成23年度の数値目標等を概ね達成したので、「b」と判断した。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	概ね工程表通りの成果と考える。
河西委員	b+	犯罪率の低下がなにより成果だと思います。引き続き啓発活動やパトロールを期待。行政からの働きかけもいい緊張になると思うので、手を離さずに呼びかけてください。	橋本委員	b	避難場所運営委員会の設置を評価。継続的な取り組みが実現できるよう期待します。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	概ね工程表通りの進捗。
栗原委員	b	—	福崎委員	b+	廃止交番6か所を防犯ステーションとして施設再利用している点。
須藤委員	b+	1. 市民の市政参画の観点からも有意義な事業。犯罪数減少にも寄与。 2. 少額の助成金を有効活用する等、コストにも留意した点をプラス加点。	星野委員	b-	概ね工程表通りの進捗と考えますが、パトロール拠点施設の検討・設置が未達だったため「-」とします。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	パトロール拠点施設数、自主防犯活動団体数の設置から予定どおりと評価。地域防犯活動を安全面だけでなくそこで住む人々の心豊かさにつながるものにしてほしい。
高島委員	b	おおむね工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	c+	パトロール拠点施設の目標が5ヶ所のところ、4ヶ所に留まった(4/5)。自主防犯活動団体は目標24団体のところ26団体と上回り、担い手団体は目標を上回っているものの、拠点施設の重要性を考え、工程の遅れと評価する。

平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度	
外部評価		外部評価		外部評価	
内部評価		内部評価		内部評価	

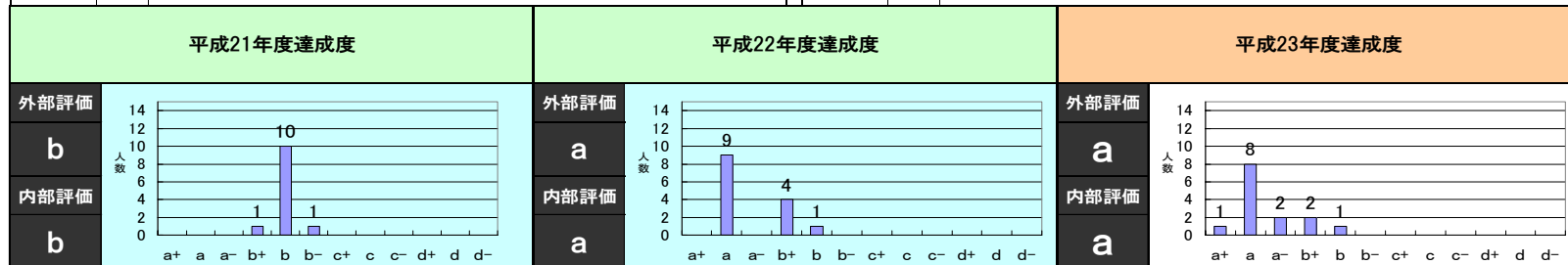
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗率の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合		H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由		
健康・安全・安心	40	民間住宅の耐震化補助事業を拡大します。	すく	・平成21年度末までに、民間住宅の耐震化を推進するため、耐震化補助事業の見直しを行い、平成22年度から耐震補強等助成事業を拡充します。	(予算措置件数) ①耐震診断(戸建住宅) 派遣 600棟 補助 10棟 ②〃(共同住宅等) 1棟(40戸) ③耐震改修(戸建住宅)40棟 ④〃(共同住宅等) 1棟(40戸) ⑤建替え(戸建住宅) 50棟 ⑥耐震シェルター 1棟	①耐震診断(戸建住宅) △派遣 776棟 △補助 67棟 ②△〃(共同住宅等) 8棟(82戸) ③△耐震改修(戸建住宅)48棟 ④▽〃(共同住宅等) 1棟(11戸) ⑤建替え(戸建住宅) 51棟 ⑥△耐震シェルター 5棟	b	・①数値目標等、②取組内容、③事業計画に沿って民間住宅の耐震補強等助成事業を予定どおり実施しており、H23年度の実績も概ね目標と同等又は上回っていることから進捗度を「b」と判断した。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b+	耐震改修を行った共同住宅は想定よりも小さなボリュームのものであるが、減点要素とまでは言えないのではないかと考える。
河西委員	b+	助成金の引き上げは望ましいが古い戸建の個人負担が難しいところです。そういった住宅が多い地区は決まっているだろうし、地震のときの被害の大きいはずですよ。どうしたものか。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	他のプランと評価方法が異なるため、検討が必要。昨年度、既にプラン目標は達成したということで単年度評価が困難であった案件。昨年度同様、プラン目標は達成したということでb評価。本来ならば、昨年度より大幅に増加した実績について、その取り組みを+評価できるが、上記のとおり評価方法が異なるため加点できない。(耐震診断戸建 H23年775棟/H22年34棟、建替戸建 H23年51棟/H22年20棟、耐震シェルター H23年5棟/H22年0棟など)	廣瀬委員	b	概ね工程表通りの進捗だが、昨年の震災を受けての展開として助成率、限度額の引き上げが効果的であったのか。同じ歳出で戸数を増やす選択肢はなかったのか。
栗原委員	b+	—	福崎委員	b+	具体的な補助金単価と、周知方法の詳細の報告がある点(事業費の内訳があればなおよし)。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b+	目標を上回っており、取組状況で耐震補強等助成事業の拡充に具体性があったため。	町田委員	b	予定数値を大幅に上回る結果より予定どおり進んでいると評価。ただし、助成事業によって実施率を上げることについては少なからずの疑問がある。耐震対策は、原則は個人責任によるもの。耐震対策を施した結果、通風や機能性が劣り健康面で問題となる建物になることもまある。
高島委員	b+	工程表どおりに進捗していると判断した。数値が上回っているので+とした。	三浦委員	b+	耐震診断の派遣、補助棟数の増加は、制度の強化と周知の成果の表れと評価する。共同住宅の目標が下回っているのは、1棟の戸数の問題なので、減点要素とは見ない。



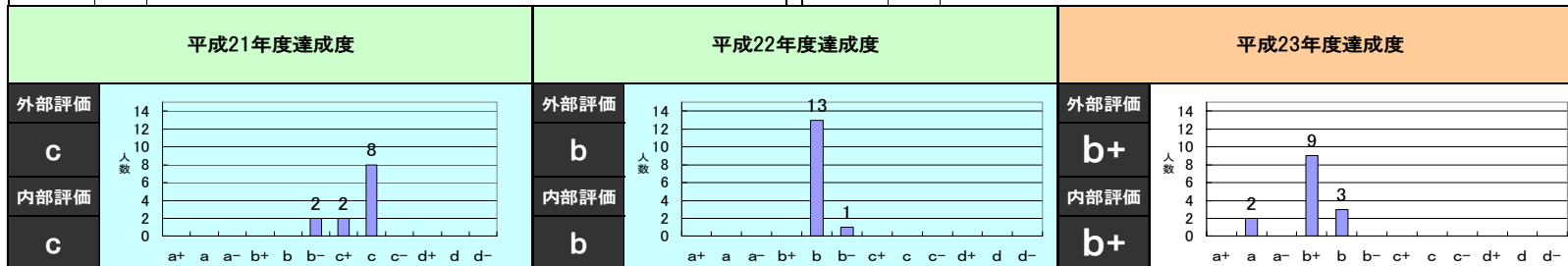
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	42	市内照明のLED化率全国1位を目指します。	4年以内	・平成24年度末までに、エネルギー削減効率の高い市有施設のLED化率を10%とします。 ・平成24年度末までに、街路灯について4,000灯のLED化を図ります。	①市有施設3施設のLED化 ②LED街路灯1,000灯設置	①市有施設3施設のLED化 ②☆LED街路灯4,680灯設置	a	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等を大幅に上回って進捗したので、「a」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	目標を上回って達成した為。	長野委員	b+	LED街路灯の設置数が予定を上回る。ただし、平成22年中に議決された平成23年度当初予算の範囲で、LED灯の市場価格下落のため実現できたのであれば、「a」とすることは留保する。市による価格交渉ほかの努力の成果であれば、「a」とする。
河西委員	a	いままでの検討の段階からどんどん実施に移っているのが評価。事故やトラブルに気をつけ、コストの削減にも努めて引き続き普及へお願いします。	橋本委員	b+	数値目標の達成は加点評価であるが、予算投入により実現する事業であり、取組内容の大幅な進捗と判断せず「b+」評価にしました。
木島委員	a-	目標灯数の大幅に上回って達成を評価。 ただし、投資額を増やせば目標達成は比較容易と考えられるためマイナス評価。	廣瀬委員	a-	工程表を大幅に上回っての導入の進捗だが、昨年の事態を受けての全国的な動向のなかでの展開であり、市の独自の努力というだけではなく、また、予算措置によって量的な拡大は容易な施策であるため「a」から減点とした。
栗原委員	a	—	福崎委員	a	大幅な進捗（具体的な削減額と、市内の業者の活用の有無について報告があればなおよし）。
須藤委員	a	1. 目標の大幅超過達成を評価する。 2. 機材の一括購入、メーカーのコンペ等によるコスト削減を引き続き図りたい。	星野委員	a	数値目標を大幅に上回っていると判断しました。しかしながら、予算的には問題なかったのが疑問点です。
高木委員	a	目標を大きく上回っているため。エネルギー削減の点で環境貢献度が高い事業であるため、もっとこの取組を学生や市民の方々に知ってもらえるようにアプローチ出来れば良い。学習面でも良い教育材料になるため、他の事業（土曜日寺小屋、子ども博物館、シニアユニバーシティなど）との相乗効果も図れると思う。	町田委員	b	LED照明の事業化は環境意識の啓発としては有効と思うが、CO2排出量や環境コストの試算には配慮が必要と考える。
高島委員	a	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a+	街路灯の数値はめざましい。新しい電気料金区分の活用など、時機を得た施策展開をしていると評価する。



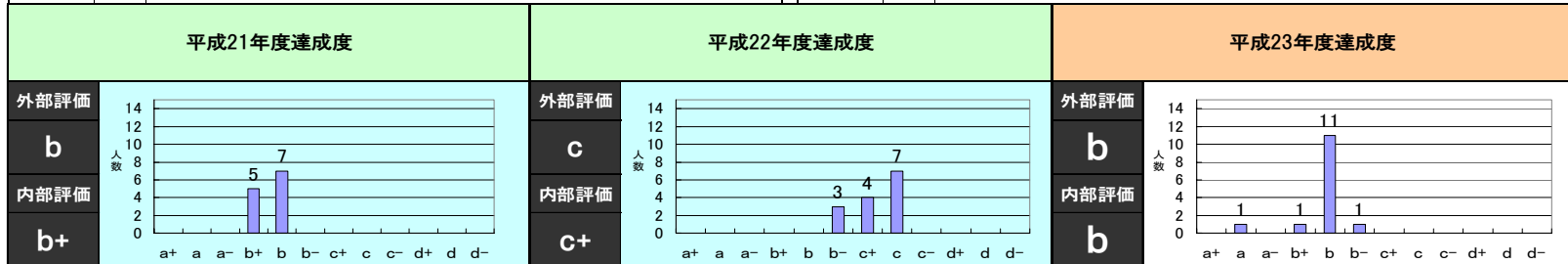
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	43	太陽光発電設備の設置を推進します。	4年以内	・平成24年度末までに、太陽光発電設備を設置する市有施設を22施設460kW増やし、太陽光発電能力を170kWから630kWにします。 ・平成23年度末までに、住宅用太陽光発電設備設置補助を継続し、太陽光発電能力を戸建（4kW）1,375戸に相当する総計5,500kWにします。	①市有施設2施設に太陽光発電設備を設置 ②小、中学校7校に太陽光発電設備を設置 ③住宅用太陽光発電設備設置への補助を実施（1,500kW）	①市有施設2施設に太陽光発電設備を設置 ②小、中学校7校に太陽光発電設備を設置 ③△住宅用太陽光発電設備設置への補助を実施（6,362.71kW:1,655件）	b+	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断し、より多くの市民が補助を受けられるよう住宅用太陽光発電の補助制度を改善したことから加点評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b+	市民への理解を得られた為。	長野委員	b+	補助単価の見直しや補正予算も組まれることで、住宅用太陽光発電設備設置は予定を上回ることが出来た。
河西委員	b	学校や住宅での設置は耐震性の問題もあり進みにくいところもあると思いますが、方向性は決まっています予算もたくさん当てているのだから、成果は当然のこととし、さらに上回ることを目標にしてください。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。予算投入により実現する事業であり、取組内容の大幅な進捗と判断せずb評価にしました。
木島委員	a	住宅用太陽光発電設備への補助増を評価(実績6,362.71kw/目標1,500kw=424%)	廣瀬委員	b+	住宅対象の補助制度の拡充が効果を発揮しているが、もともとは徐々に補助に頼る部分を縮小し、自ずと普及が進む状況を作ること期待した計画であったように思われる。状況の変化により政策の基本的な考え方に転換があったというべきであるが、それが不明確にしか示されていないように思う。
栗原委員	b+	—	福崎委員	a	40番のように補助金額単価や、補助と自己負担の配分などを記載できる気がするが、されていない点。
須藤委員	b+	1. 太陽光パネル等の太陽光発電設備は価格下落が顕著であり、引き続きコスト削減に取り組まれない。	星野委員	b+	工程表通りの進捗と考えます。また補助金制度の改善は「+」とします。
高木委員	b+	住宅用太陽光発電の補助制度を改善し目標値を上回ったため。環境への意識を向上させるため、発電電力量表示装置を設置し、工夫した点が良い。学習面でも良い教育材料になるため、他の事業(土曜日寺小屋、子ども博物館、シニアユニバーシティ等)との相乗効果も図れると思う。	町田委員	b	自然エネルギー活用という普及啓発事業としての役割りとして大きいものがあると思う。本来の環境配慮とは、従前のライフスタイルを見直しエネルギー使用そのものを見直すことに意味があると個人的には考えている。
高島委員	b+	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	b+	内部評価と同様の判断をする。



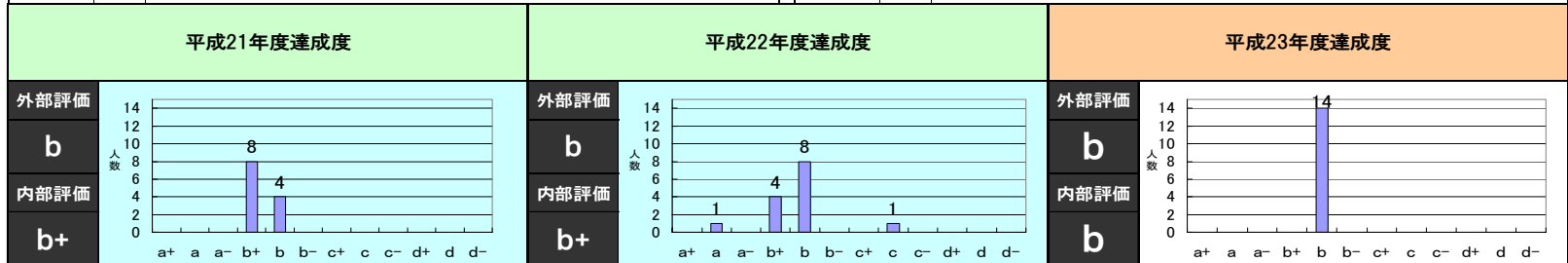
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度達成度（内部評価）		
						達成度	評価理由	
環境・まちづくり	44	「E=KIZUNA Project」などの実施により、次世代自動車の普及を促進します。	4年以内	・平成24年度末までに、市域における次世代自動車の台数6,000台を12,000台にします。 ・平成24年度末までに、市の公用車への次世代自動車の導入率を76.1%にし、平成25年度末には100%にすることを目指します。 ・上記に加え「E-KIZUNA Project」などの推進により、次世代自動車の普及促進を図り、自動車からのCO2を年間6万トン（さいたま市と同程度の面積の杉林が1年間に吸収する量に相当）削減します。	①参加自治体及び企業を拡大し、「第2回E-KIZUNAサミット・フォーラム」を開催 ②公用車へ次世代自動車を157台導入 ③EV導入補助制度の対象を個人へ拡大 ④充電器の課金システムの構築	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	11月に開催し、2市2団体への参加 ②公用車へ157台導入 ③EV導入補助制度の対象に個人を追加（補助件数62台から個人への補助件数34台） ④充電器の課金認証システム実証実験を実施 ※平成22年3月末で、市域における次世代自動車の台数は14,014台となり、2年前倒しで達成	b ・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	公用車が予定通りと判断	長野委員	b-	概ね工程表通りの内容である。但し、充電器の課金システムは実証実験まで進んでいるが、年次目標にある「構築」へは一步手前の段階と考えるため、減点とした。
河西委員	b	道路のネットワークと並行して充電器設置を。各区の偏りも出来るだけ少なくなるようにお願いします。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	—
栗原委員	b	—	福崎委員	a	事業計画の前倒しがある点。また、公用車を減らしたことも導入率達成のコスト削減策とみなした。
須藤委員	b	1. 工程表等の通りの進捗と判断。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b+	多くの自治体、企業が参加し、社会貢献度が高い事業だと感じた。次世代自動車を普及することで、環境にどのくらい貢献できるのかを示していただくとさらに分かりやすい。展示会やEV教室を低コストで実施し工夫した点を加点評価した。さらに市民の方々と交流する機会を増やし、取組を広めていただきたい。また、人々の好奇心を伸ばす学習面で、他の事業との相乗効果も図れると思う。	町田委員	b	評価。公用車約800台をすべてハイブリッドとするための必要経費が課題。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。



宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由
環境・まちづくり	46	コミュニティバス路線の検討委員会を設置します。	すく	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年8月に、交通空白地域や交通不便地区などの解消に向けた検討を行うため、有識者や市民などを委員とする「コミュニティバス等検討委員会」を設置します。 平成22年度末までに、委員会での検討内容をまとめ、市民に公表します。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインの運用を開始し、コミュニティバスの路線等の検討、乗り合いタクシーの実証運行の実施 	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	b ・平成23年度の目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの成果と考える。
河西委員	b	土日の運行も検討していただきたいです。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	—
栗原委員	b	—	福崎委員	b	コミュニティバスのニーズの把握についての状況報告が無い点。
須藤委員	b	1. 需要予測、収支計画が甘くなりがちであり、確実な見積りが必須。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	住民の意見を聴く姿勢は評価できる。一方で住民意見がどこまで正当性の根拠として有効なのか疑問。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。



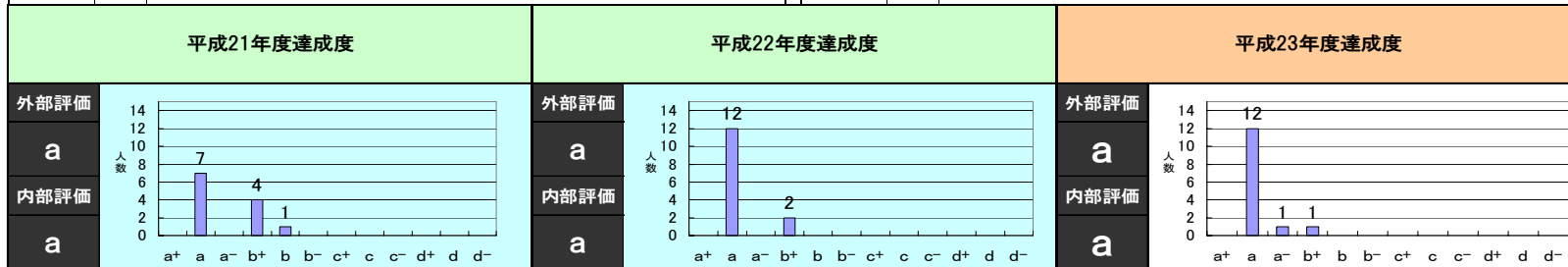
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	47	新規建設事業費の1%を魅力ある文化・芸術のまちづくりに配分します。	3年以内	・平成22年度末までに、建設事業費における1%（一般財源ベース）を文化・芸術事業に充てる仕組みをつくります。	①基金設置条例案を9月定例会に上程し、条例を制定します。 ②平成23年度にさいたま市誕生10周年記念事業として新たな文化・芸術事業(フリーカルチャービレッジ、ジュニアソロコンテスト)を実施します。	①★本年度は条例を提出しませんでした。 ②「秋のさい10 フリーカルチャービレッジ」さいたま新都心、「ジュニアソロコンテスト」を開催しました。	C	・1%を充当する仕組みが構築できなかったため「c」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	d	仕組みづくりが予定通りでなかった為。	長野委員	c-	「仕組みの考え方の見直し」と、本政策項目を根本から見直し、検討する作業の年度となった。
河西委員	d	さいたま市ならではの取り組みについて言及されなかったことがとても残念です。我田引水のように気が引けますが、岩槻の人形について周知されているにも関わらず、作家の育成、産業としての成長、歴史文化の継承、観光へつなげる試みは何一つ言及されないことが残念で、焦り、悲しみ、怒りも感じました。どうぞ人形の文化をまず知ることからはじめてください。よろしく願いたします。	橋本委員	c-	条例制定がなされないと実現しない目標なので、評価は未達よる「c」評価。迅速な取り組みを期待します。
木島委員	c	プランの「普通建設事業費から特定財源を除いた額の1%の額を文化芸術事業費にあてる」という仕組みは構築できていないため「c」評価。	廣瀬委員	d+	文化・芸術関係の予算増は実現されているが、新規建築事業費の1%という考え方についての合意形成ができなかったといえる。全面的な仕切り直しが必要ではないか。
栗原委員	c	—	福崎委員	d+	事業構想そのものが見直されるため。よりよい仕組み作りのためであると、質的加点。
須藤委員	c	1. 当県の歴史・文化等に根差し、当県のオリジナリティがある文化・芸術活動を助長するような予算措置を講じて欲しい。	星野委員	c	目標に達していないと判断しました。
高木委員	c	目標を達成できなかったため。人々の好奇心を伸ばす「ものづくり」をする点で、他の事業（土曜日寺小屋、子ども博物館、シニアユニバーシティなど）との相乗効果を図れないか。日頃取り組んでいる「ものづくり」をアウトプット出来る環境づくりをすることは、魅力ある文化・芸術のまちづくりにつながり、参加者のモチベーションも向上するのではないかと。	町田委員	c	施策はしきみ遣りが大切です。文化を文化都市としての施策は魅力あるまちづくりの観点からも興味があるところです。民間や個人ではできない事業であることから行政が力を入れる分野だと考えています。
高島委員	c	条例を提出しなかったため。	三浦委員	d	「新規建設事業費の1%を魅力ある文化・芸術のまちづくりに配分する」という具体的な目標が達成されていない。財政面の仕組みづくりの施策であったのに、事業だけが新設されているのは、良くない意味で換骨奪胎の感もある。

平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度	
外部評価		外部評価		外部評価	
内部評価		内部評価		内部評価	

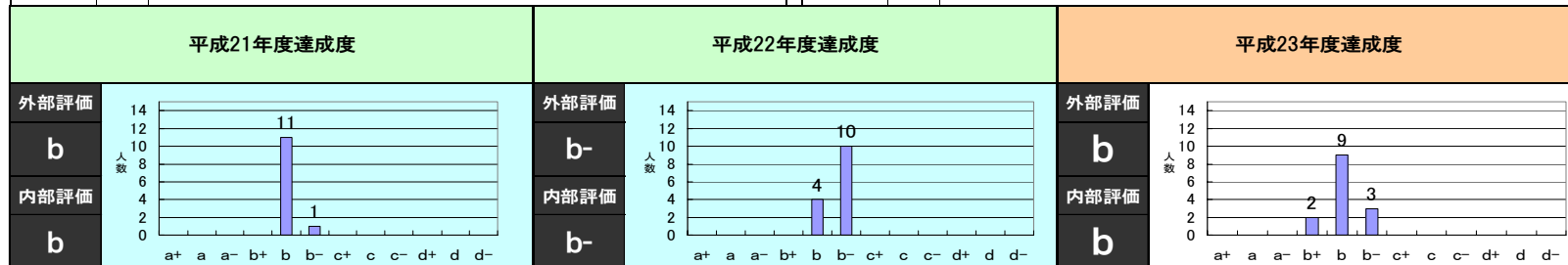
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	48-1	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (公園の芝生化)	4年以内	・平成24年度末までに、芝生のある公園が各区2か所以上となるよう14公園増やし、26公園とします。	①3公園を芝生化 ②管理費の軽減について検討	①☆7公園を芝生化 ②宮原東口公園の芝生管理を地元自治会と協働で実施。	a	・平成23年度の主な目標大きく上回る、7公園を芝生化したことを評価して「a」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	目標に対し、増となった為	長野委員	a	目標数を上回る芝生化が行われた。
河西委員	a	芝生化すると管理は必ずついてくる問題ですが芝生化＝経費増加にならない方法も検討してください。	橋本委員	b+	公園の芝生化の達成を加点評価しました。芝生化した公園の管理に関する対応が急務と考えます。
木島委員	a	達成率233%(実績7/目標3)、一部協働管理を評価	廣瀬委員	a	目標を明確に上回る整備が実現されている。
栗原委員	a	芝生は維持管理が難しいと聞きますので、管理体制の早急な整備が必要と考えます。	福崎委員	a-	管理費の軽減が協働の目的ではないとのこと。しかし、取り組み内容の記載からは、逆に軽減のために協働を促進するように受け取れ、やや疑問を感じる。
須藤委員	a	目標を大幅に上回ったため	星野委員	a	目標を上回る進捗状況と評価します。
高木委員	a	7公園を芝生化し、目標値を大きく上まったため。	町田委員	a	3ヶ年に渡って目標値を上回っている。居住環境の良好な確保のためにも整備をお願いしたい。手間のかかる芝生化については疑問がある。地域との協働を前提としての芝生化の決定は慎重にお願いしたい。
高島委員	a	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a	予定を大きく上回った。



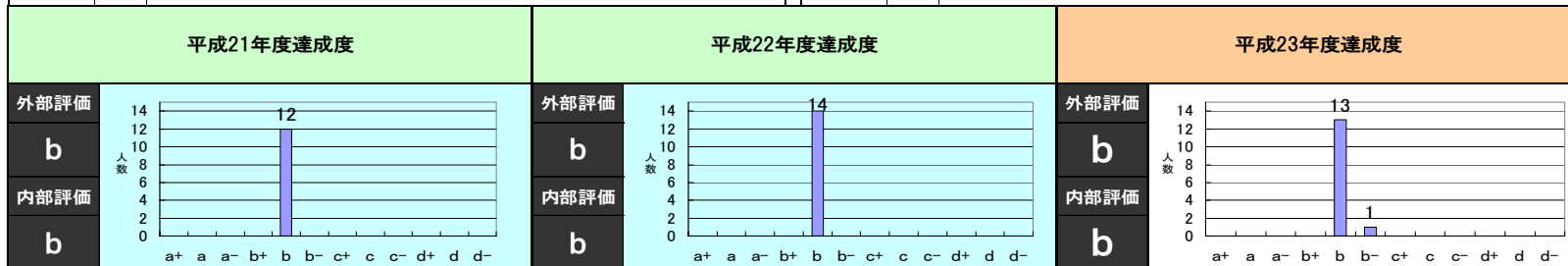
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合		H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由		
環境・まちづくり	48-2	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (学校の芝生化)	4年以内	・平成24年度末までに、芝生化した学校が各区2校となるよう14校増やし、20校とします。 ・平成22年度末までに、市民との協働や民間企業からの技術支援などの地域社会との連携による芝生維持管理システムを構築します。	①新規4校、前年度未完成2校の芝生化 ②芝生維持管理システムによる管理	①新規4校、前年度未完成2校の芝生化 ②芝生維持管理システムによる管理	b	平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りの実施	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b+	芝生化に取り組む場合、管理が課題になりますが職員の負担増とは捉えず、教育ファームの事業同様、土の作業に馴染んでください。	橋本委員	b-	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。芝生の維持管理対策が急務と考えます。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	維持管理や、養生のための子どもたちの利用制限がかかる日数など、運用上の課題の洗い出しが必要。
栗原委員	b	事業コスト等の面から考えれば仕方の無い事だとは思いますが、芝生化の対象はやはりグラウンドにするべきと考えます。	福崎委員	b-	事業費の内訳が不明な点。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b	目標通りの進捗状況と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b+	目標数値を達成していることより、評価。ただし芝生の手入れは相当の労力を使う。教育として児童や生徒にメンテをさせる工夫や校庭を地域に開放し地域で実施させてもよい。運動の確保の場と芝生化は相反するので調整が必要。市民にも開放された校庭とするならばもっと有意義。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b-	整備は工程通り進んでいるようだが、教員の負担が増えているという課題は軽視できない。減点要素とする。



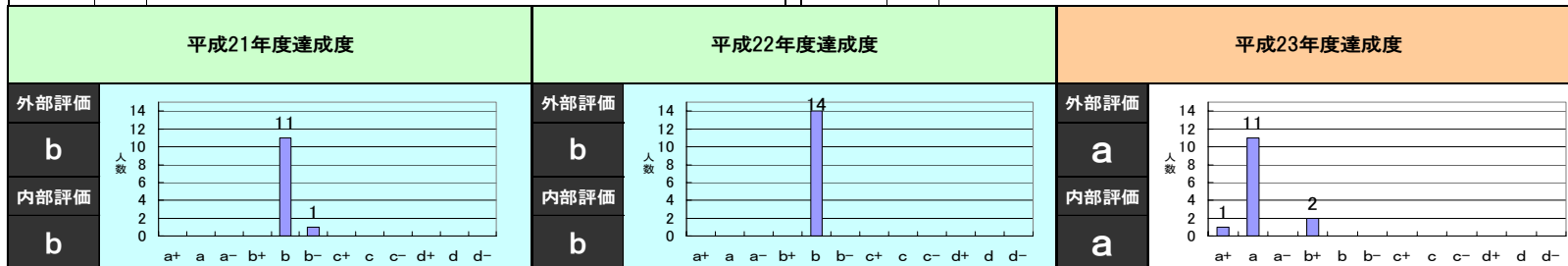
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	48-3	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (保育園の芝生化)	4年以内	・平成24年度末までに、すべての公立保育園（62園）の園庭を芝生化します。 ・平成22年度末までに、市民との協働や民間企業からの技術支援などの地域社会との連携による芝生維持管理システムを構築します。	①公立保育園20園の園庭の芝生化実施 ②芝生維持管理システムによる芝生の管理	①公立保育園20園の園庭の芝生化実施 ②芝生維持管理システムによる管理	b	・平成23年度の目標どおり、公立保育園20園の芝生化を実施したため、「b」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りの実施	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b	学校同様に管理の課題がともないますが、ボランティアやシルバー世代の力など活用できないでしょうか。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	維持管理や、養生のための子どもたちの利用制限がかかる日数など、運用上の課題の洗い出しが必要。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	芝生の養生期間中、立ち入れないこと、その期間が長いことなど、利用者の声から不満点も把握されている。緑化プロジェクトへの理解を広げると共に、現場訪問の継続など丁寧なアフターフォローを期待。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b	目標通りの進捗状況と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b-	目標数値を達成していることより評価。ただし、保育園の天然芝の緑化は園庭の規模からも意味が見出せないからマイナス評価とした。緑を増やすならば壁面緑化などの方が通風や日差し低減の点でも他の方法があると考え。遊び盛り・運動盛りのこどもに天然芝生庭園は、外で遊ぶ機会を奪うことにならないことを願う。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。



宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	48-4	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (学校の緑のカーテン)	4年以内	・平成24年度末までに、すべての市立学校で緑のカーテン事業を実施します。	①既設小学校30校、中学校20校、特別支援学校1校、新設小学校31校、中学校19校において実施 ②(仮称)緑のカーテンコンテストの実施方法について検討	①☆111校(小学校71校、中学校39校、特別支援学校1校)において実施 ②学校の緑のカーテンコンテスト実施方針の決定	a	平成23年度の数値目標を上回って小学校で新規に41校で実施したことを評価して、進捗度を「a」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	予定を上回った為	長野委員	b+	目標数を10校(全体割合で+10%)上回る実施を実現。カーテンコンテスト実施方針の内容および決定過程への市民の参加は把握できず。
河西委員	a	とてもいい調子で実行されてきていると思います。	橋本委員	b+	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。数値目標をクリアしているが、目立った改善や取組とは判断できなかったため、+評価にしました。
木島委員	a	新設小学校達成率132%(実績41/目標31)を評価	廣瀬委員	a	費用の縮減を図りながら目標以上の実施を実現している。
栗原委員	a	—	福崎委員	a+	事業促進のための付加事業が検討・実施されている点。
須藤委員	a	1. 数値目標の大幅な超過達成を評価する 2. 事業費も低く抑えられており、コストパフォーマンスもよい	星野委員	a	目標を上回る進捗状況と評価します。
高木委員	a	111校において実施し、目標を上回ったため。	町田委員	a	23年度にあっても目標数値を大きく上まっただための評価。整備費用は低額で緑を創出できることに加え、緑の蒸散作用による空調費用の縮減にも効果がある。理科の教材としても有効活用できる壁面緑化は環境教育としても有益。部分的でなくもっと大規模な壁面緑化としてのモデル校があってもいい。
高島委員	a	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a	社会背景もあつたと思われるが、工程を大幅に上回って進捗した。



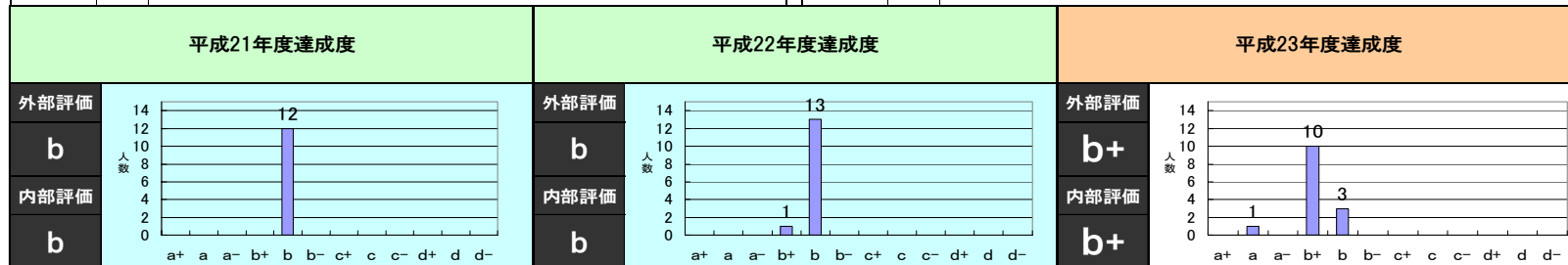
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	48-5	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (公共施設・家庭の緑のカーテン)	4年以内	・平成24年度末までに、緑のカーテン事業を実施する身近な公共施設を100か所に増やします。 ・平成24年度末までに、緑のカーテンづくりに取り組む家庭を2,000家庭にします。	①公共施設での実施30か所 ②家庭での取組500家庭 ③緑のカーテンサポーターの募集 ④取組の公表 ⑤講習会の開催	①☆公共施設71か所 ②☆家庭1,139家庭 ③緑のカーテンサポーターの募集・支援 ④市ホームページで公表 ⑤講習会:受講者190名	a	・平成23年度の数値目標である公共施設30か所、家庭の取組み500家庭を大きく上回り実施することができたため、「a」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	予定を上回った為	長野委員	a	協力家庭の数は目標を大きく上回る参加を得ることが出来た。
河西委員	a-	岩槻区の極端なへこみが気になります。	橋本委員	a	公共施設以上に、家庭の数値達成が出来たので加点評価しました。
木島委員	a	公共施設達成率237%(実績71/目標30)、家庭達成率228%(実績1,139/目標500)を評価	廣瀬委員	a	一貫して当初目標を上回る実績が出ており、ニーズに合致した政策であったと評価できる。
栗原委員	a	—	福崎委員	a+	事業に参加しやすくする工夫がされている点。 予想を上回る参加者は、今現在の市民のニーズや関心の高さの表れだと思われる。
須藤委員	a	1. 数値目標の大幅な超過達成を評価する 2. 家庭での取組が活発化しており、室温の上昇抑制・エアコン節約を通し、節電にも寄与大	星野委員	a	目標を上回る進捗状況と評価します。今後カーテンサポーターの活動をさらに発展してもらいたい。
高木委員	a	公共施設の実施と家庭での取組が目標を大幅に上回ったため。	町田委員	a	48-4同様、家庭においても自然と親しむ機会を増やす施策として有効と考えます
高島委員	a	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	a	社会背景もあつたと思われるが、工程を大幅に上回って進捗した。

平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度	
外部評価		外部評価		外部評価	
内部評価		内部評価		内部評価	

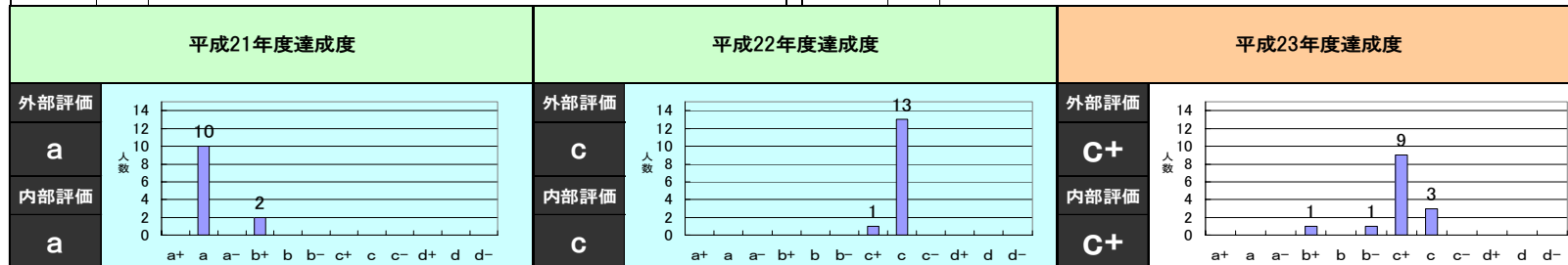
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	48-6	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (公共施設の緑化)	4年以内	・平成24年度末までに、8施設以上の公共施設の屋上緑化・壁面緑化を実施します。 ・平成22年度末までに、未利用となっている全ての市有地から緑地化に適した土地を選定し、平成24年度末までに、選定した市有地の緑地化を実施します。	①新設予定の公共施設で屋上緑化・壁面緑化を実施 ②未利用市有地1か所を緑地化	①美国小学校等、新設の公共施設4施設を緑化 ②日進町2丁目地内の未利用市有地を緑地化 ③△既存の中学校で生徒と協働で屋上を緑化	b+	・平成23年度に予定していた目標のとおり進捗したため「b」と判断した。 ・新たな取組として生徒と協働で屋上緑化ができたことを加点評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りの為	長野委員	b+	既存緑化施設に対して新規に住民ボランティアグループの組織化(1か所)成功している。
河西委員	b+	目標が実行されてすばらしいと思います。まだ緑化されていない公共施設や未使用市有地があれば引き続きスピードを上げて緑化に取り組んでください。お願いします。	橋本委員	b+	内部評価に準じました。継続的な取り組みと今後も期待します。
木島委員	b+	目標通りの進捗に加え、生徒との協働をプラス評価。PTAから相談を受ける姿勢、またそれを倍増プラントと一体となって実施まで行なった対応は高く評価できる。これをモデルケースの一つとし、是非、他校にも積極的に広めて欲しい。	廣瀬委員	b+	生徒との協働による取り組みを加点
栗原委員	b+	昨年、スーパーアリーナの壁面を見学した際、だいぶ枯れているのが見受けられましたが、その後どうなったのでしょうか？	福崎委員	a	経緯・実績等が書かれた参考資料が、非常に簡潔で分かりやすい点。緑化事業にクラブ活動の生徒が参加できた点。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b+	目標通りの進捗状況と評価します。また、既存公共施設を生徒と共に緑化したことは加点要素となります。
高木委員	b+	目標を達成し、さらに既存の中学校で生徒と協働で屋上を緑化したため。	町田委員	b	公共施設の屋上緑化数8施設に向けて予定どおりと評価。学校での新たな取組も評価。ただし屋上緑化への緑対策としての効果には疑問。壁面緑化のように、環境教育の機会としても常に目視できる場所とは異なる。蒸散作用によるヒートアイランド抑制を目的とするならば他の方策を検討すべき
高島委員	b+	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	b+	内部評価と同様の評価とする。



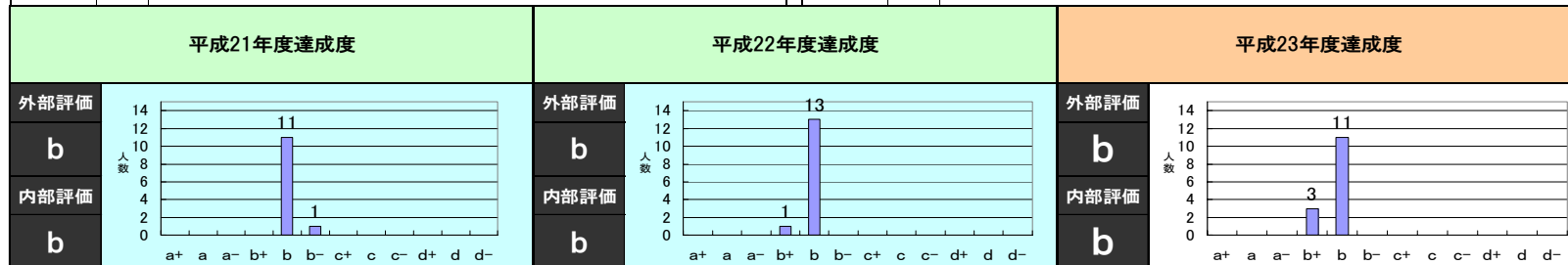
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	48-7	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (民間建築物の緑化)	4年以内	・平成24年度末までに、創出される緑化面積を1,400㎡増やします。	・建築物緑化助成事業による緑化創出（面積400㎡）	・★建築物緑化助成事業による緑化創出（面積335.63㎡） ・△建築物緑化助成事業制度の拡充（沿道緑化を追加）	C+	・平成23年度の数値目標を達成できなかったため「c」と判断した。 ・市街地の緑化推進に向けて、新たな取組を開始することを加点評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	c	目標を下回った為	長野委員	C+	緑化創出面積は目標に届かず。新規助成制度は加点要素。
河西委員	b+	48全体の流れをみると緑化へスピードは上がっているためH24は目標を上回れると期待します。	橋本委員	C	昨年に続いて目標未達の点から「c」評価にしました。48の事業全体のシナジー効果をぜひ高めてほしい。
木島委員	C+	達成率84%（実績335㎡/目標400㎡）のため未達。二年連続の未達ではあるが、目標達成のために新たな取り組みを開始し制度化したことは評価できる。その分をプラス評価。	廣瀬委員	C+	沿道緑化の推進制度を追加したことにより加点。
栗原委員	C+	—	福崎委員	b-	H21年度の実績があるため、当初目標はクリアしている。反面、当年度目標を下回った点。
須藤委員	C+	民間事業所等に対し、本事業の趣旨徹底を図る必要あり。（ポスター、チラシ等）	星野委員	C	目標に達していないと評価しました。
高木委員	C+	目標値を下回ったが、沿道緑化を追加したため。イベント等でパネル展示等を行い申請件数を増やした点が良い。	町田委員	C+	建築物の助成事業が予定目標値を下回っていることの評価。ただし、屋上緑化助成には疑問があるため目標数値を下回ってもプラス評価とした。
高島委員	C+	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	C+	内部評価と同様の評価とする。



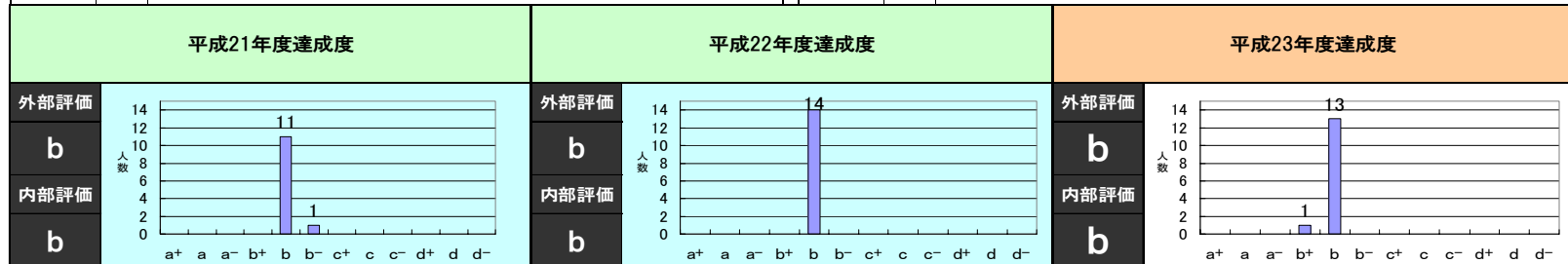
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	48-8	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (花と緑でいっぱい・区の花の制定)	4年以内	・平成23年度から、市内全ての駅・駅周辺及び主要な観光スポットなどを区民等と協働して「花や緑」でいっぱいにします。 ・平成23年5月頃に、市制10周年を記念して、全10区役所において、区の花の緑化推進のシンボルフラワーとして、「区の花」を発表します。	①花と緑のまちづくり推進事業を順次、実施 ②市制10周年記念事業等で区の花を発表	①花と緑のまちづくり推進事業を10区で実施(新規15か所) ②区の花デザインを作成し、市制10周年記念事業で発表	b	平成23年度の目標、取り組み内容、工程表のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b	シルバー世代やボランティアの力など活用してさいたま市の花の街ができていくとステキです。区の花を「知っている」から「好き」になっていけばもっとステキな街になります。住民票改ざん防止やバイクのナンバープレートもいいアイデアだと思います。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	区の花の決定がどの程度浸透し、どのような効果を達成していくか注目が必要
栗原委員	b	貴重な予算と人手を使って制定した「区の花」ですが、今のところ、通り一遍の使い方がされていないように思いますので、更なる有効活用を希望します。	福崎委員	b+	事業への市民参加を積極的に呼びかけている点。 区の花選定後のPR事業が色々報告された点。今後の継続に期待。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b+	花デザインを作成し活用した点、「エコキャップアート」を小学生と作成し、PRを行なった点を加点評価した。	町田委員	b	予定通りの数での実施と評価。地域住民に積極的に働きかけ、住民みずからが積極的に関与できるような施策としていることに評価。区の花のシールやキャラクターシールは市に愛着を持ついいツールと思う。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b+	原付バイクのナンバープレートに区の花のシンボルマークを入れるなど、訴求力のある周知啓発が展開できている。



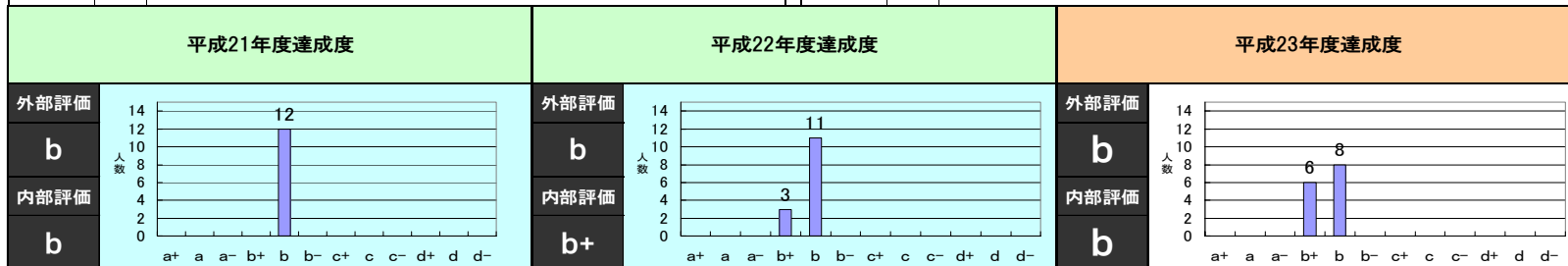
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗率の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	49-1	見沼田んぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。 (見沼基本計画の策定)	4年以内	・平成22年度末までに、見沼田んぼを農業生産の場として維持しつつ、市民が自然とふれあい、憩える場所とするため、本市として初めて、見沼田んぼに関する各部門の諸施策を体系的に取りまとめた実効性のある（仮称）見沼基本計画を策定します。 ・平成23年度末までに、斜面林等の保全などのアクションプランを策定します。 ・平成24年度末までに、見沼代用水と一体となった斜面林を開放し、散策路や休憩施設の整備を行うなど、水と緑に親しむことができる市民の憩いの場所を3か所整備します。	①見沼田圃基本計画アクションプランの策定 ②水と緑に親しむことができる市民の憩いの場所の整備1ヶ所 ③市民協働による斜面林保全活動の実施	①見沼田圃基本計画アクションプランを策定 ②水と緑に親しむことができる市民の憩いの場所を1ヶ所整備 ③市民協働による斜面林保全活動の実施	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表などのおり進捗したので「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断	長野委員	b	工程表通りの成果をあげている。
河西委員	b	見沼区の見沼田んぼの課を越えた横断的なアクションプランが今後各区のロールモデルになるといいます。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗
栗原委員	b	—	福崎委員	b+	市民の声が生かされていると思われるが、取り組み状況に報告されていない点。
須藤委員	b	1. 貴重な歴史・自然遺産であり、基本計画の確実な履行が必須。 2. 市民（含地主）の保全に向けた理解と広範な協働が計画達成に不可欠である。	星野委員	b	目標通りの進捗状況と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	アクションプランの策定、憩いの場所の設置など予定どおりの進捗と評価。 都市と自然が共存するさいたま市の特徴として掲げふるさとづくりのひとつとしても活用していただいたい。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。 プランづくりとパイロット的な取り組みの展開が本事業の内実であることから、平成24年度に目標を達成した上で、平成25年度以降の継続的な取り組みが見えてくるのが求められる。



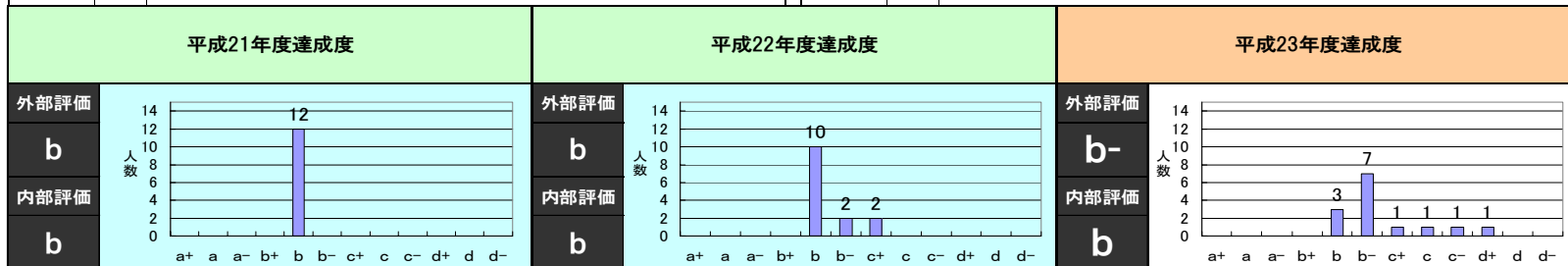
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	49-2	見沼たんぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。 (歴史的遺産・自然環境の活用)	4年以内	・平成24年度末までに、市民が見沼たんぼの「歴史」や「豊かな自然環境」を感じ、憩える場所として見沼代用水や見沼通船堀沿いに休憩施設を5か所増やします。 ・平成24年度末までに、見沼通船堀の閘門（注1）や鈴木家住宅（注2）の適切な保存を行うとともに、周辺の文化財への案内看板や休憩施設を設置し、憩える場所として歴史的遺産の活用を図ります。	①ワークショップによる休憩施設設置場所等の検討 ②休憩施設2か所設置 ③見沼通船堀堤塘等の修繕 ④文化財案内看板1基設置	①ワークショップ3回開催 ②休憩施設を3か所設置 ③見沼通船堀堤塘等修繕12か所 ④文化財案内看板1基設置、9基改修	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表などのおり進捗したので「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断	長野委員	b	工程表に従っての成果をあげている。
河西委員	b	憩いの場所、休憩ベンチ、沼地湿地特有の腐敗劣化が維持管理の予算を超えないように注意して設置ください。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗
栗原委員	b+	目標以上の結果となったことを評価。	福崎委員	b+	市民の反響が良かった点。桜の時期に合わせた設置も評価。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b+	概ね目標通りの進捗と評価します。また、休憩施設の市民と協働した手作りには加点要素とします。
高木委員	b+	目標を上回り、ベンチ・テーブルを設置した点を加点評価した。	町田委員	b+	休憩場所1箇所増設、案内看板の改修など加点評価とする。PR活動を充実させていっていただきたい。
高島委員	b+	工程表どおりに進捗していると判断した。②について、目標を上回っているので+とした。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。



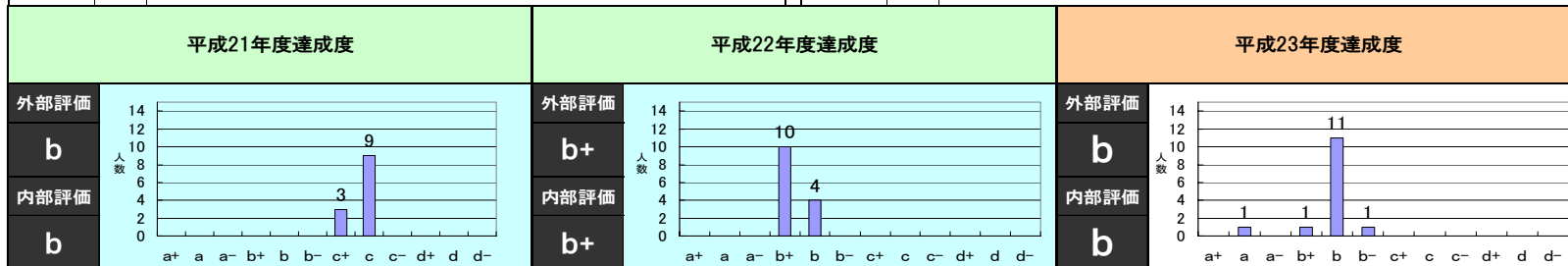
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	49-3	見沼たんぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。 (教育ファームの実施)	4年以内	・平成24年度末までに、すべての市立小・中学校で、学校教育ファームを実施（見沼たんぼ内は、小・中学校あわせて50校）します。	①学校教育ファーム小学校34校、中学校9校（累計小学校100校、中学校25校） ②見沼たんぼ内における学校教育ファーム実施 小学校15校、中学校8校（累計小学校25校、中学校10校）	①△小学校36校、中学校36校（累計小学校102校、中学校52校） ②▼小学校2校、中学校0校（累計小学校12校、中学校2校）	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと思いますが、子供達が何を感じたか知りたい部分です。	長野委員	b	内部評価は概ね妥当と考える。
河西委員	b	田畑管理の困難さが未達成の原因ならば、H24目標は下げずに年月と経験で超えてください。教育ファームの取り組みは長いスタンスで継続してください。各学校生の感想文などありますか。(アンケートではなく)	橋本委員	b-	見沼たんぼ内における教育ファームの未達を減点しました。事業実施への取り組みの本気度が問われます。
木島委員	c-	見沼たんぼ内の教育ファームが大幅に未達(実績2校/目標23校)な上、4年間の目標も未達の見込み。この部分ではd評価と考えるが、学校教育ファームが目標を上回ったため、「c」評価とする。ただし、昨年度も未達のプランであり、評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。	廣瀬委員	b-	見沼たんぼ内での取り組みが進まない点を減点。この理由を検証した上で必要があれば今後の目標設定を再検討する必要があるのではないかと
栗原委員	b-	学内の方は目標を上回っていますが、本事業のキモは見沼たんぼ内での実施かと考えます。よってマイナス評価としました。	福崎委員	b-	見沼たんぼ内での実施の難点を十分に把握出来なかったのか、下方修正しても当年度目標が達成されなかった点。
須藤委員	b-	1. 全体では目標を達成したが、見沼たんぼの学校教育ファーム実施が大幅未達であり、マイナス評価。 2. 見沼たんぼに対する小・中学生の関心を高めるためにも、促進を図るべし。	星野委員	c	見沼たんぼ内における学校教育ファームの目標が大きく下回った為「c」と評価します。
高木委員	b-	学校教育ファームは目標を上回ったが、見沼たんぼ内における学校教育ファーム実施が目標値を大幅に下回ったため。	町田委員	b-	市内全域での数は達成されたものの、見沼たんぼでの実施数が少ないことでマイナス評価。 施策49として考えると見沼たんぼだから意味のある施策とも思える。
高島委員	d+	②に関して、目標と比べ大幅な遅れがあるので「d」、①について目標を上回ったので加点。内部評価の「工程表どおり進捗」とは何を持ってそう言っているのか???	三浦委員	c+	見沼田圃内の教育ファームが目標を大きく下回っている。見沼田圃を活かすという政策的目的もあるはずであり、「c」評価とする。一方、市内全域での教育ファームは概ね工程通り進んでいるので、見沼田圃での遅れをカバーする工夫がなされていると見て加点要素とする。



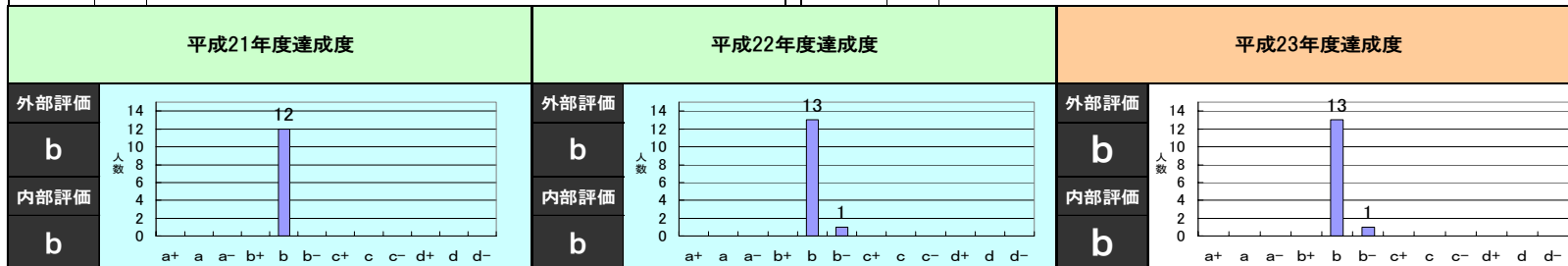
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	49-4	見沼たんぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。 (市民農園の整備)	4年以内	・平成24年度末までに、見沼たんぼ内の市民農園を3か所から9か所に増やすとともに、市内全域の市民農園を40か所から72か所に増やします。	①市内全域の市民農園開設 133か所 ②うち見沼たんぼ内 2か所	①市民農園開設 16か所(閉園数4か所) ②うち見沼たんぼ内 3か所	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断	長野委員	b	工程表通りの進捗である。
河西委員	b	利用者や他の市民のモラルの問題がまだまだ出ると思いますが、市民農園は増やしてほしいです。ルールや高いモラルは後付で浸透していくとおもいます。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	市民農園の開設は目標以上の数となっているが、前年度までの遅れを取り戻したものと評価し、加点はしなかった。
栗原委員	b	閉園の数が気になります。いたずらな新規開設ではなく、既存園の統廃合や管理運営の再検討などが必要では？	福崎委員	a	参考資料にて、課題抽出とその検討・対応状況の報告がされている点。
須藤委員	b+	市民のニーズが高い事業である。数値目標の超過達成と高利用率をキープしている点をプラス評価。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b-	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	市民農園開設数の増加に伴う加点評価。 市民農園の開設数はもっと目標値を上げてもらってほしいと感じている。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	見沼田圃内外を合わせ、概ね工程通りに進捗した。



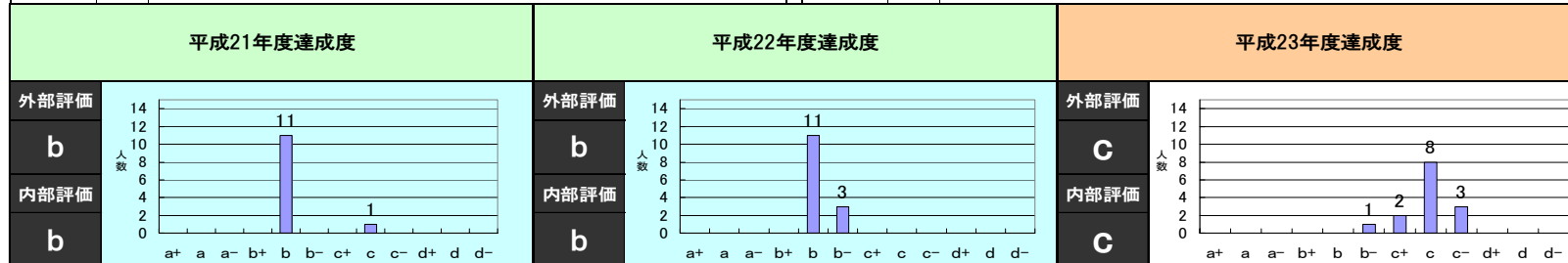
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	49-5	見沼たんぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。 (東宮下調節池の広場整備)	4年以内	・平成24年度末までに、東宮下調節池を、遊水機能を保ちつつ、市民が水と親しみ憩える場所として整備します。	・東宮下調節池整備工事の推進	・東宮下調節池工事を推進	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表のとおり実施しているため、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断	長野委員	b	工程表通りの取り組み内容である。
河西委員	b	引き続き計画に従って進めてください。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗
栗原委員	b	—	福崎委員	b-	工事遅延は震災の影響もあるかと思われる。H24年度開設にこだわるより、工事を終わってから市民へ開放する方がよいと思うため。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	予定どおりの進捗状況と判断します。このようなシンボリックな整備もふるさとづくりには必要と思います。 工事費のみで全体で11億もの事業です。25歳以上の納税人口100万市民のひとりひとりが1100円負担する事業として有意義なものにするともに、華美にならないことを期待します。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。



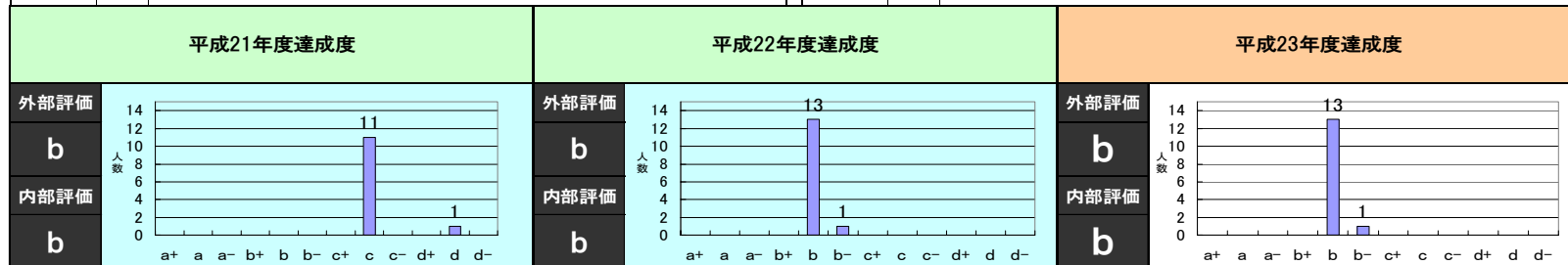
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	49-6	・平成24年度末までに、既存の水路敷などを活用し、市民が水と親しみ憩える場所を2か所整備します。 (高沼用水路の整備)	4年以内	・平成24年度末までに、既存の水路敷などを活用し、市民が水と親しみ憩える場所を2か所整備します。	①バイパス放流管の整備 ②高沼用水路の実設計	①バイパス放流管の工事着手 ②実施設計業務を発注	C	・平成23年度の数値目標及び期日目標に遅れはあるが、実現に向けて実施しているため「c」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	予定が遅れた事による	長野委員	C	工程表上の作業目標からの遅れがみられる。
河西委員	b-	引き続き計画に従って進めてください。	橋本委員	C	内部評価に準じました。継続的な取り組みと今後も期待します。
木島委員	C-	単年度目標が未達。かつ、昨年度も一部未達(工程表では実施設計終了予定だったが、実際は終了せず)のプランであり、評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。	廣瀬委員	C	遅れてはいるが進捗はしている。
栗原委員	C	—	福崎委員	C-	目標も報告も、詳細が分からない点。実際にどの程度遅れが出ているのか、よく掴めない。
須藤委員	C+	工程期日に遅れはあるが、実現に向けたステップを踏んでいるためプラス評価とした	星野委員	C	進捗状況が遅れてると判断し、「c」評価としました。
高木委員	C	目標に遅れがあるため。遅れている理由や取組状況が具体性に欠ける。	町田委員	C-	今の進捗で2箇所の整備が可能なのか疑問。建物の屋上緑化などように直接目視できない施策より、直接目に触れ、身近に感じる緑の施策の方が重要と考える。水を感じることができるものとしての整備を期待します。これらの施設を有効活用することを期待します。
高島委員	C	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	C+	実施設計には至らなかったが、実施設計を発注の上、市民との協議を慎重に進めているので加点要素とする。



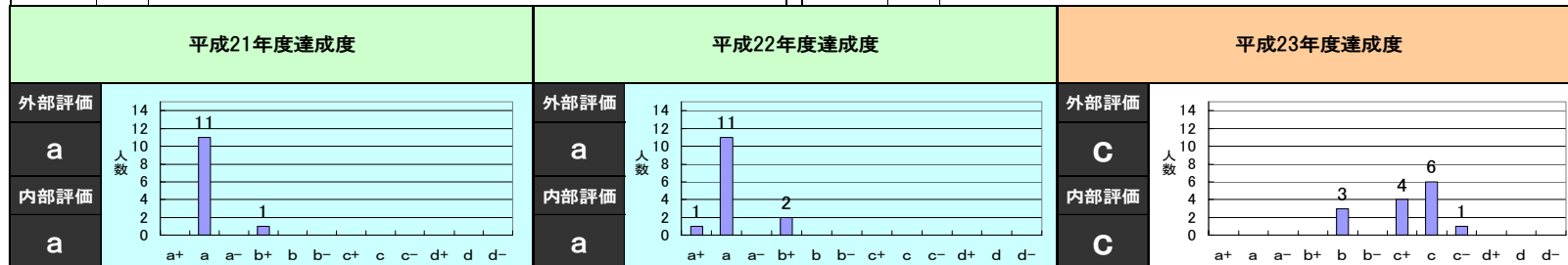
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由
環境・まちづくり	50	良好な住環境を守るための「高度地区」による高さ制限を導入します。	4年以内	・平成24年度末までに、住居系用途地域に高度地区の指定を行います。	①高さ制限を行う地区や高さ制限値の市民意見の調査 ②高度地区指定案の策定	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	b ・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	ヒアリングのみの為、予定通りとした。	長野委員	b	工程表通りの内容と考える。
河西委員	b-	マンションや戸建の射光の問題などははじめから見通しがついていたことで、後付の説明はまとめるのが難しいのでは。ただ高度地区指定案は賛成です。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	単なる一律の規制ではなく、良好な住環境を守るための都市計画となっていることの検証が必要	廣瀬委員	b	—
栗原委員	b	—	福崎委員	b	高度地区設置に向けた具体的な道筋が書かれている点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	当初の計画表から予定どおりと判断。住民ニーズを的確に把握することを重点的に実施してください。住民密着型の行政施策となることを願います。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。



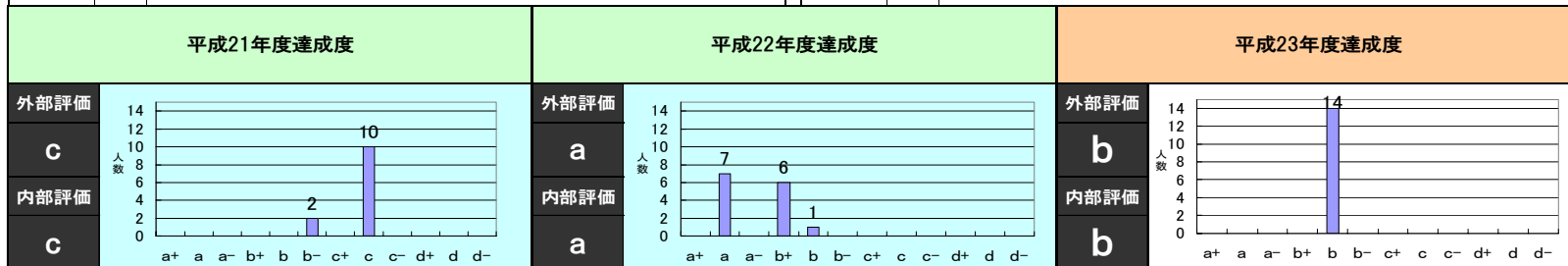
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗状況の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	51-1	下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。 (都市公園の整備)	4年以内	・平成24年度末までに、身近な公園（注1）を15か所増やし、身近な公園の不足する地域（注2）を20.3%から13.2%にします。	①身近な公園を6か所整備 ②身近な公園が不足する地域を15.6%とする	①△身近な公園を7箇所整備 ②★身近な公園が不足する地域を16.9%とした。	C	・公園整備箇所数は目標を上回ったことは加点評価するものの、身近な公園が不足する地域は目標を下回るため、「c」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	目標を下回った為。	長野委員	C+	内部評価の判定は概ね妥当と考える。身近な公園が不足する地域の割合解消について、新設公園の立地との関係もあり、一定の努力はされているものと考えた。
河西委員	C-	人口密集地域の公園不足は住宅建設の前からわかっていたことだと思いますが、今現在困難なら公園用の土地確保が難しいと思います。	橋本委員	C	内部判断に準じました。
木島委員	C	身近な公園の不足する地域が未達	廣瀬委員	C+	整備箇所数は目標を上回っているが不足地域率が目標に及んでいないので、「c」の加点とした。整備数の目標設定と率の達成のギャップが生じる理由を検証する必要があるのではないかと。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	新規設置数は計画通り伸びている点(%の変化が小さいのは、住民分布等環境の変化のためと思われる)。
須藤委員	C+	1. 身近な公園が不足する地域は目標未達だが、逐年不足比率が減少している点をプラス評価。	星野委員	C	目標に達していないと判断しました。
高木委員	C+	②身近な公園が不足する地域は目標値を1.3%下回ったが、①身近な公園は7か所整備し、目標値を上回ったため加点評価「c+」とした。公園にソーラー照明を設置しており、環境面も考慮している点が良い。遊ぶ子供たちも身近に学べる「モノ」があるのは良いと思う。	町田委員	C	当初を上回る予定数での整備状況、進捗状況と判断します。行政本来の事業として充実していただきたい分野です。
高島委員	b	おおむね工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	C	内部評価と同様の判断をする。 4年間の達成目標を下方修正しているが、その妥当性も含めて評価が必要と思われる。



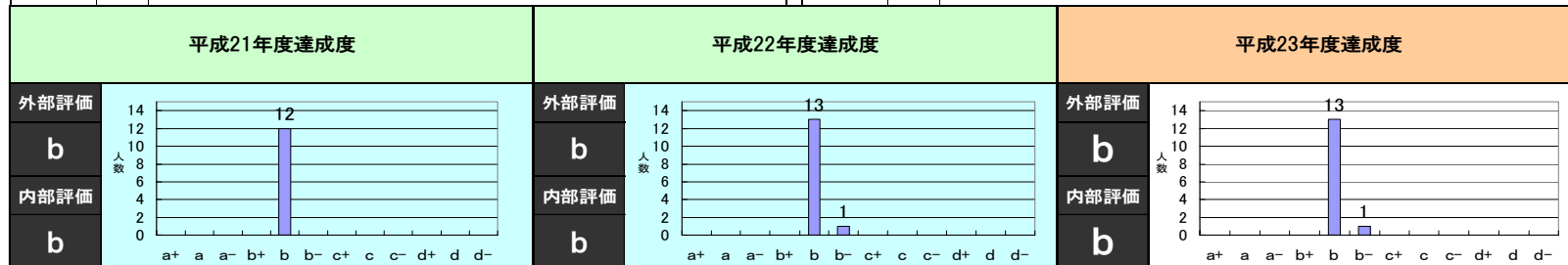
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	51-2	下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。 (暮らしの道路・スマイルロードの整備)	4年以内	・平成24年度末までに、暮らしの道路・スマイルロード整備事業により、生活道路を480件整備します。	①暮らしの道路・スマイルロード120件整備 ②要望受付の公表 ③要望対応状況の公表	①暮らしの道路・スマイルロード127件整備 ②要望受付の公表 ③要望対応状況の公表	b	・数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの進捗と考える。
河西委員	b	道路というのはお金がかかるものだなあと感じます。見積もりや計画が誤らないようお願いします。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	—
栗原委員	b	—	福崎委員	b	順当に事業が実施されている点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。 2. 緊急時のリスク軽減、住環境向上の観点から早急な整備が望まれる。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	当初予定からの進捗状況判断とします。平成21年度の反省を活かして予定を上回る進捗であることを評価します。住みやすいまちづくりを目指して良好な住環境整備を期待します
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。



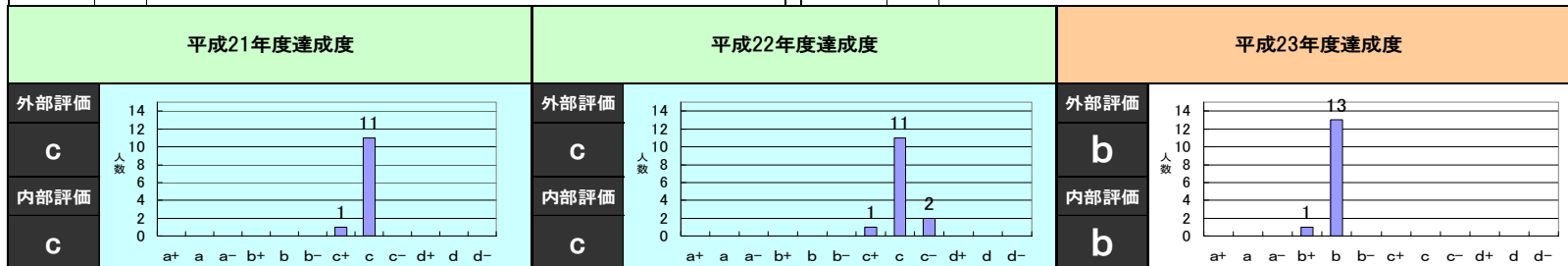
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	51-3	下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。 (下水道の整備)	4年以内	・整備計画を1年前倒しし、平成24年度末までに、下水道普及率を90%にします。	①下水道普及率89.0%に整備	事業計画に沿って下水道整備を行い、下水道普及率89.0%を達成しました。	b	・事業計画どおり進捗し平成23年度の数値目標を達成したため、「b」と評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断。	長野委員	b	工程表通りの成果である。
河西委員	b	道路と同じく下水道もすごい事業費がかかります。でもその分も「ステキな地方都市」の誇りをもって普及に取り組んでください。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	—
栗原委員	b	—	福崎委員	b-	事業費の内訳や、整備の際の工夫など、付加的報告が無い点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。 2. 多大なコストを要する事業であり、コストパフォーマンスに十分配慮して欲しい。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	予定どおりと判断します。行政にお願ひし、充実していただきたい事業です。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。



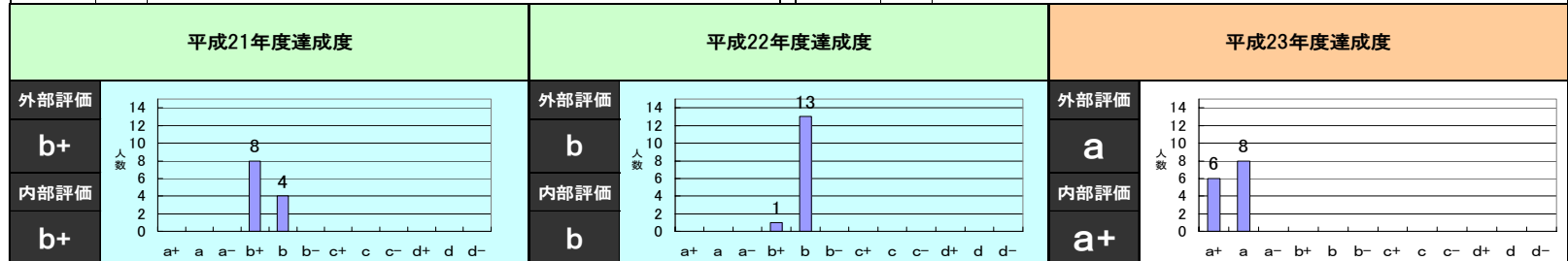
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由
環境・まちづくり	52	効率的な道路ネットワークを構築するため、都市計画道路を抜本的に見直しします。	4年以内	・平成24年度末までに、人口減少、高齢化社会に対応し、低炭素型のコンパクトなまちづくりを実現する効率的な道路ネットワークを構築するため、都市計画道路の抜本的な見直しを行います。	①道路網計画づくりの指針の策定 ②見直し候補路線の抽出	①平成23年11月に道路網計画づくりの指針を策定しました。 ②道路網計画づくりの指針に基づき、ネットワークの再構築を行い、見直し候補路線を抽出しました。	b ・平成23年度の目標である見直し作業のパブリック・コメントを実施した上でネットワークの再構築を行い、見直し候補路線を抽出したことから「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	見直し状況が解らない為。	長野委員	b	工程表通りの進捗と言える。
河西委員	b	効率的な道路網は災害のときなどにもとても重要に関係してきます。国、県、地区を越えて検討して理想的な道路網をお願いします。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	当初の工程表に追いついた。
栗原委員	b	—	福崎委員	b+	既存のイベントを用いたとの周知の工夫が記載されている点。
須藤委員	b	1. 工程表通りの進捗と判断。	星野委員	b	概ね工程表通りの進捗と考えます。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	住民ヒアリングなどの充実が図れていないため、予定よりも遅れていると判断。道路が生活環境に与える影響は大きいです。住民が理解できるような状況を実施すべきです。計画道路は、一度決定されると経済的な効果にも影響を与えます。慎重なる検討をお願いしたいです。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通り事業を実施している。



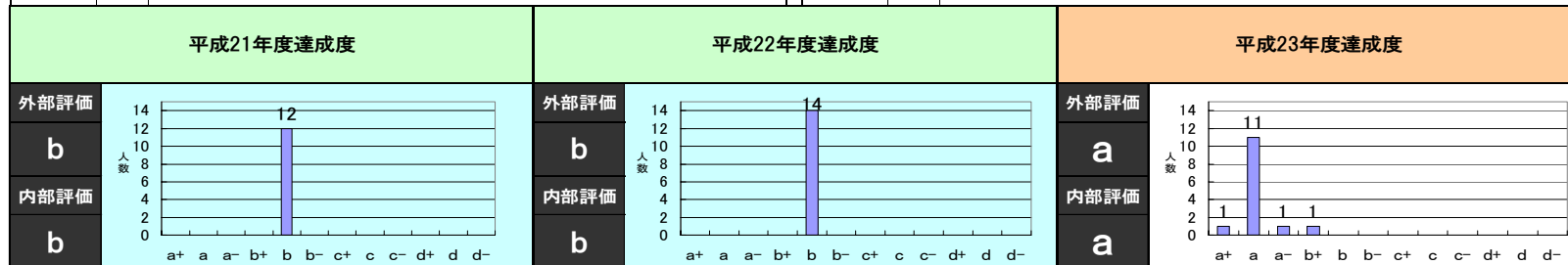
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗率の要素 進捗率 c、d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	53-1	ワーキングプアを増やさない、部局横断的な「自立生活支援対策チーム」を設置します。 (セーフティネットの構築)	すく	・平成22年度から、全10区の福祉事務所に自立生活支援相談窓口を設置し、自立生活支援員を中心としたハローワークなどの関係支援機関などからなるチームを結成し、自立生活のための総合的支援に取り組みます。 ・平成24年度末までに、就労可能な生活保護受給者を対象とした支援により、就労した人数を平成20年度の108人から倍増の216人にします。	・支援による就労人数270人	・☆支援による就労人数354人 ・△ジョブスポットの設置	a+	・平成23年度を取組状況、工程表のとおり進捗し、実績が数値目標を大きく上回ったので「a」と判断し、就労支援体制の強化を図ったことから加点評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	目標を上回った事による	長野委員	a	目標を上回る就労実績をあげている。 ※平成23年度目標設定時と、ジョブスポット設置にむけた協定書締結を行うことを市の方針として決めた時期について、確認させてください。
河西委員	a	就労者数の飛躍的な伸びは取り組みのすばらしさの表れと思いますが、それを上回る社会情勢の厳しさ。紹介の件数が多くても就職までつながる数が乏しいのが残念です。適正の判断は重要と思います。就職希望者におもねるわけではなく、そういった人が入り口で躓かないようにすることも大切です。機会や経済的支援を増やすことも大切ですが。	橋本委員	a	内部評価に準じました。継続的な取り組みと今後も期待します。
木島委員	a+	達成率131%(実績355人/目標270人)を評価。かつジョブスポットの設置、およびキャリアカウンセラーを全10福祉事務所に配置する準備を整えた点を評価し加点。	廣瀬委員	a	目標以上の数字が出ていることは評価できるが、ニーズも爆発している状況下にあるので、加点というよりも実施が必要に追いついていないという認識をして欲しい。
栗原委員	a+	—	福崎委員	a	社会保護の事業のため、今後の事業拡大が懸念される点。 「雇用・失業情勢」改善のためのプラン54の一連の事業との連携をもってほしい。個票に書かれた課題には、当該事業だけでは当然に対応できない。
須藤委員	a	数値目標が大幅超過達成となったこと、各種の相談機能の充実が図られていることを評価する。	星野委員	a+	目標を上回る進捗状況と評価します。また、ジョブスポット開設は加点要素です。
高木委員	a+	支援による就労人数が目標を大幅に上回り、さらにジョブスポットの設置を行なったため。	町田委員	a	予定どおりの進捗と判断します。 就労に関する問題は、働き手の意欲やなんらかの心の問題を抱えている場合があります。業務幹旋に加えてカウンセリングの充実や雇用側の理解と協力体制を求めているいただきたい。
高島委員	a+	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a+	生活保護世帯、生活保護人員ともに増加しているが、支援者数と就労・増収した人員も大幅に伸びている(比率もアップ)。 厳しい社会状況のなか、積極的に施策を進めていると評価する。



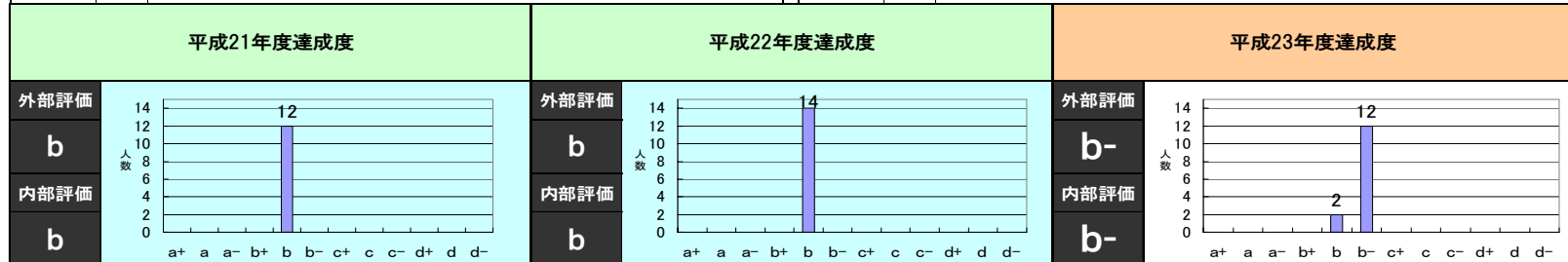
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	53-2	ワーキングプアを増やさない、部局横断的な「自立生活支援対策チーム」を設置します。 (ステップアップの取組)	すく	・平成21年度から、若年者向け就職支援セミナーを年2回から4回に増やします。 ・平成21年度から、新たにキャリア・コンサルティングを週2日実施します。 ・平成22年度から、新たに市内企業での就業体験事業を4社8人を対象に実施します。 ・平成21年度中に、母子家庭の母親の就業支援を拡充します。	①若年者向け就職支援セミナーを年8回実施 ②若年者向け就業体験事業を市内企業(原則)10社で実施 ③若年者向け合同面接会を実施し、実施後に事業効果を検証	①☆若年者向け就職支援セミナーを年9回実施 ②☆若年者向け就業体験事業を市内企業を中心に19社32人で実施 ③☆若年者向け合同面接会を実施。延べ315人が面接し、20人が採用	a	・平成23年度の数値目標を上回って実施したことから、「a」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	就業目標を設定した事に対して。	長野委員	a	就労体験への協力企業は目標を上回り、合同面接会も一定の成果をあげている。
河西委員	a	技能や資格の取得のための支援が効果を上げている。引き続き支援の継続をお願いします。	橋本委員	a	内部評価に準じました。
木島委員	a	セミナーや就業体験実施がプラン目標を上回っていることを評価。	廣瀬委員	a	目標値以上の実績が出ている。
栗原委員	a	—	福崎委員	b+	キャリアコンサルティング利用者など、各事業の参加者数の目標値が示されていない点。評価に加えられない。
須藤委員	a	事業の各項目につき、目標を超過達成した点を評価する。	星野委員	a	目標を上回って実施したことから「a」としました。
高木委員	a	目標を上回って達成したため。	町田委員	a-	若者向け就職支援セミナー、就業体験事業など、予定開催数を上回ったことを評価。子どもたちが思春期に経験することが将来の就労や生き方に大きく関わります。直接的な問題も大切ですがその背景にある根本的な問題からの解決にとりこんでいただきたい。
高島委員	a+	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a	内部評価と同様の評価とする。



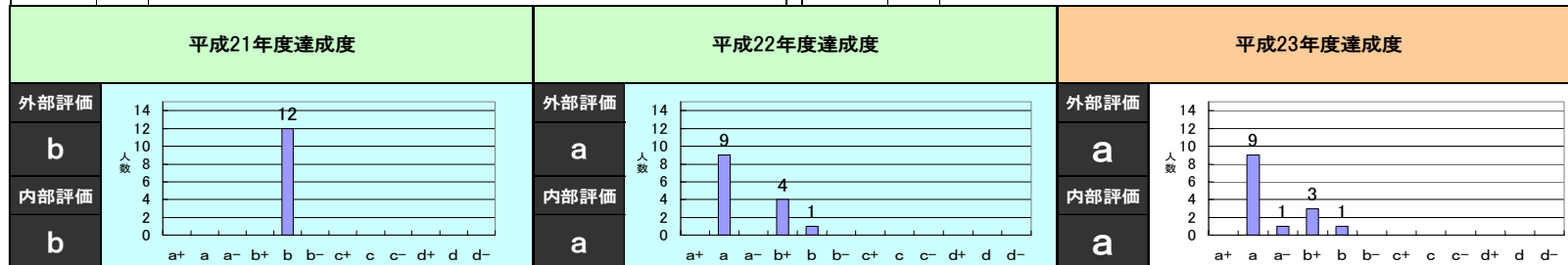
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-1	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。 (ものづくり企業支援事業)	4年以内	・平成23年度中に、市内のものづくり企業の活性化と経営の安定化を図るため、事業者のニーズに対応した新たな支援制度を確立します。	①ものづくり企業データブックを大規模展示会で配布 ②産業創造財団で「販路開拓支援事業補助金」を実施 ③企業間連携を促進するための勉強会や先進地域との交流会を実施	①インターネットコンジャン（総来場者84千人の見本市：1月）で配布（約400部） ②補助実績3件 ③講演会1回・研究交流会2回開催 ▼先進地域との交流を実現できず。	b-	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しましたが、企業間連携の促進にあたっては、他の先進地域との交流を実現できなかったため減点評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b-	先進地域との交流できなかった事により。	長野委員	b-	内部評価は妥当と考える。
河西委員	b	支えあいの精神が浸透するまで情報提供や働きかけを。民間の経営利益にかかわるのでwinwin組み合わせもあるはずなので。	橋本委員	b-	データブック等の配布や補助等積極的な取り組みと評価しました。厳しい環境下で施策としての成果を評価すべき。
木島委員	b	活動結果は目標通りで評価するが、今後は活動の結果どのような成果を得るか、ということを目指して欲しい。	廣瀬委員	b-	内部評価と同じ
栗原委員	b-	8万4千人の来場者に対して配布400部、という数字が評価出来るのが疑問です。	福崎委員	b-	企業間、地域間交流の推進に、今後も期待。
須藤委員	b-	先進地域との交流未実現をマイナス評価	星野委員	b-	概ね目標通りの進捗ですが、先進地域との交流が出来なかった為、減点要素があります。
高木委員	b-	先進地域との交流を実現できなかったため。	町田委員	b-	ものづくり企業データブックの配布などや支援補助をするにも目標値がしめされていないため評価に迷う。やった、検討した。配布しただけではマイナス評価。どの程度雇用向上したのかも不明。産業雇用の拡大にはこのプロジェクトは重要なので検討をお願いしたい。
高島委員	b-	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	b-	内部評価と同様の評価とする。



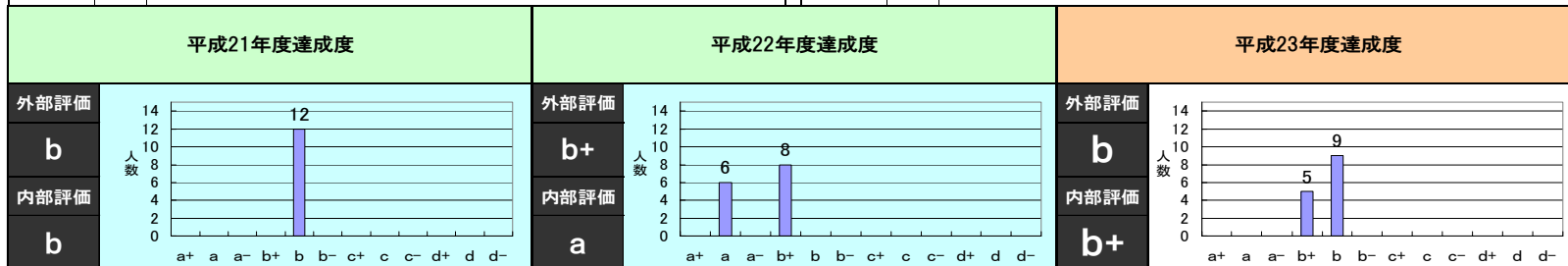
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-2	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 (テクニカルブランド企業認証事業)	4年以内	・平成24年度末までに、さいたま市テクニカルブランド企業の認証数を平成20年度の13社から22社増やし、35社とします。	①企業認証数 5社 ②企業支援数 35社	①△企業認証数 12社 ②△企業支援数 42社	a	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等を上回り進捗したので、「a」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	目標を上回った事による。(尚状況は判断出来ない)	長野委員	b+	目標数を上回る認証・支援数である。 ◆各企業に対する支援内容と、それが具体的にどのように競争力強化に結びついているのか、示されることが望ましい。
河西委員	a	認証した企業がさいたま市の税収を押し上げるようにさらに成長してほしいです。	橋本委員	b+	積極的な取り組みと評価しました。テクニカルブランド等施策としての成果を評価すべき。
木島委員	a	企業認証数の達成率240%(実績12/目標5)を評価	廣瀬委員	b+	行政のアウトプットとしては目標以上の実績と言えるが、アウトカムの検証がまだ見えてこないなので、現段階では「b」の加点とした。
栗原委員	a	—	福崎委員	a-	この事業による、雇用情勢への直接・間接的な効果が図れる仕組みも検討されたい。
須藤委員	a	数値目標の大幅超過達成を評価する	星野委員	a	目標を上回る進捗状況と評価します。
高木委員	a	企業認証数と企業支援数が目標を上回って達成したため。	町田委員	b	企業認定数を増やすことが、目標となるのかは疑問。一定の基準があってその達成努力は企業側にある。数を増やすだけでは認証ハードルを下げるのみで足りる。支援を自治体ができることはある程度は必要だが限界もある。一方で、テクニカルブランドの認定を受けた企業が、業界のリーダーとして技術開発・経営強化・人材育成などの「競争力向上支援」を実施してもらうことで小さな企業の技術支援につなげることを目的とすることは、活性化のためにもいいことだと思う。行政支援とのバランスが重要。慎重をお願いしたい。
高島委員	a	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a	工程を大幅に上回った。 ただし、認証の乱発とならないよう、認証後のフォロー（支援の充実）を求む。



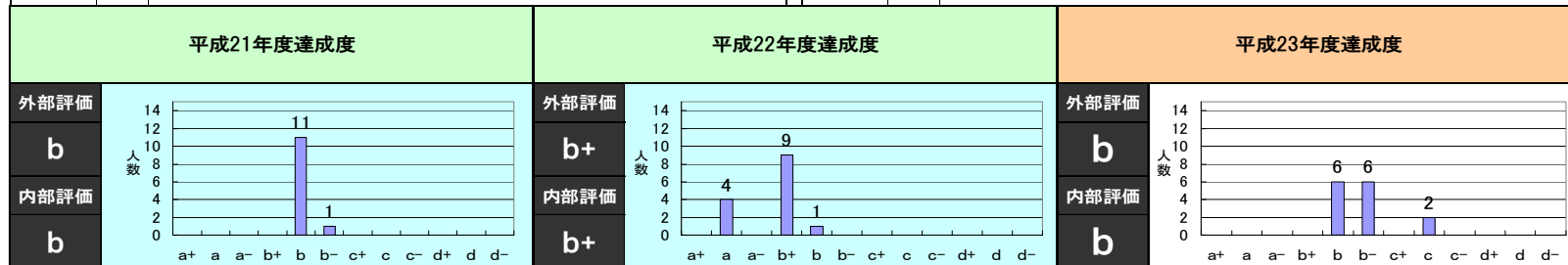
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-3	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 (戦略的企業誘致)	4年以内	・平成24年度末までに、雇用機会の創出を図るため積極的な企業誘致活動を展開し、平成20年度の立地件数16社から40社増やし、56社とします。 ・平成21年度中に、産業集積拠点の基礎調査を実施した後、将来にわたる雇用機会の創出に向けた戦略的な企業誘致施策を検討します。	①企業立地10件 ②新たな産業集積拠点の創出に向けた継続的検討 ③(仮称)メディカル・リサーチパーク構想の策定	①△企業立地実績11件(外資系企業1社含む) ②リスク・コスト軽減に向けた官民連携スキーム構築の実現可能性を確認 ③さいたま医療ものづくり都市構想の策定	b+	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断し、企業立地実績などが工程を上回って進捗したことから加点点評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断	長野委員	b+	目標を上回る企業立地件数を実現。 ※官民連携スキーム構築におけるヒアリング対象事業者の内容は把握できず。
河西委員	b+	医療ものづくり都市すばらしいです。	橋本委員	b+	内部評価に準じました。
木島委員	b	企業立地達成+1は評価できるが大幅に目標を上回ったとはいえず、昨年度のような成果(医療機器産業への参入支援拠点創出)はみられないため目標通りの進捗と考える	廣瀬委員	b	概ね目標通りの成果。
栗原委員	b	-	福崎委員	b	-
須藤委員	b	1. 概ね工程表どおりの進捗と判断する。 2. コストパフォーマンスに留意した企業誘致活動が肝要。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b+	企業立地実績が目標を上回ったため加点点評価した。また、さいたま医療ものづくり都市構想は将来の雇用機会の創出に貢献するだけでなく、今後さいたま市の強みになり、さいたま市を印象づける良い機会になると思う。	町田委員	b	企業誘致10件を上回ったことの評価。 継続的にその地で活動できる企業の誘致の選定などに課題はあるが、財政状況への解決や活気ある街づくりへ向けて質の高い企業の誘致を希望します。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b+	内部評価と同様の評価とする。



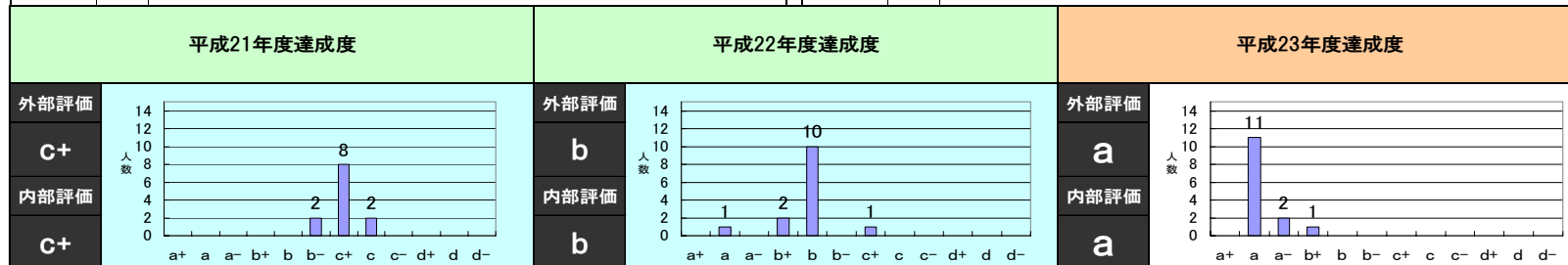
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-4	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 (産学連携によるイノベーション創出)	4年以内	・平成23年度末までに、産学連携によるイノベーション(技術革新)の継続的創出が図られる仕組みを構築します。	①研究開発人材高度化タスクフォース事業3件 ②目利きサポートの実施 ③企業間の技術マッチング支援40件	①△研究開発人材高度化タスクフォース事業4件 ②目利きサポートの実施 ③▼企業間の技術マッチング支援31件	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	高度な人材開発等であり、内容の判断が難しい。(具体的内容)	長野委員	b	概ね工程表通りと判断しますが、以下の点を確認させてください。 1)国の競争的資金獲得は5件中1件でした。これは、「業界」的には高い水準といえるのでしょうか。標準的なのでしょうか。 2)個票にある産学連携マッチング31件と企業間技術マッチング31件とは本質的に別物と解釈できます。同一のものなのでしょうか。
河西委員	b	技術マッチング支援が目標どおり進むことを期待します。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	c	企業間の技術マッチング支援が未達(実績31/目標40=77.5%)。なお、人材高度化タスクフォース事業は前年に5件達成している案件であり、実績4件(目標3+1)で目標を上回ったとはみれない。	廣瀬委員	b-	マッチング支援が目標を下回っているため、減点。
栗原委員	b-	—	福崎委員	b-	社会・経済状況の影響はあるが、目標に対してマッチング支援が伸びなかった点。
須藤委員	b	概ね工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	c	企業間マッチング支援が目標を下回った為「c」と評価します。
高木委員	b-	研究開発人材高度化タスクフォース事業が一件目標を上回ったが、企業間の技術マッチング支援が9件目標を下回ったため減点評価した。	町田委員	b-	企業間との人材交流を実施した件数については予定どおりと評価します。技術マッチング数の目標数をみだしていないのでマイナスとします。 企業間のマッチング支援は、これからの会社経営のあり方として発展していくことが期待されます。先駆的な取り組みとして今後の発展に期待します。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b-	概ね工程通りだが、企業間の技術マッチング支援は目標40件を9件下回ったので減点要素とする。



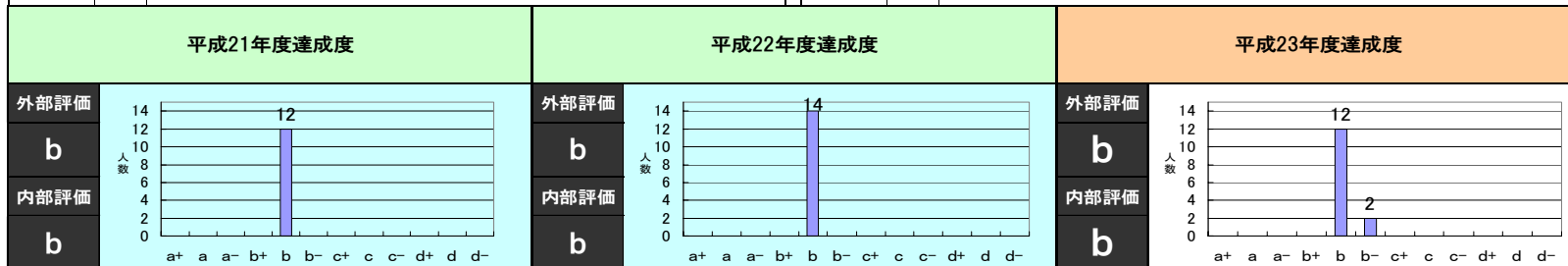
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-5	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 (新規就農者支援事業)	4年以内	・平成23年度末までに、新規就農者が参入しやすい農業環境を整備するための実施方針を策定します。 ・平成24年度中に、新規就農者数を20人にします。	①就農相談会1回実施 ②新規就農者数10名 ③就農、雇用促進方針の策定 ④ファーマーズマーケット開催	①就農相談会2回実施 ②☆新規就農者数18名 ③就農、雇用方針の策定 ④新たな農産物直売の実施	a	・平成23年度の取組状況、工程表のとおり進捗し、実績が数値目標を上回ったので「a」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	工程表の通りと判断	長野委員	a	目標を上回る新規就農者を得た。
河西委員	a	さらに岩槻区など兼業農家が廃業しないように農業経営に魅力を感じるような働きかけも必要です。	橋本委員	b+	内部評価に準じました。よりスピーディーな農業環境整備への取り組みを実現してほしい。
木島委員	a-	新規就農者達成率180%(実績18/目標10)を評価。プラン目標が20人であるため、H23年度はこの目標設定でも評価するが、本来は前年度の達成人数(19人)を踏まえて目標を前倒して達成してもらいたい案件と考え、マイナス評価	廣瀬委員	a	新規就農者数が目標を大幅に上回っている。
栗原委員	a	新規就農と合わせ、統廃合や組織的な運営等のサポートも必要なのでは？	福崎委員	a	課題の報告が簡潔で的確な点。
須藤委員	a	1. 数値目標の大幅超過達成を評価する 2. ファーマーズマーケットは単発ではなく、継続して開催すべし。また農業団体等関係者との連携も不可欠。	星野委員	a	目標を上回る進捗状況と評価します。
高木委員	a	新規就農者数が目標を大幅に上回ったため。	町田委員	a-	予定数を上回っていると評価。 食と農に興味を持ち支援してもらおう一般市民の総数を増加してもらいたいと願う。環境の点からも農の重要性を問う視点での施策としてもらいたい。
高島委員	a	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a	新規就農者数が大きく目標を上回った。ただし、東日本大震災の被災地からの避難・就農者がいるのではないかと？



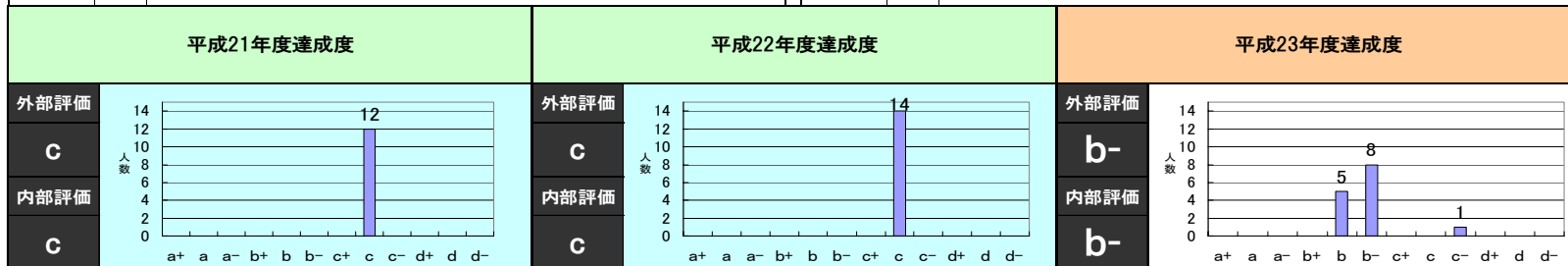
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-6	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 (事業所内保育施設推進)	4年以内	・平成23年度末までに、複数の企業等の集合体による事業所内保育施設への新たな支援制度を構築します。	①施設整備補助(国、県の補助を含む)の活用による、新規開設1施設 ②新たな支援制度の構築に向け、積極的な広報活動	①1施設開設 ②さいたま商工会議所会員へのPR	b	施設整備補助を活用し1施設開設され、目標は達している。また、事業者の現況、ニーズを聴取し支援体制構築に向けた活動、施設整備費等のPRを行ったことから、「b」とした。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b	事業所内保育施設は明らかにニーズがあるので引き続き推進PRして事業者の相談にも応じて開設につなげてください。	橋本委員	b-	より迅速かつ調整で事業を推進してほしいと思います。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	概ね目標値通りの実績。
栗原委員	b	—	福崎委員	b-	新たな支援制度の確立より、現状維持の方が良いとした理由の報告がない点。
須藤委員	b	概ね工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	1箇所の開設数は予定どおりだが、数としては少ない。今後の増加に期待する。企業内保育所の充実、小さな子どもを持つ親にとっての雇用創出になる。市内では一般的となるよう積極的に実施することで、さいたま市のイメージアップにもつながると思う。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。



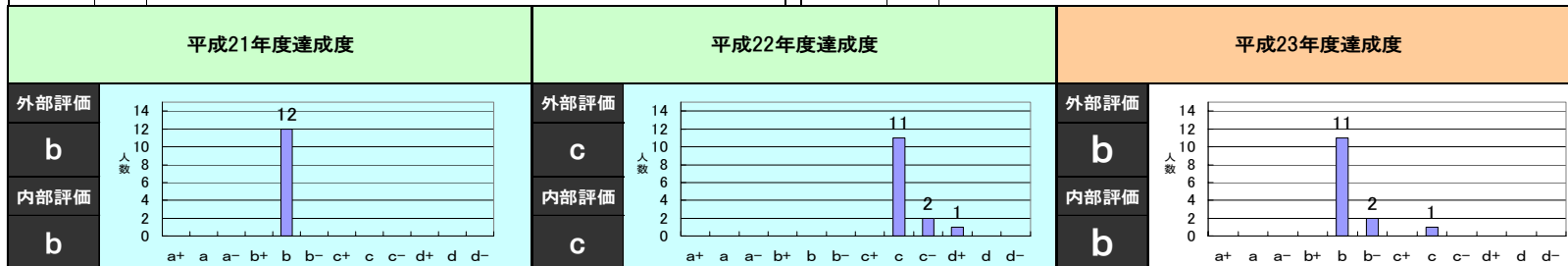
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-7	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。 (介護福祉士資格取得支援)	4年以内	・市内の介護保険施設等に勤務している人材の育成・定着を支援するため、介護福祉士の資格取得を支援します。 ・平成21年度は、資格取得対策講座を実施し、受講者を筆記試験対策講座200人、実技試験対策介護技術講習80人とします。 ・平成22、23年度は、実技試験免除の講座を実施し、受講者を160人とします。	・受講者160人	・▼受講者151人はほぼ目標に達しているが、市内の介護保険施設等勤務者数把握等に課題がある	b-	交付決定者は、160人となり目標を達成したが、交付決定辞退者が出るなど助成金交付手続きに問題があったため減点評価とした。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	業務内容から判断すると目標通りとする	長野委員	b-	内部評価の内容は妥当と考える。
河西委員	b	まだまだ人材が不足している分野なのでもっと介護士育成の人数は増やしてもいいのではないのでしょうか。	橋本委員	b-	内部評価に準じました。
木島委員	c-	人数としては僅かだが、二年連続の未達のため評価。かつ、昨年度も辞退者のために未達だった案件で、評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。	廣瀬委員	b-	実施手続に改善の余地がある。
栗原委員	b-	—	福崎委員	b	目標未達の要因を把握されている点。
須藤委員	b-	数値目標に未達があること、並びに交付決定辞退者が3割弱に達する点をマイナス評価。	星野委員	b-	概ね目標通りの進捗と判断しますが、助成金手続きに問題があった為、減点評価とします。
高木委員	b-	交付決定辞退者の把握を早期に出来ず、助成金交付手続きに問題があったため。	町田委員	b	ほぼ予定どおりの目標数値達成と評価。交付金辞退はマイナスにあたらぬとする。体験して自分に適性がないと判断したからではないのか。高齢化社会の到来により介護福祉士はさらなるニーズが必要となる。各施設に必要な数が配置されることに期待する。
高島委員	b	おおむね工程表どおりに進捗していると判断した。交付辞退者が多数いるがどんな理由であるのか？	三浦委員	b-	交付決定後に辞退者が出るたびに追加決定をしているのは改善の必要を感じる。また、最終的には受講後に市内施設への就労につながる必要があり、数値目標の立て方にも工夫が求められる。



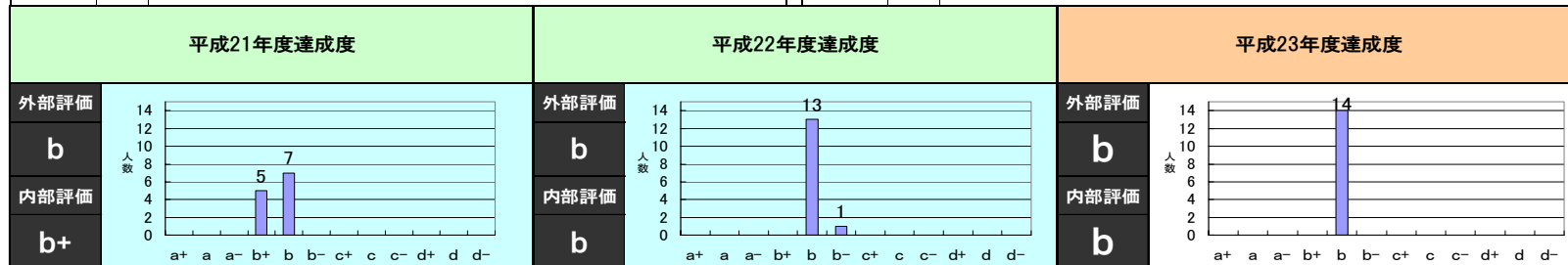
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-8	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 (ホームヘルパー2級資格取得支援)	4年以内	・平成24年度末までに、介護職の入口とも言うえるホームヘルパー2級の有資格者を新たに600人確保します。	①利用者200人 ②事業所への周知	①利用者194人 ②事業所への周知	b	補助制度の周知については概ね予定どおり進捗し、補助制度利用者が194人に達した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	業務内容から判断すると目標通りとする	長野委員	b	概ね工程表通りである。
河西委員	b	助成金が不足になっても、それでも補助制度に力を入れてください。求人が多いことは変わらないのですから。資格を持って従事するほうが離職の低下になると思います。	橋本委員	b	概ね事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b-	実ニーズがどの程度なのか把握されているか。類型600人には到達しないのではないか。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	次年度の利用者増に期待。周知の効果が現れてくると思われる。
須藤委員	b	1. 概ね工程表どおりと判断する。 2. 制度周知の方法に工夫が必要。	星野委員	b-	概ね目標通りの進捗と評価しますが、若干目標値を下回った原因を明確化していない為、減点評価とします。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	c	目標数値の全体からは予定通りとはいえないと判断。 制度の周知と共に、身近なところにヘルパーさんがいることは安心感につながる。
高島委員	b	おおむね工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	内部評価と同様の評価とする。



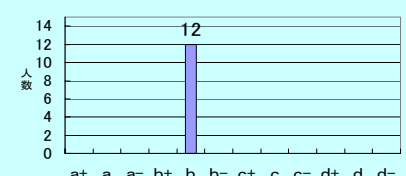
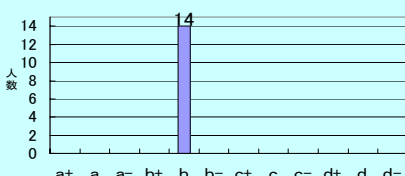
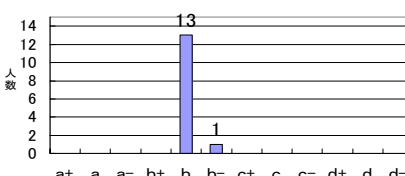
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-9	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 (福祉介護人材の養成確保)	4年以内	・平成24年度末までに、地域福祉情報・研修センターにおいて、サービス従事者の資質向上、交流や就業促進を目的とした研修を17講座実施します。 ・サービス従事者の確保・定着を目指し、国に対して介護報酬の引上げを毎年要望します。	①研修(8講座)の実施 ②福祉情報の発信 ③介護報酬の引上げに関する国への要望活動	①研修(8講座)の実施 ②福祉情報の発信 ③介護報酬の引上げに関する国への要望活動(5回)	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと思うが、現場の社会福祉協議会から見た意見も聴いて判断すべきと思う。	長野委員	b	工程表通りの取り組みである。
河西委員	b	求人増のお仕事ですから人材育成のスピードアップをお願いします。介護報酬引き上げもお願いします。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗
栗原委員	b	—	福崎委員	b	課題に書かれた相反効果について、もっともだと思う。市としてはどのように取り組む姿勢なのか、示してほしい(事前質問済み)。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	情報発信では、どのようなことを実施したかが大切です。福祉介護人材の養成を行政が行うことで人々への直接的な周知になります。人材確保を早期に行うことで効果的な啓発活動に繋げていただきたい。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。



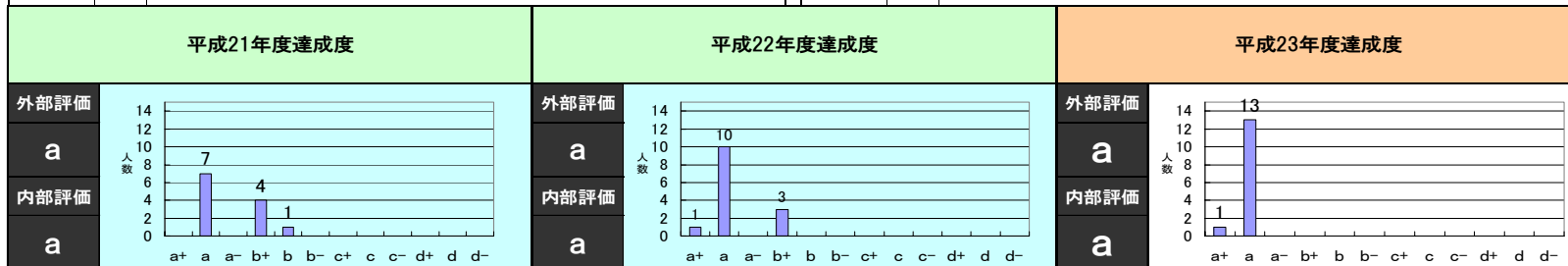
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度達成度（内部評価）		
						達成度	評価理由	
経済・雇用	54-10	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。 (ものづくり人材支援事業)	4年以内	・平成23年度中に、ものづくり人材育成の充実を図るため、市内企業や試験研究機関などと連携し、優秀な産業人材を市内企業へと輩出する新たな仕組みを構築します。	①市内工業高校生を対象とした「技術人材の高度化支援事業」を実施 ②市内工業高校生を対象にしたインターンシップ、デュアルシステムを実施 ③若年者向け就業体験事業の実施	①家庭用ソーラーパネル設置研修を実施(2校20人) ②企業現場見学会・インターンシップ(2校200人)、デュアルシステム(1校2人)を実施 ③新卒未就職者等人材育成事業の実施(16社25人)	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b	引き続き若い技術者が育つように支援してください。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	—
栗原委員	b	—	福崎委員	b	今後、事業の継続にあたり、今期の結果をふまえて、数値目標を設定されたい。
須藤委員	b	1. 概ね工程表どおりの進捗と判断する。 2. 23年度、51,146千円の事業費を計上しており、もう少し多様な事業が可能なのではないか。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b-	各施策の実施を目標にしているためやったかやらなかったかという指標では予定どおりの実施と判断。具体的な数値が示されていないためマイナス評価。 優秀な人材を市内企業に就労させるためにも、若人を対象にした技術研修は、将来を考えるきっかけとなる。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	内部評価と同様の評価とする。

平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度	
外部評価		外部評価		外部評価	
b		b		b	
内部評価		内部評価		内部評価	
b		b		b	

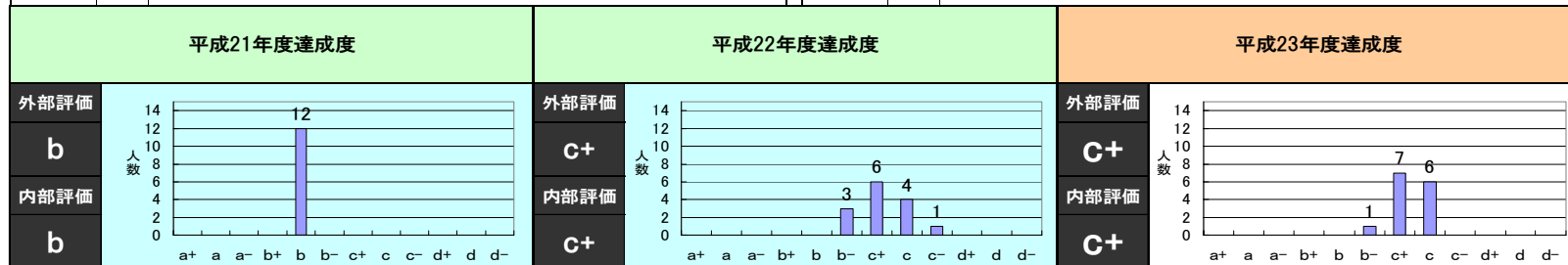
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-11	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。 (マッチング事業)	4年以内	・平成24年度末までに、キャリアサポート事業、雇用マッチング促進事業などを新たに実施することにより、市が実施する就職支援事業による支援者数を平成20年度の63人から337人増やし、400人にします。	・就職支援事業による就職支援者数2,000人	・☆就職支援事業による就職支援者数3,678人	a	・平成23年度の取組状況、工程表のとおり進捗し、実績が数値目標を大きく上回ったので「a」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	予定通りと判断 (就職支援をした事のみ)	長野委員	a	目標を上回る対象者に就職支援を実施。また、昨年を上回る新規就労実績も報告されている。
河西委員	a	引き続き計画に従ってに進めてください。大切な貴重なマンパワーです。育成、支援、成長を期待します。	橋本委員	a	内部評価に準じました。より効果的な事業展開を期待します。
木島委員	a+	新規就労者者達成率184%(実績3,678人/目標2,000人)を評価。かつプラン目標(400人)を大幅に上回っていることは取り組みの成果と考えて加点。	廣瀬委員	a	支援実績が目標以上に上がっているが、雇用マッチング促進事業の就職者数が22年度よりも減っていることは懸念材料である。
栗原委員	a	—	福崎委員	a	利用者増に対して、支援体制拡充は評価できる。
須藤委員	a	市独自で多様な取組を行っており、目標を大幅に上回る数値実績となっている点を評価する。	星野委員	a	目標を上回る進捗状況と評価します。
高木委員	a	就職支援事業による就職支援者数が目標を大きく上回ったため。	町田委員	a	支援者数の増加が目標数値の1.5倍であることよりプラス評価。 若人から子育て世代、そして中高年までの再就職支援セミナーなどの充実を期待する。 キャリアアップのための支援、スキルアップ講座等の実施などへの応援事業は充実させるべき。
高島委員	a	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a	目標を上回った。



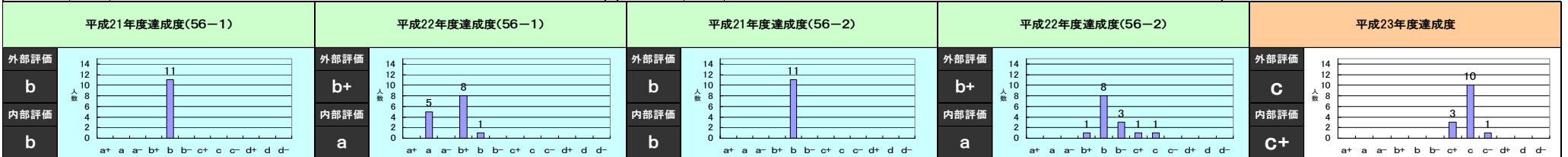
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	55	市内の観光資源を有効活用し、海外も含め、観光客を積極的に誘致します。	4年以内	・平成24年度末までに、平成19年度の年間入込観光客数の増加4.1万人を8.2万人に倍増し、総計2,477万人とします。 ・平成23年度中に、新たな観光客を獲得するため、スポーツコミッションを創設します。	①入込観光客数2,395万人 ②スポーツコミッション3月創設 ③観光振興懇話会4回開催・提言書受理 ④回遊性向上のための観光サイン整備 (案内看板3基、誘導サイン2基)	①★入込観光客数(見込み)2,131万人 ②△スポーツコミッションの10月創設・活動開始 ③さいたま市観光振興懇話会4回開催・提言書の受理 ④△観光ルート看板整備(案内看板4基、誘導サイン4基)	C+	・平成23年度の実績が数値目標を大きく下回ったので「c」と判断し、スポーツコミッションが目標より半年前倒して活動を開始したこと、目標を上回る観光サインを整備したことから加点評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	観光客が少なかった事による	長野委員	C+	仮評価で「C+」とします。 ※平成23年度より年間入込観光客数の算定方法が変更と報告されています。目標設定時の算定方法と実績における算定方法は同一のものか、確認させてください。
河西委員	C	目標未達成の見込みなら、観光プランを根底から見直し作り変える必要もあるのではないのでしょうか。ここはさいたま市です。ビッグゲームもアーティストをお招きすることももちろん大切ですが毎日毎日サッカー、コンサートってわけにも行かないです。コンスタントに人が訪れる観光スポットやレジャーイベント、たとえば、とーふラーメンを食べにいく家族、帰りに寄りたくなる人形会館とか。	橋本委員	C+	内部評価に準じました。
木島委員	C+	目標観光客数が未達。ただし、スポーツコミッションへの取り組み、成果は観光客増への期待が持てるもので、加点評価とする。H24年度は観光客数を大きく増加させて欲しい。	廣瀬委員	C	目標値を下回る実績だが、震災の影響などをどう評価に反映するか難しい論点である。とりあえず、状況は評価に反映せず、数字のみにて評価すると。
栗原委員	C+	—	福崎委員	C	観光PR策が、もっと増やせるのではないかと思われる点。 今期の結果から、目標を下方修正されている。来期の達成(観光客数の増加)に期待。
須藤委員	C	1. 市の観光資源を再点検し、それらを有機的に関連させた取組を図るべき。 2. スポーツに偏るのではなく、文化・芸術、グルメ等、中高年にもスポットを当てる工夫が必要。	星野委員	C	目標を下回る評価とします。
高木委員	C+	入込観光客数が目標を下回ったため「c」と判断し、スポーツコミッションの10月創設・活動開始と観光ルート看板整備が目標を上回ったため加点評価した。	町田委員	b-	目標とした計画には達していない。 さいたま市を観光都市として位置づけるのが現実的な施策なのかは大いに疑問。見沼地区やスポーツ施設など、誇れる地域はあり、行政施策やまちづくりのモデル地区としてPRすることは、有効。それが観光資源になるかはイメージが正直持てない。
高島委員	C+	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	C+	内部評価と同様の評価とする。



宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c、d の要素 取組に何らかの工夫等あり と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	56	起業家応援のための「ベンチャービジネス倍増プロジェクト」を実施します。	4年以内	・平成24年度末までに、創業ベンチャーサポート塾の開設などにより、創業件数を118件増やし、累積創業件数92件を210件にします。 ・平成23年度から、創業者を発掘する創業応援事業を開始します。	①創業件数50件 ②ニュービジネス大賞応募件数50件 ③創業ベンチャーサポート塾の継続実施 ④インキュベーション事業の拡充	①★創業件数25件 ②△ニュービジネス大賞応募件数58件 ③創業ベンチャーサポート塾の継続実施 ④インキュベーション事業の拡充	C+	・平成23年度の実績が数値目標を大きく下回ったので「c」と判断し、ニュービジネス大賞の応募件数は目標を上回ったので加点評価しました。

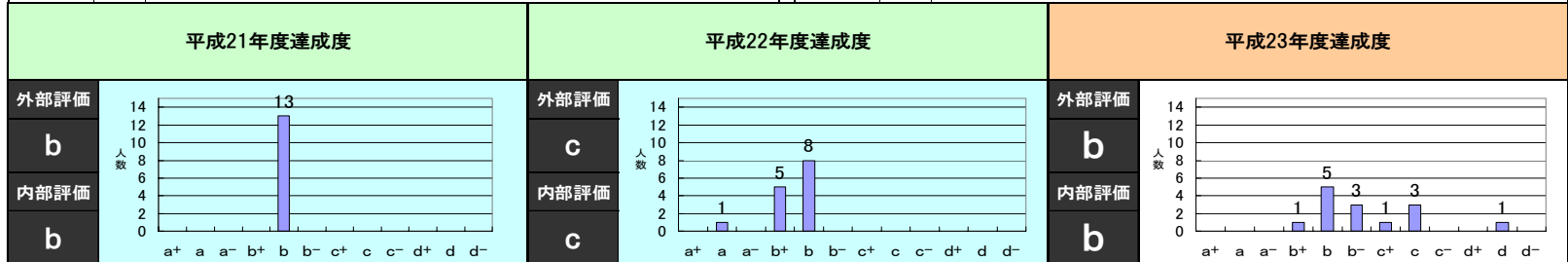
委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	時代的に難しい為	長野委員	C	支援から創業に結び付いた件数は目標に届かず。
河西委員	C	ニュービジネスの継続、また創業者へは成長のサポートも並行して取り組んでください。	橋本委員	C	内部評価に準じました。効率的な取り組み等目標達成に向けた注視すべき取り組みが判断できなかったため、加点はなし。
木島委員	C	創業件数が未達（実績25/目標50）。インキュベーション事業、創業ベンチャーサポート塾について、実施するだけでなく、拡げることが目標にして欲しい	廣瀬委員	C	創業件数が目標値を大幅に下回っている。
栗原委員	C+	—	福崎委員	C	創業件数に対して、支援事業利用者数の報告がない点。
須藤委員	C+	金融機関、ファンド等、創業に関係する民間企業・団体とのパイプ役となる機能も検討に値する。	星野委員	C	目標を下回る評価とします。
高木委員	C+	創業件数が目標値を大幅に下回ったため。PR強化により、ニュービジネス大賞応募件数が目標を上回ったため加点評価した。	町田委員	C	創業件数が目標50%であることの評価。 創業当初はさまざまなアフターフォローが大切でもありこの点についてのサポートが重要。夢と希望のもてる社会を目的として、起業人への育成にとりくんでもらいたい。少しでも多くの人々が希望をもち創業するような人事が育つことを期待します。
高島委員	C	①が大幅に目標未達だが、他の項目は目標どおり。全体としては実現に向けて実施していると判断しCとした。	三浦委員	C-	創業件数が目標の半分に留まっている。創業ベンチャーサポート塾やインキュベーション事業の拡充など、事業が想定している手は打たれているようだが、目標数を下回っていることに対する取り組みや工夫は見られない。創業アドバイザーの相談件数、派遣回数、セミナー開催数のいずれも、平成23年度を下回っていることを減点要素とする。



ヒアリング対象

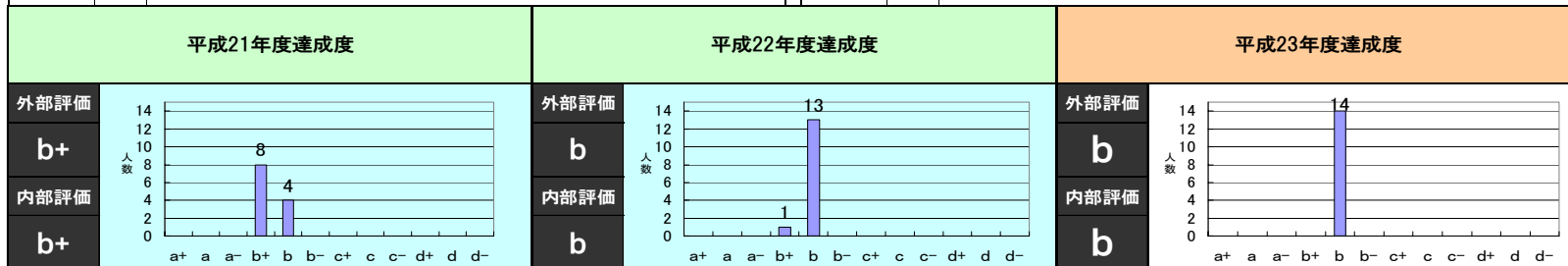
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	57-1	コミュニティビジネスの支援制度を充実します。 (コミュニティビジネス育成事業)	4年以内	・平成23年度末までに、コミュニティビジネスを育成するため、新たな支援制度を構築します。	(H23年度当初目標) ①H23末までに「地域つながり力再生支援ビジネス創出モデル事業」開始 (事業見直し後の目標) ②CB個別相談会2回開催 ③CBトークカフェ3回開催 ④CBニュースレター発行 ※CB:コミュニティビジネス	①実施せず事業見直し ②CB個別相談会2回開催 ③CBトークカフェ3回開催 ④CBニュースレター1回発行(3月)	b	・平成23年度の数値目標、工程表等を年度途中で見直し、その後設定した数値目標、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	工程表通りと判断。	長野委員	d	年度当初に設定された年次目標に基づき進捗評価を行うという原則からすれば、実施が断念されたため「d」と判断せざるを得ない。
河西委員	b-	目標は未達成ながら、今後の検討の点で建設的な見直しのため。	橋本委員	c	行政が取り組むCB支援は、様々な制度の調整力が求められる。そのような課題に取り組む姿勢が変更されたのは残念。
木島委員	b	〈プラン目標を途中で変更〉 目標通りの進捗	廣瀬委員	b-	個別相談会、トークカフェなどの実施が「支援制度の構築」ということであろうか。パイロット事業を工程表の前倒しのタイミングで実施した上での結論がそうであれば、やや説得力が乏しいのではないかと判断し、減点した。
栗原委員	c	—	福崎委員	b+	地域の実情をふまえて、無理な事業計画の実施ではなく、取組みを変更した点を評価。今後、この変更によって支援体制がより充実したか、効果が現れるよう期待する。
須藤委員	b-	1. 事業見直しにより、当初の趣旨から大幅後退。 2. 事業見直し後の目標は達成が容易であり、特に工夫等も見られず「b-」評価。	星野委員	b	概ね目標通りと評価します。
高木委員	b	数値目標を達成し、工程表等のとおり進捗したため。	町田委員	c	地域つながり力再生支援ビジネスモデルの未実施により、目標より遅れていると判断します。地域のコミュニティ創出をしながら、起業家を育てるという施策は、地域活性化につながります。積極的な応援として充実させていただきたい。
高島委員	b	事業見直しもやむなし！	三浦委員	c+	しあわせ倍増プランの目標は、「平成23年度にコミュニティビジネスの支援に向けた制度を創設します。」という内容。 平成23年度内に変更した新たな目標と事業は、相談会やイベント、ニュースレターの発行と、行政直営の単年度事業で、これをもって「制度の創設」とはみなせない。ある程度継続性が担保された「仕組みづくり(組織・体制や継続事業の政策的位置づけ)」を期待しているだけに、目標達成とは評価しがたい。 未達だが努力と工夫が見られるので「c」に加点する。



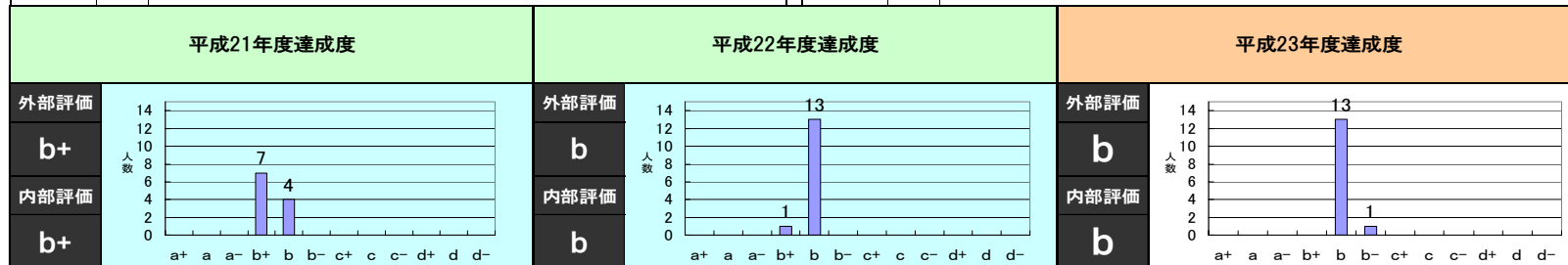
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	57-2	コミュニティビジネスの支援制度を充実します。 (コミュニティビジネス促進事業)	4年以内	・平成24年度末までに、コミュニティビジネス賞の応募件数を69件増やし、累積応募件数31件を100件にします。	①セミナーの開催1回 ②研修会の開催2回 ③コミュニティビジネス賞の応募件数20件	①△セミナーの開催2回 ②相談会の開催2回 ③▼コミュニティビジネス賞の応募件数19件(累計82件)	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断(アイデア募集?)	長野委員	b	概ね工程表通りである。
河西委員	b	コミュニティビジネスのいいアイデアが実現するように支援は継続してください。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	概ね工程表通り
栗原委員	b	—	福崎委員	b	参加者の利便性を考慮し、開催した点。
須藤委員	b	全般的に活動が低調。予算措置も含め、もう少し腰を入れてもよい事業と考える。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	セミナー開催、懇談会の開催など予定どおりの数値実現と判断。 地域密着型の企業形態としての普及啓発活動は今後はより重要になると考える。企業の役割としての社会貢献に期待する。
高島委員	b	おおむね工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。



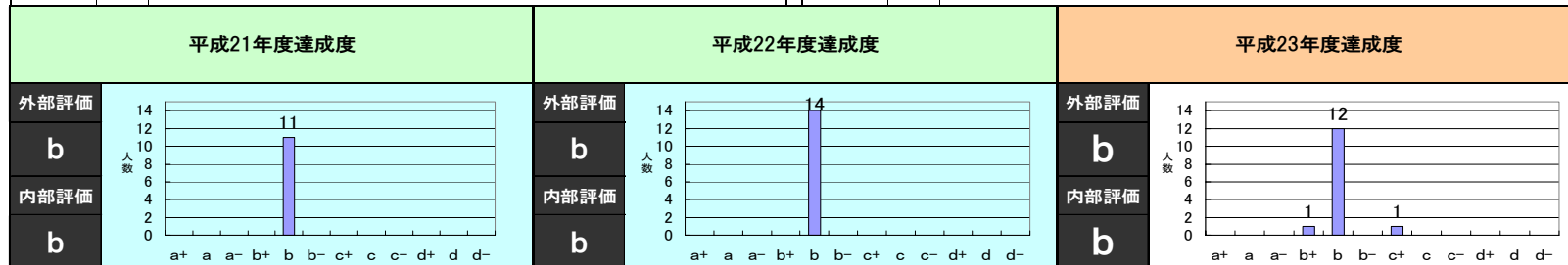
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記と逆の場合		H23年度達成度（内部評価）	
						達成度	評価理由		
経済・雇用	58	中小企業・小規模事業者への融資制度を充実します。	4年以内	・平成23年度から、研究開発を実施する市内中小企業者等向けの融資制度を創設します。 ・平成22年度から、既存の創業支援資金融資制度について、融資限度額の見直しや条件緩和を行います。	①東日本大震災復興緊急保証を活用するなど融資制度の拡充 ②東日本大震災復興緊急保証の円滑な認定事務	①緊急特別資金融資（電力危機対応・年末対応）やセーフティネット資金融資（復興緊急対応）の融資制度を実施した。 ②関係機関と調整を図り、東日本大震災復興緊急保証の円滑な認定事務を図った。	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。	

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	市民への広報が不足であり、内容も理解されてないと思う。	長野委員	b	工程表通りの取り組みである。
河西委員	b	各機関との連携をはかり支援を継続してください。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	概ね工程表通り
栗原委員	b	—	福崎委員	b-	課題の検討について、報告が少ない点。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	融資制度が制定され、具体的な利率も制定されたため予定どおりと評価します。中小企業が、研究開発や新たな知見を見出すことこそ、大企業に対抗できる戦略です。研究や情報を得るためにも財源への支援が有効に使用されることに期待します。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。



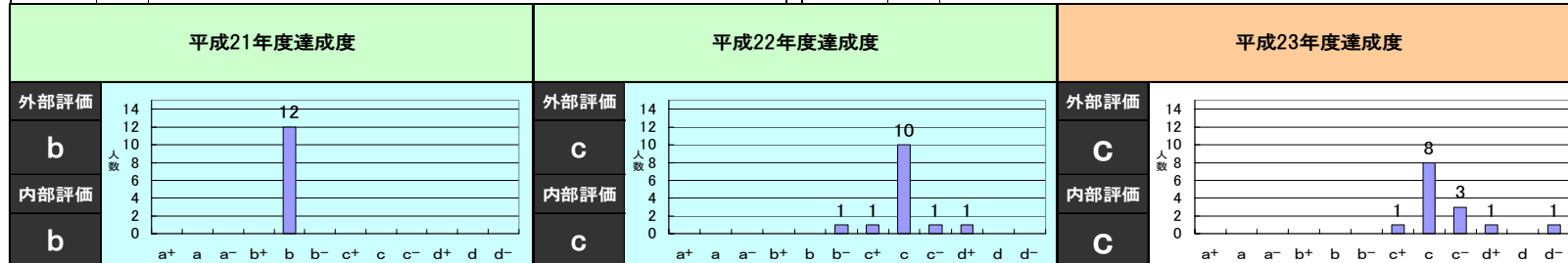
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度の要素 進捗度c、dの要素 取組に何らかの工夫等あり と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	59	企業のCSR活動の認証制度を創設・推進します。	4年以内	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度から、市内企業向けCSR活動をホームページで公表します。 平成22年度から、市内企業を対象としたCSRセミナーを開催します。 平成23年度中に、本市独自のCSR活動認証制度を創設します。 	<ul style="list-style-type: none"> (財)地方自治研究機構と共同で、認証制度創設に向けた調査研究事業を実施する(平成23年7月から3回程度の検討委員会開催等) 	<ul style="list-style-type: none"> ①(仮称)さいたま市CSRチャレンジ企業認証制度(案案)の策定 ②CSRセミナー2012の開催(3月) 	b	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	市民への広報が不足であり、内容も理解されてないと思う。	長野委員	b	工程表に沿った内容と言える。
河西委員	b	引き続きCSR活動の普及促進の働きかけをしてください。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	c+	CSR活動認証制度の創設が未達だが、JISの手引きの遅れのためやむを得ないということで、加点。	廣瀬委員	b	予定通り24年度から認証制度が動き出せる運びとなったので。
栗原委員	b	—	福崎委員	b+	調査研究費を抑えられた点。
須藤委員	b	民間の力を活用し、市の社会インフラを向上させる観点からも、本事業を活性化すべきである。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	平成23年度の予定事業が実現したことで予定どおりと評価。企業活動が社会に影響を及ぼす範囲を多面的に考えなおすきっかけとしてCSR事業の提案はいい機会なのだと思う。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。



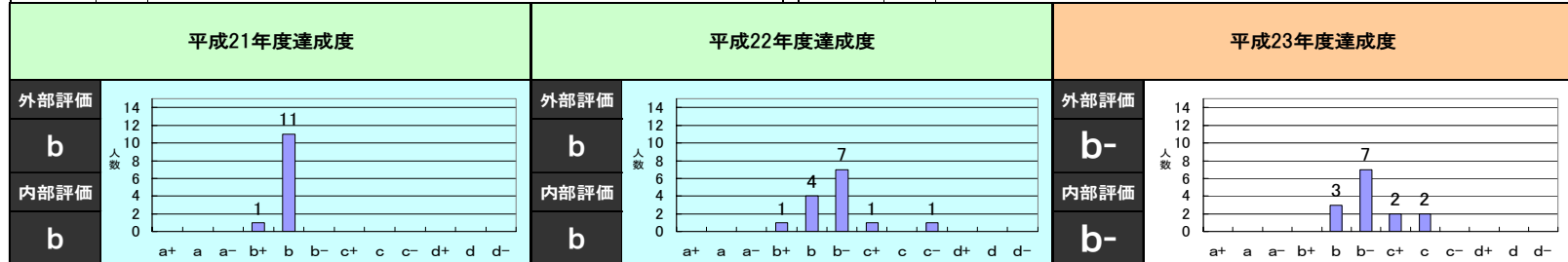
宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
地域間対立 を越えて	60	大宮駅東口再開発は、東日本の玄関口として経済・商業都市としての機能を高める開発を推進します。	4年以内	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度末までに、大宮駅周辺公共用地利用基本計画を策定します。 平成23年度末までに、大宮駅東口駅前広場用地の買収を開始します。 平成24年度末までに、氷川緑道西通線用地の100%取得及び大門町2丁目中地区再開発組合の設立を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ①大宮駅周辺公共用地利用基本計画の策定 ②大門町2丁目中地区再開発基本計画案の作成等 ③氷川緑道西通線の用地取得 ④大宮駅東口駅前広場整備の事業化 	<ul style="list-style-type: none"> ①★基本計画の検討・調整 ②★基本計画案の検討・調整 ③用地取得 ④★権利者等との協議 	C	平成23年度の事業計画に一部遅れが生じていることから「C」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	計画が遅れていると判断。	長野委員	C	当初目標にある計画の策定や、事業課には到らず。
河西委員	C	時間がかかり過ぎると社会情勢も変わります。スピードアップを真ん中において推し進めてください。	橋本委員	C	未達のため。このような事業に関しては金・時間・手間がかかるので、計画に対してズレが生じるのも理解できる。
木島委員	d-	H23年度主な目標4つのうち、3つが遅延しており遅延。さらに、昨年度も遅延しており、ヒアリングにおいては遅れを取り戻せるとしていた案件でありながら、連続して遅延している。評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価とする。	廣瀬委員	C	いずれも基本計画の策定作業から先に進めていないので、cと評価。
栗原委員	C-	—	福崎委員	d+	用地取得については予定通り進行している。予算だけでは進まない問題である「住民との協議・合意形成」が、やはり進んでいない。プランに掲載して重点事業となったが、打開策はあるのか。
須藤委員	C	<ul style="list-style-type: none"> 1. 事業の遅延により「c」評価。 2. 長年の懸案の難事業であり、粘り強い取組みによる実現を期待。 	星野委員	C-	目標が遅れが生じていると評価します。
高木委員	C	目標が未達成であるため。現地訪問をさせていただく中で、大宮駅東口再開発は市の活性化に重要な役割を担うのだと感じました。多くの複雑な課題や問題がありますが、是非力を入れ良いまちづくりを実現していただきたいです。	町田委員	C-	都市計画が制定されていないため予定を大きく遅れていると評価。過去の経過や地域性など、多くの問題が内在することです。先を急ぐあまり感情のしこりがあっても問題となります。環境・生活・自然など多岐に渡る影響を考慮し、制定・整備することが目的とならないよう効果的な施策としていただきたい。
高島委員	C	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	C+	工程は明らかに遅れているが、実施的な事業課題クリアーのための様々な努力と工夫の積み重ねが見られる。



宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度主な目標等	H23年度達成度（内部評価）		
						達成度	評価理由	
地域間対立を越えて	61	地下鉄7号線延伸は、経済性などを十分に考慮し、まちづくりと運動させて推進します。	4年以内	・経済性などを十分に考慮し、まちづくりと運動させた上で、平成24年度末までに事業着手することを目指します。	①これまでの調査の取りまとめを行うため、県・市共同で第三者専門家による検討委員会を設置します。 ②社会経済情勢を踏まえ、事業リスク等に考慮し、鉄道事業だけでなく、まちづくりも合わせ総合的に検討します。 ③▲整備主体等との調整を開始します。	①県と共同で「地下鉄7号線延伸検討委員会」を開催し、調査のとりまとめ・評価を行いました。 ②検討委員会の結果について、市民への報告・意見交換を行いました。 ③▲整備主体との調整には入れませんでした。	b-	・これまでの調査のとりまとめを行うことができたのでbとした。 ・整備主体等との調整に入れなかったことから減点した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b-	検討委員会での検討及び100年後を考えた時の需要予測を配慮すると当然と思う。	長野委員	b-	内部評価の判断は妥当と考える。
河西委員	c	事業をどのように取り組むのかは採算性を重視するか、住民の希望と利便性を重視するかです。時間がかかりすぎです。	橋本委員	b-	概ね、事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。内部評価に準じて、マイナス評価としました。
木島委員	c+	プラン当初の工程表にある整備主体・営業主体との調整・合意、および沿線自治体、関係事業者等との調整が遅延。但し、直接的ではないものの、連携を行っているためプラス評価。	廣瀬委員	b	検討が進められその結果、ただちに整備主体と調整に入れる条件をみたくないことが確認されたので、減点要素とは判断せず、概ね工程表通りと評価。
栗原委員	b-	十分な検討をお願いします。	福崎委員	b	目標設定に、他のプランでも見られるような「何月までに」という設定があると良いと思う。意見交換会への参加者数の説明があった。
須藤委員	b-	事業主体等との調整が開始されないためb-評価。	星野委員	b-	概ね目標通りの進捗と評価します。但し、整備主体との調整に入れなかったので減点評価。
高木委員	b-	整備主体等との調整に入れなかった点を減点評価した。鉄道事業をまちづくりに連動させ、是非市の活性化につなげて欲しいと思います。	町田委員	b	調査段階のための委員会を予定どおり開催したということで予定どおりと評価します。具体的決定には、市民合意や利権関係者との調整など、整備することが経済性や利便性、効率性など多くの要因を総合的に把握して有意義な施策としてほしい。
高島委員	c+	目標に遅れが出ているのでこの評価とした。	三浦委員	c	平成23年度の工程では、整備主体との調整・合意が最も重要な達成目標だったのではないかと。内部評価で、「整備主体との調整には入れませんでした。」とあるのは、明かな遅れと判断する。



宣言分野	事業番号	倍增プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度達成度（内部評価）		
						達成度	評価理由	
地域間対立を越えて	62	市庁舎のあり方は、地域的対立を越えた視点から、市民の声を聞きながら検討します。	4年以内	・庁舎整備検討委員会を適宜開催して、各界・各層から幅広く意見を聴くとともに、議員による合併協定書の議論、行政による庁内検討会議での調査・検討、そして、市民参加による庁舎整備検討委員会での検討といったそれぞれの議論の積み重ねを踏まえ、社会経済情勢の動向等も見極めながら、総合的な視点で庁舎のあり方について検討を行います。	①庁内検討会議の開催（適宜開催予定） ②さいたま市庁舎整備検討委員会の開催（年度3回開催予定）	①2回開催（平成23年11月17日、平成24年3月15日） ②2回開催（平成23年11月28日、平成24年3月21日）	b	・予定どおり幅広く意見を聴取しながら検討することができたため、「b」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	庁舎整備ではなく政令市移行時の約束を守るべきと思う。	長野委員	b	概ね工程表の通りである。
河西委員	b+	みんなが住みたくなる街の象徴になりますように。	橋本委員	b	概ね事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗。	廣瀬委員	b	—
栗原委員	b-	—	福崎委員	b	費用をかけない資料作り、という視点。会議にもパワーポイントを使えばいいと思う。
須藤委員	b	標準どおりの進捗と判断。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	ほぼ工程表通り進捗したため。	町田委員	b	予定していた会議などが実施できた点では予定どおりと評価します。庁舎建築に限らず、市の施設について既存ストックの有効活用という点においても熟考をお願いしたい。庁舎を整備しなかったことで市民が受ける不利益を提示し、検討をすすめていただきたい。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	内部評価と同様と判断する。

